

602  
25

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4

始





海山書

海山書



# 西伯利經濟地理 全

參謀總長男 上原勇作閣下題字  
陸軍大臣 田中義一閣下序文  
陸軍中將 井 染 祿 朗 著  
參謀本部員  
陸軍歩兵中佐

東京外交時報社出版部發行





602  
25



1893

1893

上海商務印書館

天  
門  
山



微

幽

顯

上京勇作題



## 序

西伯利は亞細亞大陸の大半を占め、地積龐大、人煙稀少、實に世界の一大秘庫にして、又將來の一大富源たり。露國之を領してより、開拓纔に其の緒に就きたるのみ。廣袤の大、交通の險、天賦の資源、猶多くは杜塞せられ、朔北沍寒の野として、久しく放置せられたるを憾む。

顧ふに世界民口の増加に伴ひ、生活必需の物資比年漸く供給の難きを加へ、今次の大戦亂に於て國家の存立自給自足に由るの緊切を感せしめたるより、内に其の資源を保存し、外に之が開發を求め、各國争ひて未開の新天地を求むるに急なり。

西伯利は露西亞の西伯利にして、其の開拓は固より露人の事な



序  
二  
り。然れども今日の現状に於ては列強の幫助に待つに非ざれば  
之が達成を望むべからず。殊に境壤相接する東帝國に在ては義  
として之を坐視するを得ず。況や西伯利將來の運命は帝國の標  
榜する東洋和平の維持に最も急切の關係を有するをや。若し夫  
れ、日露人相頼り相扶け以て此の天與の富源を開き相互の經濟  
關係を密接ならしめん乎、兩國の親交益々深厚を加へて永く睽  
離を許さざるに至るや必せり。獨り西伯利に關する研究は從來  
極めて淺く、其の實情茫乎として知るべからざるを以て各國競  
ひて之を究明せんとす。外交時報社主上原好雄君亦憂世の人、此  
の志を抱くや久し。適井染中佐に請ひ、其の研究輯録せる稿本を  
得、印行以て世に問はんとし來つて予が序を求む。中佐は屢々西  
伯利の地を歴遊し、足迹殆ど全土に遍し。後ち又露都に駐在する

こと數年深く其の實情を究め見聞該博、資料確實にして調査亦  
甚だ精到なり。此書を繙けば一讀西伯利に通じ、再讀西伯利を解  
するを得べく、時勢の切要に應じて世界秘庫の管鑰を啓き以て  
將來の文化に資するの關鍵は蓋し此の一冊子に在らん歟。予安  
ぞ喜んで其の需に應ぜざるを得んや。

大正七年十月

陸軍中將 田中義一



## 自序

予幼にして鐸郷齋藤先生に師事し詩を學んで六月の篇に至り  
間ふて曰く文武吉甫萬邦爲憲とは何ぞや吉甫允に武ならば以  
て獫狁を殲すべし何を苦んでか薄く伐つて之を逸せる吉甫允  
に文ならば何を苦んでか懷柔の策を講せざる寔に此の如くん  
ば武功未だ全からずして文勳亦終へず徒に患禍を後世に貽す  
のみ其兵を大原に收めて燕喜之れ事とするに至りては萬邦の  
以て憲となす所以のもの安くにかある先生笑て曰く子他日其  
時を得其處に立ち其位に當らば自ら釋々焉たるものあらんと  
長して武に志し軍に征露の役に従ひ陣中和議の成るを聞くに  
及んで吉甫が文武の事を思ひ以爲らく嗚呼帝德益々翼賛すべ  
きのみと而して大學に兵を學ひ傍ら露清の語を修め志を北溟



に馳す業卒るの後命を奉じて滿蒙西伯利の間を來往すること  
三載孤劍に杖き雲水萍々外蒙を横斷して新疆を過き中央亞細  
亞を経て西伯利の各地を踏む若し夫れ朔北の邊疆に至りては  
概ね足跡を印せざるはなし

悠々たる蒼天の下馬を無邊の曠野に驅るの時興至れば朗々吉  
日の詩を高誦して以て自ら慰む亦之を先生に聞く中原豈眞麀  
鹿のみならんやと予車攻の曲を愛する其意實に此に存す常に  
此意を體して風土を究め習俗を察し所在必ず偉人高士の門を  
叩き見る所聞く所を録し以て研砥の料と爲す性素より魯鈍經  
綸の才なしと雖も亦以て得る所なきに非す幾くもなく任に露  
都に赴き淹留數年公餘諸書を涉獵し又萃むるもの數卷あり歸  
來空しく筐底に藏す

頃者友人上原君來つて露國の時事を語り偶西伯利の近況に及

び其實情の世に明かならざるを慨す予亦其感を同うする者な  
り乃ち筐底を探りて此稿を示す君曰く是れ好資料なり以て世  
の蒙を啓くに足る請ふ公刊せんと予曰く敢て當らず是れ唯研  
究の餘漫録せるもの之を人に示すには編章體を備へず蕪雜次  
を成さず而かも公務匆忙修正の暇なきを奈何せん君曰く文  
にあらざる質にあり何んぞ區々體裁の不備を問はん名を重んじ  
て世を益せざると世を益して名を捨つると孰與ぞ予其意氣  
に感し乃諾して之を君に贈る嗚呼我が大八洲の國民爲すある  
の時を以て爲すあるの國に生る予六月の詩に慨なき能はず此  
書にして若し識者の研究を促すべき楷梯となるあらば何ぞ翹  
吾が幸のみならんや時に大正七年戊午十月三十一日



東都礫川雲峯樓ニ於テ

機孫 井染生

# 西伯利經濟地理目次

第一編 西伯利經濟の基礎條件……………一

第一章 緒論……………一

第二章 西伯利の地文的概観……………九

第一節 境域、位置、地形、面積及人口……………九

一、境域(九) ……二、位置(一〇) ……三、境界線(一〇) ……四、海岸線(一一) ……五、廣表、區劃及人口(二四)

第二節 地勢、氣候、雨量、地質及灌溉……………一七

一、地勢(二七) ……(イ)山系(二七) ……(ロ)水系(二八) ……(ハ)地勢の區分(三三) ……二、氣候(三七) ……三、雨量(三〇) ……四、地質(三三) ……五、灌溉(三四)

第三章 西伯利の人文的概観……………三六

第一節 西伯利經略の沿革大要……………三六

第二節 土着民族の分布、種類及現狀……………四五



キルギス族(四七)……アルタイ族(四八)……黑色韃靼族(四九)……キジリツ族(五二)  
 ……チュリムスキー族(五三)……ヤクト族(五四)……ブリヤート族(五五)……ツ  
 ングース族(五五)……ウオグロ族(五六)……サモエド族(五七)……オスチャギ族(五七)  
 ……カラガス族(五八)……カマシンツ及ユト族(五九)……チユクチ族(五九)……  
 コリヤーク族(五九)……亞細亞エスキモー族(六〇)……アレウト族(六〇)……カ  
 ムチャダール族(六一)……ギリヤーク族(六一)……アイヌ族(六一)……トポーリ  
 スク韃靼族(六二)……バラビンツ族(六三)……ボハラ族(六四)……シヤーマン教(六五)  
 ……土人問題(六六)

第三節 流刑移民の過去及現在……………六六  
 第四節 西伯利に對する移民運動……………一〇三  
 第五節 哥薩克及土地制度……………一三一  
 第一、哥薩克(三三)……第二、土地制度(四〇)

第六節 政治、教育、衛生、宗教……………一四七  
 第一、政治(四七)……(イ)沿革(四八)……(ロ)行政區劃(五〇)……(ハ)行政組織(五五)……  
 (ニ)裁判制度(五七)……(ホ)收稅機關(六〇)……第二、教育(六二)……第三、衛生(六四)……

第四、宗教(六七)

第二編 西伯利經濟地理本論

第一章 西伯利礦産物の地理的分布及礦業狀態……………一七一

第一節 金屬礦……………一七一

一、金(七二)……二、銀(九〇)……三、銅(九二)……四、鐵(九四)……五、錫、鉛、黑鉛、ニッケル、安  
 質尼、其他雜金屬(九七)……(イ)錫(九八)……(ロ)鉛(九八)……(ハ)滿俺(一〇一)……(ニ)亞  
 鉛(一〇一)……(ホ)安質尼其他(一〇三)……(ヘ)石墨、黑鉛(一〇四)

第二節 非金屬礦……………一〇三

一、石炭(一〇三)……二、鹽(一二九)……三、硫酸曹達及硫化曹達(一三五)……四、石油(一三六)  
 ……五、雲母(一三八)……六、石綿(一三六)……七、粘土(一三七)……八、寶石(一三七)……九、大理石、  
 石灰石及石材(一三八)……十、硫黃(一三九)

第二章 有用植物の分布及農林業……………一二三〇

第一節 有用植物の分布……………一二三〇

第二節 農業地域の地理的分布……………一二三七

第三節 農耕法及穀産業……………一二四七



一、西伯利に於ける農耕法(四七)……二、農業用機械(二五三)

**第四節 蔬菜及牧草**……………二五四

一、蔬菜栽培業(二四四)……二、煙草の栽培(二五五)……三、甜菜の栽培(二五六)……四、牧草の栽培(二五六)

**第五節 園藝及林業**……………二五七

一、果樹の栽培(二五七)……二、漿果(二五八)……三、工藝用植物(二六〇)……四、森林(二六〇)

**第三章 動物の産業的利用と牧畜漁獵**……………二六四

**第一節 牧畜業**……………二六四

一、牛類(二六六)……二、牧馬(二六七)……三、養豚(二六八)……四、羊及山羊(二七〇)……五、綿羊(二七二)……六、馴鹿(二七三)……七、養禽(二七四)……八、駱駝(二七五)……九、養蜂(二七八)……十、畜産食料諸品の輸出(二八〇)

**第二節 漁業**……………二八三

一、西伯利の漁業地域(二八四)……二、渡り魚及地方魚(二八五)……三、極東に於ける漁業(二八九)……(イ)ニコライエフスク地方(三〇〇)……(ロ)西南地方(三〇三)……(ハ)樺太地方(三〇四)……(ニ)オホーツク地方(三〇五)……(ホ)勘察加西海岸地方

(ハ)勘察加東海岸地方(三〇六)……(ト)マリンスク地方(三〇九)……(チ)ハバロフスク地方(三一〇)

**第三節 狩獵業**……………三一一

一、狩獵地域(三一二)……二、黑貂(三二四)……三、栗鼠(三七七)……四、狐(三八八)……五、黄貂(三八八)……六、兔(三九二)……七、他の毛皮獸類(三九三)……八、鳥類(三九四)……九、狩獵方法(三九六)……十、狩獵動物數の減少(三九九)……十一、養獸業(三九七)……十二、臘虎(三九八)……十三、臘豚獸(三九九)

**第四章 工業**……………三二九

**第一節 手工業**……………三二九

**第二節 工場工業**……………三四四

**第五章 牛酪製造業**……………三五八

**第六章 商業**……………三七三

**第一節 西伯利商業の沿革**……………三七三

一、掠奪的商業時代(三七三)……二、經濟的束縛時代(三七六)……三、獨占貿易時代(三七七)……四、西伯利鐵道開通以後(三八〇)



第二節 輸出及輸入

- 甲、輸出(三六三)……一、穀産物(三六三)……二、畜産物(三六五)……三、毛皮其他(三六八)……四、沿海州の輸出状況(三六八)……五、外人による輸出の弊(三九二)
- 乙、輸入(三九三)……一、輸入の概況(三九三)……二、農具(三九五)……三、代辨者來集の功過(三九六)

第三節 定期市(ヤルマルカ)

- 一、西伯利開通以前の定期市(三九七)……二、西伯利開通以後の定期市(四〇二)……三、商業中心地の變遷(四〇五)

第四節 對支貿易

- 一、對蒙貿易(四〇七)……二、露蒙の貿易路(四〇七)……三、蒙古市場の經濟的價值(四二二)……四、對滿貿易(四二四)

第五節 對日貿易

- 一、對日貿易(四二五)……二、對日貿易の概況(四二五)……三、對日貿易の將來(四三一)

第六節 西伯利商業の將來

- 一、西伯利商業に及ぼす諸影響(四三二)……二、穀物市場の必要(四三三)……三、西伯利鐵道開通後の商業(四三四)……四、露國政府の對西伯利政策(四四〇)……五、

自由港問題(四四四)

第七章 財政及金融

- 第一節 財政……………四五〇
- 第二節 金融……………四六二

第八章 交通及通信系統

- 第一節 交通系概説……………四七一
- 第二節 陸路……………四七四

第三節 鐵道

- 第一、既設鐵道(四八四)……一、西伯利鐵道概説(四八五)……二、幹線各部區(四八九)……(イ)オムスク鐵道(四八九)……(ロ)トムスク鐵道(四八九)……(ハ)後貝加爾鐵道(四九四)……(ニ)黑龍鐵道(四九五)……(ホ)烏蘇里鐵道(四九九)……三、枝線(五〇二)……(イ)オムスク、チユーメン線(五〇二)……(ロ)タイガ、トムスク線(五〇二)……(ハ)スバスキザラード、カラガチンスキー炭礦間(五〇二)……(ニ)エスキバズーツ、イルツイシユ埠頭間(五〇三)……(ホ)亞爾泰鐵道(五〇三)……(ハ)エルガ、コルチユギン間炭礦



鐵道(五〇四)……(ト)ボダイボ狹軌鐵道(五〇四)……(チ)黑龍鐵道諸枝線(五〇五)……  
 (リ)蘇城鐵道(五〇七)……(ヌ)蘇城炭礦狹軌鐵道(五〇八)  
 第二、建設及計畫中の諸鐵道(五〇八)……一、北方歐亞連絡鐵道(五〇九)……二、ベ  
 ーリング亞米連絡鐵道(五二二)……三、タウチンスク鐵道(五二二)……四、トポリ  
 スク、チューメン鐵道(五二二)……五、クルガン、アトバサール線(五二三)……六、ス  
 ラヴゴロド線(五二四)……七、ペトロバウロフスク、スバースキ線(五二四)……八、  
 南西伯利鐵道(五二五)……九、クズネツク、テリベス線(五二七)……十、ミヌーシ  
 スク、アチンスク線(五二八)……十一、ボロウスクヌエ輕便線(五二八)……十二、エ  
 ニセイスク、トムスク線(五二九)……十三、ツルン、ウイテム線及イルクーツ  
 ク、ボダイボ線(五二九)……十四、恰克圖鐵道(五二二)

**第四節 河運及海運**……………五二一

第一、河川路(五二二)……一、西伯利河川の航行性(五二二)……二、オビ河系(五二二)……  
 (イ)オビ河本流(五二七)……(ロ)イルツイシユ河(五三〇)……(ハ)トミ河(五三五)……(ニ)  
 チュルイム河(五三二)……(ホ)オミ河(五三三)……(ヘ)トポール河(五三三)……(ト)ツール  
 河(五三三)……三、エニセイ河系(五三四)……(イ)ミヌシンスクの上流部(五三五)……(ロ)

ミヌシンスク、クラスノヤルスク間(五二六)……(ハ)クラスノヤルスク、エニ  
 セイスク間(五二七)……(ニ)エニセイスクより下流部(五二七)……(ホ)アンガラ河  
 (五二八)……四、レナ河系(五二九)……(イ)上流部(五三〇)……(ロ)中流部(五三二)……(ハ)下流  
 及三稜洲(五三三)……四、黒龍江系(五三四)……(イ)本流(五三四)……(ロ)ゼヤ河(五三四)……  
 (ハ)ブレヤ河(五三四)……(ニ)セシムツヂエ河(五三四)……(ホ)アムグニ河(五三七)……  
 (ヘ)烏蘇里河(五三七)……(ト)アルグン河(五三七)……(チ)シルカ河(五三八)……(リ)インゴ  
 タ及オノン河(五三八)……五、セレンガ河及貝加爾湖(五三八)……六、西伯利河川  
 路の經濟的價值(五五〇)……七、運河工事(五五三)  
 第二、海路(五五三)……一、沿海州方面(五五三)……二、オホーツク、勘察加、ペーリン  
 グ方面(五五七)……三、北水洋航路(五五九)

**第五節 通信系統**……………五五九

一、郵便(五五九)……二、電信(五六〇)……三、電話(五六六)

**第九章 西伯利の經濟的中心地**……………五六八

沿海州

(1)浦鹽斯德市(五七三)……(2)ハバロフスク市(五七七)……(3)ニコリスクウスリ



- スク市(五八)……(4)ニコライエフスク市(五八九)
- 樺太州
- アレキサンドロフスク町(五九〇)
- 勘察加州
- (1)ペトロバウロフスク市(五九〇)……(2)ギジガ市(五九二)……(3)オホーツク市(五九三)……(4)マルコヲ市(五九二)……(5)アヤン邑(五九三)
- 黒龍州
- (1)プラゴウエシチエンスク市(五九四)……(2)アレキセイエフスク市(五九五)……(3)ゼヤ市(五九六)
- 後貝加爾州
- (1)チタ市(五九六)……(2)ウエルフネウージンスク市(五九七)……(3)ツロイツコサーフスク市(五九八)……(4)セレンギンスク市(五九九)……(5)バルグヂン市(五九九)……(6)アクシヤ市(六〇〇)……(7)ネルチンスク市(六〇〇)……(8)スレーチエンスク邑(六〇二)
- イルクーツク縣

- (1)イルクーツク市(六〇二)……(2)ニージネウーヂンスク市(六〇三)……(3)バラガンスク市(六〇四)……(4)キーレンスク市(六〇四)……(5)ウエルホレンスク市(六〇五)……(6)ボダイボ町(六〇五)
- エニセイスク縣
- (1)クラスノヤールスク市(六〇六)……(2)エニセイスク市(六〇七)……(3)ミヌシンスク市(六〇七)……(4)カンスク市(六〇八)……(5)アーチンスク市(六〇九)……(6)ツルハンスク市(六〇九)
- ヤクーツク州
- (1)ヤクーツク市(六一〇)
- トムスク縣
- (1)トムスク市(六一二)……(2)ノラニコライエフスク市(六一三)……(3)バルナウール市(六一三)……(4)ピースク市(六一四)……(5)マリンスク市(六一五)……(6)カルイワン市(六一六)……(7)スラヴゴロド邑(六一六)……(8)カーメン邑(六一七)……(9)カインスク市(六一八)……(10)クズネーツク市(六一九)……(11)タタールスク市(六二〇)……(12)ポゴトール市(六二〇)……(13)タイガ市(六二〇)……(14)ナルイム市(六二二)……(15)ズメイノゴルスク邑(六二三)



アクモリンスク州

- (1) オムスク市(三三三) (2) ペトロバウロス市(三三三) (3) アクモリンスク市(三四四) (4) コクチモ、ターウ市(三五五) (5) アトバサール市(三五五) (6) トボーリスク縣

- (1) チューメン市(三五六) (2) クルガン市(三三七) (3) トボーリスク市(三三八) (4) イシム市(三三九) (5) タラ市(三四〇) (6) チュカリンスク市(三四〇) (7) ヤルトロフスク市(三四〇) (8) ツリンスク市(三四二) (9) ベレゾーフ市(三四三) セミバラチンスク州

- (1) セミバラチンスク市(三四三) (2) バウロダール市(三四三) (3) ウスチカメノゴールスク市(三四四) (4) カルカラリンスク市(三四四) (5) ザイサン市(三四五) (6) コクペクト市(三四六)

第十章 西伯利の經濟的前途……………六三六

- 一、農業(三三七) 二、畜産業(三四〇) 三、礦業(三四三) 四、園藝業(三四三) 五、漁獵業(三四四) 六、精製工業(三四五) 七、西伯利の對世界經濟的使命(三四六)

西伯利經濟地理目次(終)

西伯利經濟地理

陸軍歩兵中佐 井 染 祿 朗 著

第一編 西伯利經濟の基礎條件

第一章 緒 論

露國邊疆としての西伯利の地位、並に其の世界的意義

世界地圖に對して吾人に最も典型的なる曠野の感を與ふるものを求めんか、瞻視は亞細亞の北邊簡粗大なる西伯利の上に止らずんばならず。渺茫際なき接天の大平野を求むれば、北米にミシシッピの流域あり、南米にアマソンの平原あり、されど前者は曠野と謂はんには餘りに文明の施設に滿ち人烟稠密に過ぎ後者は其流域の上流地方に於て幾多小國に分割せらるゝあり、下流に於て山脈の走入



し來るありて、廣袤比類なき一大盆地の觀はあれども曠野の感に至りては甚だ薄きを覺ゆ。獨り西伯利が眞に典型的なる曠野の感を與ふる所以のものは管に眼際遮るなき茫茫たる寒野を思はしむるが故のみにあらずして、寧ろ人跡未到の地域に富み實情世に知られざるもの多く傳奇的氣韻を帶ぶること大なるが故ならずんばあらず。

露國の西伯利經略以來、茲に三百年嘗ては唯貴重なる毛皮の朝貢に甘んじ次では重犯刑人の流竄地として囚徒不逞の跳梁に委して顧みず徳化の及ばざる治績の擧らざる已に久しく而して近く前世紀の末葉是れが經營に着手し益々銳意力を邊疆の開發と充實とに注ぐに至れりと雖尙精確なる踏査を遂げたる地域は未だ其全面積の二割強に過ぎずと稱せらる、加ふるに露國政府の常套たる秘密主義は内に之を掩ひ外に之を秘して實情を知らしむるを厭ひその經濟統計の如きも永く官廳の筐底に埋もれて世に出でず、西伯利は依然として草味荒涼たる曠野の域を脱せず神秘の畧圍に包まるゝの狀にありき、されど、こは西伯利が露國の邊疆として世界の大局に於て多くの將來を有する唯一の強味とする所にして、其の大部踏査未だ到らざるに拘はらず已に露國第一の金產地たり林產地たり又地下二

十數尺腐土に成れりと稱せらるゝ蒼茫たる沃野を擁しつゝ、而も人口稀薄にして一方露里平均一人弱、其の稀薄なる地方に於ては〇、七乃至〇、〇〇一にすぎざるが如き、將來必ず原料と食糧とに惱まざるべき世界の經濟界に於て如何に重大なる地位を占むるに至るべきかは既に今日に於て之を察するに難からず。

西伯利は、露西亞の邊疆なり、左れど其尨大なる偉體は廣袤東西八千露里南北四千露里、面積一千二百萬餘方露里に達し、歐羅巴露西亞に比すれば其の二倍有半に當る之を其大に見るも露西亞の邊疆といはんよりは寧ろ世界の邊疆を以て稱するを當れりとせん、而して之れをその位置及び地形の大體より見るに、其西部は歐露の延長と認め得べく北に低く南に高さ北露の平原と相類似するありと雖レナの流域及貝加爾以東の地域に至りては純乎たる亞細亞の北邊にして滿蒙の延亘せるものに外ならず、貝加爾以西、イルツイシユ流域に至る間地勢は兩者の中間に在り、而して之を地文的、人文的乃至は博物的に觀察すれば全西伯利を通じて全く亞細亞の共通點の歴然たるを認むべく、此意義より論すれば西伯利は之を以て亞細亞の邊疆と稱するを妥當なりとせん。

露書西伯利の住民を舒するや常に曰く



「西伯利には實に二十數種を以て數ふべき土着民族の住するあり然れ共其數極めて微々たるものにして全然露西亞人の領域を以て稱すべく、現時に於ける異種族民は二割に過ぎずして其八割は露西亞人なり而して西方に到るに従ひ露西亞人の數を増し、トボリスク、トムスクの二縣に於ける異種族民は七分弱にも達せず他は悉く露西亞人なり」と無心に之を讀まんには西伯利の全土露人を以て充滿せらるゝの感なきにあらず、されどこは其數極めて微々たる土着民との比率に過ぎずして其實數に至りては之を龐大の地積に對し甚だ寥々たるものあり、之を經り之を營むの實力に至りては尙極めて微々たるの實情を察するを得べく従て世界の進運が長く西伯利の開發を此微力に委すべきや否や識者を待たずして之を推すを得べけんのみ。

由來西伯利の天然と其地理的條件とは、到底經濟的及び文化的發達に有利ならざるものあり、北は常に浮氷を滿えたる北氷洋の海波に洗はれ、南は踏波困難なる山脈にあらざれば際涯なき砂漠を以て封せられ、經濟的吞吐の端は遠く東西に隔絶して有無外に通ずるに難く文化内に及ぼすに難し、此の如き不利なる地理的關係に基く經濟的及文化的困難とに對して露國の最近經營せる拮据努力の功績は

決して尋常一樣のものにあらず、二十世紀初頭に於ける西伯利鐵道の全通は西伯利の天地を一變し之れをして其窮塞せられたる天然の厄境より脱せしめたり、而して更に歩を進めて旅大に其吞吐の港灣を獲んとして成らざりしと雖而かも日露の戦役は西伯利に新なる開發の機運を與へたること極めて大なるものあり、加ふるに戦後東方文化の旭光に醒めて邊疆防備の充實に焦慮し戦後財政の窮乏をも意とせず巨億の國帑を投じ鐵道を改善して複線となし、又更に黒龍鐵道の敷設を企て其他交通諸般の設備を整ふると共に移民規則を改めて極度に之を奨勵し千九百六年乃至同十三年の間五億に餘る財を散じて四百萬に近き人口を移植し了はり、之れが爲め西伯利の産業は異常の速力を以て發達し昨の荒涼たる曠野は黄穰漠々たる沃野と化し收穀市に出づるもの堵をなすに至り養豚養蜂牛酪製造の如き副業に至るまで需給の自然に促されて長足異常の進歩を伴ひ西伯利經濟界の面目燦として新なるを見る、而して更に今次世界の大戦に際し西伯利は其農産及礦産原料の資源地として急遽開發せらるゝ所多く、加ふるに西伯利鐵道は露國唯一の補給線として交通般賑を極むるあり、之れが爲め少くも西伯利に三十年の進歩を與へたりとは識者の等しく唱ふる所にして嘗ては囚徒流竄の鬼界を以



て目せられたる邊疆も今や重要な露國の資源地たるに至れり而かも斯は主として露國農民に依りて開かれたる西伯利天賦の僅少なる一部に過ぎずして之を以て其全豹を推さんには其眞價の測り知るべからざるを想はしむ。

斯くて自然の窘迫より脱離開放せられたる西伯利は漸く神秘の境を出づると共に露國邊疆の地位を脱して重要な世界的意義を帯ぶるに至らんとす。世界の邊疆中恐らく西伯利の如く最も近き將來に於て世界的意義の重大を加へんとする者なかるべし。マルサス人口論が暗示せる世界に於ける食糧の不足は、嘗ては遠き將來の現象にすぎずとして深く顧みるものなかりしが現時世界戦争はこの人類の寒心すべき大事實を眼前に齎らしつゝあり。各交戦國は互にその食糧を制限して持久の策を立てつゝあるも、こは必ずしも戦争を俟たずと雖も、來るべき事態にして、戦争は唯その機運を促進せるにすぎずとも見るを得べし。即ち戦後世界復舊の状態に到ると雖も食糧問題は世界の切實なる問題として残るべきは明かにして此際に於て最も豊富なる食糧供給地たる西伯利の地位は如何なるべきか。又現大戦争の促せる異常なる技術の進歩は工業原料の需要を激増し、戦後之れが需給益々大なるべき趨勢に對し、礦産に林産に無限の資源を包蔵する西

伯利の地位は如何なるべきか、尤大なる曠野豈夫れ露國の邊疆として看過せらるゝを得ん。

加ふるに今次の大戦は西伯利鐵道に課するに一層世界的の意義を以てせり、嘗て露國が邊疆防備の充實と開發とを以て銳意經營せし此鐵道は從來と雖一方に於て歐亞連絡交通線として世界的意義を帯びたるには相違なきも、今次露國唯一の背後補給線として太平洋の水を通じて遠く北米大陸鐵道と連絡するに至り一層世界的意義を廣汎ならしめたと共に西伯利をして一層世界的に開放するに至れるを感せずんばあらず。現大戦は北米合衆國に巨大なる富を蓄積し、餘力は遠く西伯利に伸びつゝあり、彼の精密にして大規模なる機械と技術とは西伯利に送られ、奥地の開發促成せられ、草昧の北邊悉く文明の福利に浴すべきこと近き將來に到達せんとしつゝあり、現時に於ける米國勢力西伯利侵入の實際を目睹するものは、形勢の推移餘りに必然的なるに張目せざるものなかるべし。列強亦奚んぞ拱手傍觀するものならんや、斯くて西伯利は逐日世界的意義を加へつゝあり。世界的利害關係圈内に入りつゝあり。若夫れ無爲にこの形勢を看過する者あらんには到底來るべき世界の國際競争場裡より落伍するの外なかるべし。吾人は



西伯利の經濟的地位と實情とを詳細にせざるべからず、而して西伯利の世界的意義を解せざるべからず、豈夫れ一日の逸豫を許さんや。

## 第二章 西伯利の地文的概観

### 第一節 境域、位置、地形、廣袤、區劃、人口

#### 一、境域

西伯利の名稱は、原と一都城の名稱にすぎざりしが、露國が漸次版圖を東方に擴張するとともに、其の名稱の範圍も漸次擴大せられて、十九世紀に到りては、西は烏拉爾山、北は北氷洋、東は太平洋に及び、南は朝鮮、滿州、蒙古、及中央亞細亞の沙漠地方に接壤し、此の尨大なる大面積は自然地理上渾然たる一區域を形成せり。されど其境域に就き學者に依りて、異論なきにあらず。即ちキルギス地方の併合せらるゝに到り、此の地方を西伯利に包含せしむるものなるや否やに就き爭論あり。非包含論者は、此地方を包含せしむるを以て、地理的統一を缺くとなし、曠原地方の名稱を附して寧ろ露領中央亞細亞中に包含せしむるの可なるを説くなり。而して之が爲めには從來西伯利の一部たりし地方即ちイルツィッシュ河及タボール河流域以南を中央亞細亞たらしめんとすなり。されど、斯は寧ろ西伯利の自然地理的境域上に人爲的分界線を設けて、西伯利の一部を強て中央亞細亞に包含せしめん



とするものにして、吾人の採る能はざる所なり。キルギス曠原地方は、寧ろ西伯利の自然的境域の延長にすぎずして、全く別箇の自然的境域をなすものにあらず。キルギス地方を包含するセミバラチンスク、アクモリンスク二州は、到底西伯利より分割する能はず該二州は之れを西伯利に包含せしむるを至當とす。

## 二、位置

西伯利は、亞細亞洲の全北部を領し、本土は北緯四十二度二十一分より北緯七十七度三十六分に達し、東經五十九度三十三分より東經百七十四度二十四分に達し、最北端はタイムル半島のチエリウスキン岬にして、最南端は日本海岸豆滿江の河口なり。最東端はチュクチ半島のデジネフ岬にして、最西端はウラル山嶺なり。

## 三、境界線

而して北は北氷洋岸の延長八千餘露里に亘り、氷結せる寒洋を擁して北極に連り、東はベーリング海峡、デジネフ海峡を挟んで北米合衆國のアラスカ半島と相對し、東海岸はアナディル灣を抱きて南走し、勘察加半島は東岸を南に延びて、千島海峡によりて我が千島に對す。勘察加半島は西伯利本土と相對してオホーツク海を湛え、樺太州は北緯五十度を分界線として我が樺太と接壤せり。黒龍江口より

南走せる平滑なる海岸は又一方韃靼海峡、間宮海峡を隔て、我が樺太に對し、更に南に延びて我が日本本土と日本海を抱けり。而して其の南端は豆滿江に依り我が朝鮮と連接す。

陸界線を見るに、豆滿江に於て朝鮮に接せる境界線は長白山脈の延亘せる支脈に沿ひて北上し、凱興湖に達し、その排水路たる烏蘇里河に沿ひ、黒龍江との合流點に更に屈折し、黒龍江を挟みたる此線に依り支那の滿洲吉林省と接す。更に黒龍江に沿ひて西北行し、アルグン河の合流點よりは該河に沿ひて西南に走り、滿州里に至る線を以て黒龍江省に接壤し、更に西走し、シルカ河及ヤプロノイ山脈の一部及サヤンスク山脈に沿ひ、進んで亞爾泰山脈を傳はりて西南カルハシ河を渡り百哩の地點に到る線に依つて外蒙古と相接す。

斯くて支那國境と分れたる境界線は西行し、バルハシ湖に沿ひ、キルギス地方を横斷し、アラル海の東方より北上して、烏拉爾山脈の南端に達し、以て中央亞細亞に境す。烏拉爾山脈の線は北氷洋に達して歐露と區劃す。

## 四、海岸線

北氷洋海面には、ドーギル島、ベイレイ島、ウイルキーツ島、ジビリヤコーツ島、ウエチ



ネーラヤ島、タイムイル島、スマラヤ・ニコライヤ島、ハイガラースキー島、新シベリヤ諸島、新シベリヤ島、フアドリュウ島、コテーリ島、ベリコフ島、ベネタ島、リホーフ島、スクルフ島、ヘンリク島、ジャンネッタ等、ヤローク島、熊諸島（コルイム河口の小島嶼）、アイオン島、ウランゲリヤ島等の屬島を有し、太平洋面にはアラカムチンゲン島、ラウンチャ島（米領）、ゲオルギヤ島（米領）、イトツイグラン島、カラク島、ペーリング島、メードヌイ島、シウチ島、オリスキ島、スーヤタヤイオーナ島、シヤンタル島及樺太島等を有す。

更に半島の大なるものを見れば、北氷洋岸には、オビ河口のローヤマル半島、エニセイ河口北部のタイムル半島あり、東方には、チュクチ半島あり、太平洋面に南に出でたるものには、勘察加の大半島あり、更に小半島クイゴノース半島の突出せるを見る。西伯利の北氷洋岸は、若し氣候の嚴烈にして一年の大部分凍結して航海の不便微りせば、實に舟泊に便なる幾多の理想的海灣を有す。オビ河口のオビ、タースの二大入江は陸地に突入する數百露里、夏季解氷の候は深碧の靜波を湛ふ。エニセイ河口の入江は百露里の灣入を有し、タイムル灣、ハンタスキ灣は陸地に入るこゝと深く、更に東方、ノルドウイク灣、ヤーナ灣あり、チャルイ灣は廣大にしてカシンチユリコ灣は最東部に位す。更に太平洋岸の港灣を見るに、此方面の屈曲は勘察加

半島の突出を除きては、大屈曲に乏しく小屈曲に富む。即ちチュクチ半島のスウヤータヤウウレンチャ灣、ベンチクワ灣は小灣なれども、アルブリト岬よりフィオデア岬に到るアナヅイル海は稍大なる屈折をなす。而して内にスーヤタヤタレスタ、コンチラン、アナヅイルの三灣を包有す。ナワリン岬よりオリユートル岬に到る間は海岸平滑にしてデシネウ、アスタナーン、シエリユボチャンの三淺灣あるにすぎず。勘察半島は東岸屈曲に富み、西岸一の灣入を有せざるに反し、パロンコルフ、ウキン、カムチャト、クロノーツキー、アワチャ、ウイサユチンの諸灣を有せり。オホーツク海岸は又小屈曲に富み、ペーンジン、キジカの二大灣を始めヤーム、パーブシキヤ、タウイ、ベルンジャ、ナターフ、ニリネイスカヤ、シルキ、スウヤタヤフイオート、チミカンの諸灣及ミウカン、アマフロン、モチクルの諸入江あり。黒龍江口には良灣多く、聖ニコライ、ウヂバン、ツングール、ウードの諸灣あり、日本海岸には、聖ウラヂミール、オリガ、アメリカ、ヴァイクトリヤ（浦鹽斯德）、ボシエトの諸灣あり。

而して岬角の名あるものは、北氷洋岸にては、ヤルマル、チエリウスキン、ヤカンの諸岬にして、ペーリング海岸にては、ラジネフ、アルブリト、フィオデア、ナワリン、オリユートル、カムチャト、チャムヂヤ、シブンスキー、及勘察加半端のロバトカ岬なり。オホー



ツク北西岸にては、マメチン、ヂリン、ゲイテワフ、ヒヤギン、アソリ、ムルク、及ノタダンの諸岬にして樺太島の北端をなすエリサベータ岬及マリヤ、リセンシオルナの二岬名あり。韃靼海峡及日本海岸にはボワロートヌイの突出あるにすぎず。

##### 五、廣袤、區劃及人口、

西伯利の廣袤は、諸調査に於て矛盾撞着甚しく其の正鵠を得たるものを得難しと雖も、最近發表(一九一三、四、五、六)に係る各州縣の年報及農商務省移民局彙報に準據して之れを見ること略正確に近きが如し。之れより得たる西伯利の同面積は千二百萬三千四百三十三平方露里、即ち約四百八十三萬平方哩にして、歐洲全土の一倍半、歐羅巴露西亞の二倍三割、新領土を加へざる我が日本の約三十二倍に相當せり。

更に西伯利の區劃を見るに、自然的地理的の境域の區劃は略政治的區劃と一致し、また西伯利の天險貝加爾の狹隘を以て東部亞伯利を更に極東地方となし、エニセイ河流域以東を東部西伯利となし、其の以西を西部西伯利となせるは、自ら理由なしとせず。而して極東地方は更に之れを勘察加州、樺太州、沿海州、黒龍州、及び後貝加爾州となせるが、之等諸州は自ら自然的の境域を成せり。沿海州は朝鮮の國

境豆滿江岸よりオホーツク沿岸を北に延び、勘察加半島を包容し北チユクチ半島をも包含したりしが、斯は著しく自然的境域を顧みざる極めて不自然なる傾きあり。遂に一九〇九年の勅令に依り、新にアヤン邑以北を劃して勘察加州を設置せるが、是れ極めて自然的區劃に隨順せる措置たりき。樺太州は元と沿海州に屬せども、一八八四年以降分離して獨立行政の一州となれり。斯は寧ろ沿海州に屬せる自然的境域なるが、流刑移民政策上より特別の行政施設を要するものありしが故にして、分離せるも、元來獨立の島嶼なれば其の理由無きにもあらず。されど一九〇五年の日露條約に依り今日の如く狭小なる地積となるに到つては果して此の區劃も或は行政上の不便なきや否や。

東部西伯利は、ヤクーツク州、イルクーツク縣、エニセイスク縣の二縣一州に劃せるが、大略自然的區劃に従ひ、而も沿革上よりの區劃にも該當せるを見る。

西部西伯利の區劃は、自然的境域よりも寧ろ沿革的區劃を重んじたる所多く、之れを分つてトムスク縣、トボリスク縣、セミバラチンスク州、アリモリンスク州となせるが、この後者二州を西伯利に包含せしむるや否やに付きては學者の間に議論あること前述の如し、吾人は寧ろ積極説を採る。



今各州縣の面積及人口を表記すれば左の如し。

州縣名	面積 <small>平方露里</small>	人口 <small>人</small>	<small>一平方露里ニ付 キテノ人口割合</small>
勘察加州	一、一四三、四一〇	(約)三六、〇〇〇	〇・〇三人
樺太州	三五、〇〇〇	九、三六一	〇・二六八
沿海州	六七二、九二七	六一九、一八五	〇・九人
黒龍州	三五三、二二八	三二九、二七五	〇・九三人
後貝加爾州	五三九、〇五九	九三四、一七四	一・七人
イルクーツク縣	六三八、一九八	七五〇、二〇〇	一・一人
ヤクーツク州	三、四八二、五三三	(約)三三〇、〇〇〇	〇・〇九人
エニセイスク縣	二、二三三、九二八	一、一三四、二〇八	〇・五人
トムスク縣	七四四、五七六	四、一八八、五七二	五・六人
タボーリスク縣	一、二一九、二二九	二、〇五一、七七一	一・七人
セミバラチンスク州	四四二、二四五	九〇六、四八二	二・〇五人
アクモリンスク州	四七九、二〇〇	一、五二五、五四三	三・一八八
總計	一一、〇〇三、四三三	一一、八三四、二七一	平均(一平方露里) 一・〇〇人

### 第二節 地勢、氣候、雨量、地質及灌溉

地勢、氣候、雨量、地質及灌溉等は、國家の經濟活動及國民生活の方向を定むる最も重要な要因にして、西伯利の經濟的觀察に當つて先づ其の實情を審らかにせざるべからず。之れが觀察に當り、便宜として箇々に分離して之れを視れども、之等を綜合して、更に他事象と關聯せしめて視る時始めて重要な意義を生ずるなり。

#### 一、地勢

##### (イ) 山系

西伯利の地勢を之を東西に見れば東に高く西に低く之れを南北に見れば南に高く北に低し。即ち東南部には山多く西北に次第に低く傾斜して所謂西伯利の大平原を成せり。南方にはタルバガタイ、大亞爾泰、小亞爾泰、サヤンスク、ヤプロノイの諸脈國境附近に連亘し、亞爾泰山彙のビルカ峰は一萬一千呎に達し他は概ね八千呎を最高とせり。ヤプロノイ山脈は貝加爾湖東、ウイテム河東を東北に走る。こと千餘哩にして、アルダン河水源地に於て大興安山脈の延長たるスタノボイ山脈に合す。

大興安嶺より延びてオホーツク沿海に連れるスタノボイ山脈は北緯六十二度附



近に於て、Y字形にウエルホヤンスク山脈を西北に分派し、自らはチュクチ半島に延びてベーリング海峡に達せり。而して途中また一分脈を出せるが、こは更に屈折して勘察加半島に到り、勘察加山脈を成せり。勘察加山脈は、千島火山帯を受けたる西伯利唯一の火山帯にして、十四五座の活火山を有し、其の最高峰クリスチ山は一萬六千餘呎に達す。ウエルホヤンスク山脈は、レナ、ヤナ兩河の間を北走し、ヤナ灣に没せるが、高きも五千呎を超えず。

中央西伯利には、貝加爾以北にレナ、エニセイの分水嶺連亘せるが一體に低く、タムル半島に到つてピランガ山彙を形成せり。

西部には烏拉爾山脈歐露との境界をなせるも、一體に低くして其最高峰トールボス山と雖も五千五百四十呎に達せるのみ。更に其の南方にコンヂャコフスキー(五三九五呎)イレメル(五〇四〇呎)の二峰あるも、一般に峻險ならざる山勢は未だ東方諸山彙に於けるが如き交通の妨害をなすこと少し。

#### (ロ) 水系

西伯利の地勢は概ね北方に傾斜せるが故に、南方山岳及森林帯等に涵養せらるる水は、皆北流するを常とす。而して諸河流の支流は、又皆方向を北西若くは北東

に取るが故に、僅少の運河を開鑿すれば舟楫の便は頗る便なるべきも、氣候寒烈にして結氷多く、且人口貨物に乏しく其利益を享受すべき機短小なるを以て未だ此種の計畫を立つるに到らず。今主なる河系を擧ぐれば左の如し。

#### オビ河、

源を亞爾泰山に發し、曠野帯を緩流してイルチシ河を合せ、森林帯に入り凍土帯中に進み幅三十哩乃至四百五十哩の峽灣によりて北氷洋に注ぐ。全流程三千二百哩に達す(こはオビ入江の長さを加算す)。而して峽灣に注ぐ河口の幅は五哩に達し深さ十五尋に及ぶものあり。流域の大なること實に西伯利第一なり。本河は冬期凍結すれども夏季舟運の便頗る大にして且つ漁利多し、されど北米ミシシッピ河に比すれば經濟活動に資する所遙かに小なること論を俟たず。

#### イルチシ河、

源を同じく亞爾泰山に發して西北に流る、こと二千三百哩に及びオビ河第一の支流なり。其沿岸にトムスク、タボリスク等の都邑あり。本河は其の源流をウルグンと稱する湖河の潜流に受け黒イルチシとなり、露領に入り五派に分れず、イサン湖に入り之れを出で、漸くイルチシ河と稱するものもあり。



## エニセイ河

上流に二派あり。共に源を北蒙古に發し、一をウルケン河と稱しサヤンスタ山脈の南を巡り、一をアングラ河と稱して北邊に發して一旦貝加爾湖に入り、更に出で、エニセイスクの南方に於てウルケン河と會し、北流して中、下のツングスカ河を入れてエニセイ灣に注ぐ。流程二千五百哩を算す。下流に於ては幅十二三哩乃至十五六哩の三角洲を擁き舟運の便はオビ河に及ばざること遙かなり。

## ツングスカ河、

エニセイ河に右方より注ぐ一大支流にして上、中、下の三流あり。上はエニセイの本流にして、中ツングスカはボトカメンツングスコイに於て、下ツングスカはトロイチキに於て本流に本流に注ぐ。

## レナ河、

源を貝加爾湖西畔の貝加爾山脈に發し、東北に流れて、ビチム、オレクマ、アルダン等の支流を入れ北流して、ノルデンシェルト海に注ぐ。流程凡そ二千八百五十哩なり、本河は東部西伯利に於ける最大河にして河身往々五六哩以上に達する所あり。而して河口は七派に分れ、又廣大なる三角洲を形成せり。流域地方の人口猶未だ

密ならず河川の利用盛んならず。されど上流の金礦地方に於ては汽船を浮べて運輸の便に供せり。

## 黒龍江

亞細亞大陸東岸の大河にして其名アムールは大河の義なり。シルカ、アルグンの兩源あり。共に北部蒙古に發し、前者は直ちに西伯利に入り、後者は暫らく支那境上を流れ相合して後、東にオノン河を入れケルロン河を合せ、滔々として滿洲との境界を劃し、北方よりゼヤ、ブレヤの兩河を入れ南方よりは松花江を合せ、東北に走り烏蘇里河を入れ河口附近に到つて更にアムグン河を合せニコライエフスク港に到つて韃靼海峽に注ぐ。其の流程二千七百五十哩なり。本河は大汽船を以て江口より千五百哩の地點迄遡航し得べく、吃水五尺の汽船を以てせば更に上流に上るを得べし。レナ、エニセイ、オビ諸河の如く極寒地方に注がざるが故に氷結の度少く、交通産業國防上に資する所實に大なり。ロシア勢力の東漸は此の河流に負ふ所蓋し大ならざるを得ず。

此他北氷洋を注ぐものを擧ぐればエニセイ以東にハタंगा、アナバラ、オレネク、(二、二五〇哩)の三河あり。更にレナ以東にはヤナ(七五〇)ピアシナ、インデギルカ、コ



リマ(一、〇〇〇)等あり。されど何れも文化上經濟上に資する所殆んどなし。大平洋方面に注ぐものにはアナヅイル、カムチャッカ等あり。

西伯利大河の成因を考察するに、雨量少くして年中僅かに二三百耗にすぎざるにも拘はらず以上の如き大河を有するは、(一)南方の連山が水蒸氣を冷却して雨雪を降らし水源を養へると、(二)氣候冷涼にして流域地方の流水を蒸散せず、且つ地面の大部分氷結して水分を浸透せず悉く之を河道に向つて放流するに因ると斷せざるを得ず。更に湖水の主なるものを擧ぐるに、

#### 貝加爾湖

亞細亞洲第一の淡水湖にして、長さ四百哩幅二十五乃至六十哩、面積約一萬三千方哩を有す。大約我九州に等し。深さ往々千四百四十米を超ゆる所ありて實に世界の最深湖たり。而も本湖は海拔四百七十六米の地方に位し、毎年十二月より翌年五月迄湖面全く結氷し水の厚さ五呎に達す。夏季は汽船の往來頻繁なり。

#### バルハシ湖

キルギス草野地方の東南境にあり、支那人は之を西海と稱す。長さ三百三十哩幅六乃至五十哩、面積凡そ七千五百方哩なり。伊犁河其他六河流注入すれども、無

口湖なるが故に鹽分年々増加し今は鹹味極めて強し。平均水深約二十米にして海拔二百四十米の地點に位す。

#### 凱興湖

沿海州と北滿吉林省との境上にあり、面積凡そ千七百方哩に達し魚族頗る豊富なり。されど湖底淺く湖岸は蘆荻蒼々として水禽多く、一帯に交通の便少し。

其他南方亞爾泰山地方にザイサン湖(面積約千二百哩)あり、ステップ地方にチャン、テバギーズ湖あり。北方凍土地方にはタイムイル湖エゲゼッセイ湖あり。其他小湖沼殆んど數ふるに違なし。

是等諸湖中文化上經濟上軍事上最も意義あるは貝加爾湖にして之れに亞ぐは凱興湖なりとす。バルハシ湖はその地方氣候風土酷烈なるものありて人類の文明乃至文化に資する所尠し。若夫れ凍土帶地方の諸湖沼に到つては一年の大部分湖底迄凍結するものありて漁利と雖も之を得難し。

#### (ハ) 地勢の區分

西伯利の地勢は、一般地理學者は之れを四帶に分つを例とす。北緯六十五度以北を凍土帶とし、北緯六十五度より五十五度に到る間を森林帶とし、その以南西伯



利南部の大山脈地方に至る間を曠野帯となし、その以南山脈地方を山嶽帯となす。されどこは三大河流域地方の西半部に對する區分にして、レナ河以東バイカル湖以東は、この區分を以て律すること能はず。即ち四帶地方と東部地方とに分ちて説述せん。

凍土帯は北氷洋の海岸に沿ひ地勢卑低にして、北氷洋の寒風を防ぐものなきが故に寒氣は深く奥地に及び就中其最も遮るものなき平坦なるオビ、エニセイ河口地方にありては無樹帯深く南に入り込み曠茫たる蘚苔地を成せり。凍土帯は一帯に氷結し、夏季に於ても地下漸く約一米突の氷解を見るのみ。而して渺茫たる大平原は僅かに野苔、紅覆盆子、紅莓苔等の寒帶植物を生ずるのみにて、一の樹影を見ず、世界最寒地と稱せらるゝヤクーツク附近は地下二百七十呎は悉く凍土なりと稱せらる。されば此の帯内にある湖沼は、嚴冬に到れば水底迄悉く氷結し、河川亦氷結せざるものなし。此地方は一帯に水禽多く、又水禽を捕へて食とする馴鹿多し。

森林帯は凍土帯の以南にして、此地帯は東方に到るに従つて廣く北氷洋に近づき凍土帯を狭小にす。曠茫たる西伯利の中部を東西に貫きて存する密林帯は、殆

んど萬古斧鉞を入れざる大自然林にして銀松、樺、新羅松、赤楊等の喬木は鬱葱として繁り、その間には熊、狼、大鹿、黒狐、黒貂、栗鼠、其他の獸類徘徊馳驅しつゝあり。

曠野帯は西伯利に於て最も經濟的價値を有する地域にして、更にトボリ、イルツキ、シニ兩河畔及イシム河沿岸のイシムスカヤ平野と、イルツキ、オビ兩河間に於けるバラバ平野と、其の東南方に連なるクルヂンスカヤ平野との三部に分たる。この中バラバ平野は廣袤最も大にして地味肥沃且つ氣候温暖なるが故に、最近に於て移民の集まること最も多く、農産物に於て漸次西伯利の諸地を壓せんとする情勢にあり。三平野共に西伯利の農産地にして、其の産する所の小麥、裸麥は西伯利鐵道に依り歐洲の中心地に輸出せらる。バラバ平野の西南方には多くの鹽湖を有し鹽業を營むもの多く、且つ野草に蔽はるゝが故に、其南部に於ける高原地方と共に牧畜に適せり。

山岳帯は曠野帯の南部を指すものなれども、その南部の多くは中央亞細亞の高原草野に連なり、山岳を以て目すべきはウラル連山と亞爾泰山彙となり。ウラル連山は多く本國露西亞に屬して亞細亞に屬するものは僅かにその一部の半斜面及枝脈の走入し來るあるのみ。されど礦物の豊富なること既に名あり。亞爾泰



山麓は西部西伯利平野の東南隅に位し、地質は太古期に屬し河谷は迂餘曲折して一の山脈網を形成せり。地勢急峻にして河谷に於ける農業は、プフタルマ河岸及山麓地方に行はれ、山嶺の間を點綴せるアルプス草地の高原に於ては牧畜に適する所少からず。この高臺地方は現に亞爾泰族韃靼族の異種民族に依りて牧畜行はるゝも、地質上必ず近き將來に於て採鑛業盛んなるべき運にあり。

東部地方に於ける西伯利の地勢は、概ね山地にして、到る所峻嶒險岳重疊して農業牧畜に適する如き地域は比較的狭小にしてアバカン河の沿岸(牧畜業に適す)アルグン、アガ、オノン諸河の沿岸の平野(後貝加爾州)ゼヤ、ブレヤ河間の三萬方露里(黑龍州)烏蘇里河及同河へ合流するビキン、イマンの諸河谷及凱興湖沿岸(沿海州)は此地方に於ける農牧地たり。ヤクーツク州に於て農業に適する地域は、オレミンスキー區及ヤクーツキー區の南部地方に過ぎず。概して東部西伯利は西部西伯利に比較して平坦地に乏しく、且つ一般に海面より數百尺の高地延伸するが故に農牧の發達に有利ならず。されど東海岸は世界に於て有數なる魚族豊富の地方にして、且つ獵虎海豚臘臍の海獸多く、又森林地は良材に富み、黑貂、黑狐等の毛皮獸棲息し、山岳の饒多は殊に金屬及鑛石類の豊富なるべき條件を有するが故に將來

この東部地方に於ける採鑛冶金業は必ずや盛大なる勃興を期すべきなり。

## 二、氣候

西伯利は、三大河北に流れて南方高く北方低き地勢を形成せるが故に、凜烈なる北氷洋の寒風を遮るものなく、又南方よりする暖風は、多くアルタイ、サイアンスク連山に依りて遮られ、且つ海岸地方にはスタノポイ大山脈ありて太平洋の海風を遮るありて歐羅巴の同緯度地方に比較し氣温著しく低下せり。西伯利の大部は、少くとも一年約三四月間は、氷點下の温度にして、殊に春秋二季は極めて短かく北部地方は全く此二季を有せず。而も寒暑の差甚だしく、純大陸性の氣候に屬せり。トポリスク及トムスクの二縣に於ける一年間の平均温度は、攝氏二度より零度の間を上下し、トポリスク縣の南部諸郡及地勢低き亞爾泰溪谷地方は、比較的高くして平均温度一度乃至三度を有せり。ミノーシンスキー郡附近の曠原地方は、更に高くして二度乃至二度半なるも、冬期夏期の温度の差甚しく、而も夏期晝夜の温度の差著しく、殊に八月の交に於て最も大なり。

ヤクーツク州は西伯利に於ける最寒地にしてウエルホヤンスク附近は世界の最寒地と稱せられ、氣温往々零下五十六度に下り水銀の凍結すること一歳の中實



に百九日の多きを算すと云ふ。一年の内約三分の二は地表水を以て蔽はれ夏期の短かくして過ぎ易きは言を俟たず。

イルクーツク縣及後貝加爾州は其地勢海面より高きが故に氣候一般に寒冷五月二十日頃迄寒氣尙凜烈なることあり又九月初旬に於て已に降雪を見ること少からず。後貝加爾の氣候は寒冷此の如くなるにも拘らず天氣快晴にして空氣乾燥し健康に適す。黒龍州は一年の平均温度を約一度半とす。冬は西北風多く寒冷にして乾燥し夏は東南風多くして温濕なり。概して大陸的にして寒暑激烈なると共に乾濕亦激烈の差を有す。沿海州は海岸地方比較的寒暑の差少なくして奥地に到るに従て差大なり。浦鹽斯德に於ては冬期嚴寒の時と雖も零下十度を超えざるにハバロフスクに於ては零下二十度を超え盛夏に於ても後者の温度前者に超えたり。勘察加樺太二州に於ては海岸地方なれども太平洋及オホーツク海に於ける寒流の影響を受けて寒氣激甚なり。アレキサンドロフスキに於ては列氏零下廿五度に達する日稀ならずされど夏は暑氣激甚ならずして凌ぎ易し。

州	縣	名	觀測地名	盛夏一ヶ月平均温度	嚴冬一ヶ月平均温度	一ヶ年平均温度
後貝加爾	イルクーツク	イルクーツク	イルクーツク	二五・〇〇	二五・四一	二二・五八
	ハバロフスク	ハバロフスク	ハバロフスク	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・五八
	浦鹽斯德	浦鹽斯德	浦鹽斯德	二二・〇〇	二二・〇〇	二二・五八
	アヤン	アヤン	アヤン	二五・〇〇	二五・四一	二二・五八

西伯利各地氣溫表

(單位攝氏(一)零下)

黒龍	沿海	勘察加	樺太	イルクーツク	エニセイスク	ヤクーツク	トムスク	トボーリスク	阿克モリンスク	セミパラチンスク
アルパツ アラゴツ エシチ エンスク	ハバロフ 浦鹽斯德 アヤン	アヤン	キーン イルクーツク	クラスノ ヤルスク	エニセイ スク	ウラツ ホヤン スク	ウラツ ホヤン スク	ウラツ ホヤン スク	ウラツ ホヤン スク	ウラツ ホヤン スク
(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)
一五・九 一四・四	二二・四 二二・〇	二五・〇 二四・二	二七・二 二七・一	二八・一 二八・二	二八・一 二八・二	二八・一 二八・二	二八・一 二八・二	二八・一 二八・二	二八・一 二八・二	二八・一 二八・二
(-) (-) (-)	(-) (-) (-)	(-) (-) (-)	(-) (-) (-)	(-) (-) (-)	(-) (-) (-)	(-) (-) (-)	(-) (-) (-)	(-) (-) (-)	(-) (-) (-)	(-) (-) (-)
二七・五 二七・五	二二・〇 二二・〇	二五・四 二四・八	二七・九 二七・九	二八・九 二八・九	二八・九 二八・九	二八・九 二八・九	二八・九 二八・九	二八・九 二八・九	二八・九 二八・九	二八・九 二八・九
〇〇・四 〇〇・七	三一・五 三一・五	二二・三 二二・三	二〇・三 二〇・三	二〇・三 二〇・三	二〇・三 二〇・三	二〇・三 二〇・三	二〇・三 二〇・三	二〇・三 二〇・三	二〇・三 二〇・三	二〇・三 二〇・三

斯く西伯利の氣候は寒氣酷烈にして人口増殖を妨げ、經濟生活の發展阻害する



と雖も、この獨特なる氣候は、獨特なる地質と地勢と相俟つて、獨特なる天産物を育成し、黒狐、緑狐、黒貂の毛皮獸を出し、養鹿業を生じ、麥類を産出せり。されど西伯利に於ける經濟生活は、斯る氣候の天恵を利用することは極めて微小にして、この氣候の下に如何に生活し、行動すべきかの消極條件をなすにすぎず。西伯利に於ける經濟活動は、先づこの消極條件の考量を以て出立せざるべからざるなり。

三、雨量

西部西伯利は、歐露と比較するに、雨雪の降下量概して少し。即ち歐露に在りては一年間の平均降雨量四百五十乃至五百耗なるに、西部西伯利にありては三百乃至三百五十耗なり。東部西部を通じて全西伯利に於て最も降雨量多きは、夏期數月間にして就中七八月の交最も多く、冬期の降雨量は東部西伯利に於て殊に尠し。西部西伯利に於て最も降雨量多きは、トボリスク縣の中部及トムスク縣の南部即ち最も良質なる土壤を有し人口最も稠密せる地方なりとす。西部西伯利に於て比較的鮮き降雨量は、裸麥よりは寧ろ小麥に適するが故に小麥耕作を盛んならしめたり。而して冬期雨雪の降下量少なきを以て秋蒔に適せず、春蒔を多しとす。東部西伯利に於ても冬期降雪少きが故に又春蒔もの盛んに行はる。夏期植物繁

茂期に於ける降雨量の多きは、殊に小麥耕作を利用すること大なり。加之小麥は、外國市場に於て他の穀物より遙かに價格高きを以て、西部西伯利に於ける夏期間の雨量は、小麥の發育に十分なる程度に到らずして、凶作を招くこと往々あり。斯く西部西伯利に於ては、夏期早魃の害を受くること屢なるに反して、沿海州の夏期の雨量は、同州は冬期の降雪量甚だ尠し、著しく多量なり。七八兩月間此地方と同一

西伯利各地雨量表 (單位ミリメートル)

州縣名	觀測地名	一年間雨雪量	州縣名	觀測地名	一年間雨雪量
後貝加爾	バルグダエン ワエルフネン チタ	一九三、四 二六〇、九 二七三、八	ヤクーツク	ヤクーツク附 近	一九三、〇
黒龍	アルパチン アラゴグエチン エカテリノニコリスク	二九八、〇 五〇六、六 五〇六、六	エニセイスク	クラスノヤル スク附近	二一三、五
沿海	ハバロフスク 浦羅斯德 アヌチーノ	五四九、〇 七四二、〇 七四二、〇	トムスク	トムスク附近	三三〇、〇
樺太			トボリスク	トボリスク 附近	四七〇、〇
勘察加	アヤン ベトロバウロフスク ギジカ	一〇一、六 二九〇、〇 二一八、〇	アクモリンスク	アクモリンスク 附近	二〇七、〇
イルクーツク	イルクーツク	七一一、〇	セミパラチン	セミパラチン スク附近	二五〇、〇



緯度を吹く東南の定期風は、無量の水蒸氣を沿海地方に齎らして、二三週間に亘つて沛然たる豪雨を降下することあり。されどこの植物成長期に於ける過量の降雨は、沿海州に於ける穀物及牧草の質をして不良ならしむる害あり。こは沿海州の農業に取りて避くべからざる一大障害なりと謂はざるべからず。

#### 四、地質

地質の良否は氣候の良否より以上に住民の經濟活動に影響を及し之を支配す。凍土帯は、烏拉爾山脈よりエニセイ河に到る間はオビの低地にして、太古期の結晶的岩質を平滑にせる上に、海底沈澱物の厚き層を以て蔽ひたる、農耕に對しては實に理想的の沃土たり。更に東方レナ以東に到るも瘠土を以て目すべきの地なし。されど、北水洋の水風は遮るものなき低平の地を跳梁して遠く西伯利の奥地に入り、齎らす所の寒氣を以て地下數十尺を凍結せしめ、耕耘を不能ならしめたり。森林帯は、帯内に多くの沼澤地を有するが故に濕潤なる泥土若くは灰色又は褐色の腐蝕土より成り、その開墾後の肥沃なることは、西伯利に於ける農業拓殖の速度さまで大ならざるに、森林區域が農業殖民に侵入さるゝにつきて之を見るべし。西伯利の地質中最も興味あるは、西部西伯利の黒土なり。其地層と化學的成分

とに於ては、南露西亞の黒土と異らざるも、後者の如く連續地帯内に存せずして分散状態にあり。されどその本来の地質が具有する肥沃の度は毫も南露地方に劣ることなし。唯此の地方に於ける農業が、南露の如き優秀なる成績を擧ぐることはざるは、乾燥せる且つ不順なる氣候と雨量の乏しきより生ずる結果にして地味の齎らす結果にあらず。西伯利の最も豊饒なる地質地方は實にこの黒土地方に存し、イシムスク及パラバ原野に於ける黒土帯は、肥沃の度劣れる異地質の地域と相交錯して、クルヂンスク原野及亞爾泰山麓地方に走進せり。イシム河岸の黒土帯は、アクモリンスク州に入り、ヌーラ河に沿ひて連亘せり。アクモリンスク、及セミバラチンスクの兩州は、其北部は黒土と鹽澤と混淆せる黒土帯に屬するも、兩州の大部にして南部なるステップ地方は、栗色又は淡褐色の粘土質の土壤を有す。エニセイスク縣の地質は多種多様にして、黒土帯に屬する地域ハ、アチンスキ、グラス・ヤルスキ、カンスキ、ミノーシンスキの四郡にして、森林帯に近き部分は殊に地味良質にして、就中ミノーシンスキ郡良好なり。

イルクーツク縣に於ける黒土帯は、オカウダ、ベーラヤ、及びアンガラ河及其支流の河谷に連亘して、イルクーツクに達し、更にレナ河上流方面に向ひ之れに沿ひて、



バラガンスキ、ウエルホレンスキ兩郡内に到れり。

ヤクーツク州に於ける優良地質帯は、オレクミンスキ、ヤクーツキ兩地方にして、紅色を帯べる粘土質の土壤を有す。されど土壤の温度極めて低きが爲めに、その腐蝕力遅緩にして培養力の薄弱なる缺點あり。後貝加爾東南部の高原地方は、土壤乾燥して農業に適せざるも、牧畜業に適す。黒龍州は粘土質及深度淺き砂粘土質の土壤多く、その良地質帯は、ゼーヤ、ブレイヤ兩河沿岸の半沼澤地方なり。其の土質は、暗黒色を帯びたる腐蝕土なり。沿海州の地質は、略黒龍州の地質と等しく、就中最良質を以て稱すべきは、南部地方の河谷地帯及凱興湖畔なりとす。該地方は地域大ならずと雖も、氣候比較的温和なるが故に農牧養蜂園藝に適し、西伯利に於ける人口の密度高き一地方をなせり。

勘察加州は、西伯利に於て最も地上の變化多き地方にして、地質は半島附近は火山岩質にして地味膏腹ならず樹木少きも、オホーツク地方には間々樹木鬱蒼たる森林地翠綠滴るが如き林叢地の點在するあり。されど氣候風土人類の生息に適せず、人口従つて稀薄なり。

## 六、灌漑

西伯利の河川は、(一)其の流域の分散せると(二)其の下流及河口地方が寒氣酷烈にして殆んど無人地帯なる(三)數ヶ月間結氷に鎖さる等の原因によりて、交通上西伯利の經濟生活に寄與する所小なりと雖も、その水量の豊富なることは、上流地方の雨量少なきに苦しむ農牧業に灌漑の便を與へて、産業に直接の裨益を與ふること大なり。而して最も灌漑施設の發達せるは、氣候乾燥せる後貝加爾州と農業盛んなる西部地方とす。尤も當地方に於ける耕地には、水稻の産なきが故に、唯旱魃を防ぐが爲めの灌漑にして、耕作用の灌漑にあらず。この目的のために山地地方にては、溪流を利用し、其他は河川より幾多の溝渠を設けて引水すること逐年増加の傾向あり。後貝加爾州に於ては、各郡少きも數十露里、多きは千數百露里の人工溝渠を設けて、耕地の灌漑を計れり。西部地方にありては、ヴォルガ、オビ、兩河を連絡せんとする大運河開鑿の工事ありて、溝渠開鑿到る所に行はれ、就中文明最も進み多くの大都會を有し、農業最も盛んなるトムスク縣に於ては、縣内灌漑溝渠の縦横に開かれたるを見る。アクモリンスク州に於ては、イルツィユ河交通灌漑の便に富むと雖も、高原地方の旱魃を防止すること能はず、農作物及牧草の被害毎年少からずと謂ふ。セミバラチンスク州は、住民の多く無智なる土人にして、農耕業の



要部を占むるものは、哥薩克族なり。本州は一帶に旱魃多く農作物の害さるゝもの多きも住民遊惰にして、人工的施設を加ふるに到らず。唯ザイサン郡に於て灌溉用溝渠の設あるを見るのみ。トボールスク縣に於てはオビ上流地方に於て灌溉の利用あるを見るも、他は數デシヤチンにすぎざる許多の沼澤を有する林沼地方にして之等による天然の濕潤を得るに止まり、未だ灌溉の必要を生ずる迄、農業の發達を見ず。

### 第三章 西伯利の人文的概観

#### 第一節 西伯利經略の沿革概要

西伯利の開拓は、ノールウオゴロド人が烏拉爾山を越えて、ユーグル地方の遠征を企てし時に始まる。時に西曆一〇三二年なり。ギユリヤータ・ロゴールウイチ氏の著書には(一〇九六年)既に毛皮と鐵器との交易に關して説述する所あり。ユーグル人等は十二世紀の終に於てノールウオゴロドに朝貢せしが、爾來ノールウオゴロドとの往來頻繁となり、ノールウオゴロドの遠征家アレクサンドル・アバクモノウイ及びリヤールバは、オビ河の中流及下流地方を探險せり。ノールウオゴロド人は、一四八三年更に大規模

なる遠征を行ひしが、その成功後イヴン三世は、ユーゴルスコエ地方の王なる榮稱を冠するに至れり。其他一五五五年エデケラ(韃靼王)の莫斯科に朝貢するあり、西伯利各地の諸王露國に朝貢し來るもの漸次其數を増しぬ。

然れども露人の東方に對する積極的行動は、實にカザンスキ・アストラハンスキー王國の征服及びストロガ、ノールウイの兄弟が烏拉爾地方に殖産的の目的を以て強固なる植民地を組織したるにあり。抑も、ストロガ、ノールウイ兄弟が諸方より移民志望者を招集し、殖民を開始し、軍隊を編成して一小國を形成し、ユーグル地方に其根底を確立せんと企てたるは有名なる事實なりと雖も、而も之等は單なる暫時的の成功にすぎすと謂はざるを得ず。何となれば、西伯利の征服は、雄大なる計劃の下に充分なる人員を擁し、以て軍事的行政的大手腕を有する者の手に依り始めて之を庶幾し得可りしなり。而して斯の第一人は實にエルマークなりとす。エルマークが斯の如き偉業を達成し得たるは素より彼が非凡なる才幹に依ると雖もまた當時の機運に投じたるものならずんばあらず。即ち一は從來此地方に威を振へる韃靼王國漸く衰頽に傾きたると、一はノールウオゴロド、ブラコフ地方を領せるイヴン四世の暴虐なる壓政がその領内の露人をして他地方に逃走せしむる



に到りしが故なり。此等露人は、烏拉爾山以東地方は黒貂其他諸種の天産物に富めるを聞知し此の自由なる樂境に無盡藏の財寶を獲んと企圖し、陸續之れに向はんとするもの頻出せしかば、エルマークは此等冒險者流を糾合統率して西伯利遠征を遂行せしものにして、恰も好し此時に於ける西伯利の韃靼王族は、衰頹其極に達せるが故に、殆んど無人の境を行くが如く、彼をして擅に其志を遂げしむるに至れるなり。

エルマークの西伯利遠征は、一五六九年に始まり、一五七一年十月二十六日西伯利王國の首府に達し之を占領し、チンギトウラ市、チユメン市を建設するに到り、當時の莫斯科政府は、西伯利將軍の職を置き、西伯利政廳を開きたり。エルマークは、一五八四年八月不幸にして陣中に歿したりしが、露人の西伯利經營施設の歩は益東方に進展し、一五八八年ボラ河イルチ、シユ河の會合地トボーリスク市を建設し、一五九二年に至りベルイム、ナリム、ベレゾフ、オブドルスク、タラの諸邑を築き、一五九四年より一六〇〇年に亘りて、マンガゼヤ、トウリンスクの二城を築けり。一六〇三年クジネツキー市を建設するに至り、茲に始めてキルギス族との衝突を起すに到れり。後、キルギス族殊にカルムイク人を防禦するが爲めに、防禦線を構成するに

到りしが、この防禦に當りし露人等は幾くもなくオイラトスキー同盟を締結し、其の勢力日に盛大を極めたり。蓋し之等防禦線都邑等を建設せんには夥多の人衆を必要としたりしが故なり。

十七世紀の初頭、露人は已にエニセイ河の上流に現はれ茲にアバカンスキー市を建設せり。サレドニノ地方に現はれたる露人は、概ね一地方に割據定住することなく、恣に其住居を棄て或は東方に或は東南に或は山地に或は曠野に流浪せり。而して之等の流浪者は地方の土着民族と雜婚し、其後裔は現時エニセイスク縣のアチンスキー郡、ミヌシンスキー郡ニ存在するを見る。

現時のトムスク縣の東方及びエニセイスク縣の南部地方は、エニセイスク・キルギス族に依りて支配せられ、西部西伯利より移住し來れるチウリムスキ族、キジリスキー・クタル族、メレーツキー族、カチンツ族等その治下に屬し、更にアリンツ、アツサアン、トウバンツ、モトロフ、ベリテルビリユス、コイバルの諸小種族及びコンドンムラッサ、レベデ、トミの諸河或は其支流の谷地に生息せる黒韃靼族をも支配し其の勢力全西伯利に列びなかりき。故に露人の此地方に入るや、先づ衝突したるは之等のキルギス族にして、十七世紀の殆んど全世紀は、彼等との争鬭に送られた



り。又キルギス族は、亞爾泰系に屬するオイラト族と争闘せり。この精悍なるキルギス族の制御は實に西伯利統治上に於ける一大難事たりしやの觀あり。

現時のタボリリスク縣より南方及び東南方に移動せる露人の移住は、十七世紀に到り著しく發展し、エニセイ河を遡りてサヤンスキー山脉に達し、又テレーツコイ湖畔に及べり。有名なる當時の旅行者ピント氏は、その紀行中に當時ケムチン河畔に於て露國商人に出會せるを記述せるが、及露國貴族メレンゾハの著に成る地圖に依て見るも、露國は當時既に此地方を覈査せること實に精且細を極めたり。該地圖の記する所を以てせば、露人は、エニセイ河の支流ハケマの水源地方及テリノル湖地方を熟知せしこと明らかにして、又後貝加爾地方又は蒙古に通ずる道路も亦詳らかなりしのみならず、氣候極惡にして寒氣酷烈なるヤクトック地方に到る迄露人の探究精なりしを知るを得。

一六〇〇年、シャホーウスキー、フリブノウイ等に依りマンガゼーの堡砦を建設せられしが、露人は茲にユラーク人と接觸するの端緒を發せり。該種族は極めて慍悍にして永く露人に歸順するを拒み、十九世紀に至り始めて露國に朝貢せり。一六〇七年、マンガゼーの堡砦よりエニセイ河に沿ひて歩武を進め、トゥルハン河

口に至りて茲にトールハンスク堡砦を建設せり。一六一〇年、露人は既にエニセイ河口に達し一六一八年エニセイスクに築砦し、翌年マコウスクの堡砦を完成せり。當時レナ河に關する諸種の風聞露人の耳朶に達するもの漸く多かりしが、その探險の企てられしは一六二七年なり。即ち此の年エニセイスク市より二團の探險隊組織せられ、其の一隊は哥薩克のワシリー・ブル之れを率ゐて、レナ河の探險に従ひ、一隊はマクシム・ベルヒリエフ之れに將とし、ブリヤート種族の征討に當れり。ペリヒリエフは其目的を達すること能はずして、單にアニガラ・ツングース種族をして朝貢せしめしに過ぎざりしが、ブルは遂にレナ河の上流に達するを得たり。キレンスク市の創設はこの行に依つて遂げられたり（一六三一年）。更にガルキンは、一六三九年イリマ河よりレナ河を下り、キレンスクを経て、その下流に至りニコリスクの堡砦を築けり。然れども露人がレナ流域に於て其の開拓的基礎を確立せるは、哥薩克の隊長ベクトウイがヤクトックの堡砦を築けるにあり。時に一六三二年なり。斯くてヤクトート人の反抗を壓服しつゝ、哥薩克は容易にレナ河口に出づるを得たり。

レナ河口の發見後幾くならずしてヤン、インデギルギ及コリマ河口の發見あり。



インデギルギ河口に於ては、勇悍にして衆多なるユカギル人の反抗に遭遇し、以後永く彼等との争闘絶えざりき。一六四三年、ワシリ・ポヤルコフはアルダン河及其支流を遡り、翌年遂に黒龍江に達し、その河口を發見し、二人のギリヤク人を伴ひ海を渡りてレナの上流に出で、一六四六年ヤクーツスクに歸れり。ポヤルコフの此の遠征は露人が始めてオホーツク海に出でたるものにして、露人に於ては極めて重要な地理學上の大發見たるを失はず。

翌一六四七年、哥薩クのセメヨン・デジネフ、亞細亞洲の東北端を踏破し、亞細亞洲米利加兩洲間の海峡を調査せり。されば該海峡は、其後七十年にして命名せられたるベーリングとよよりは寧ろデジネフ海峡と稱するが適切なるべし。デジネフの探險後、オホーツク海岸にコソイと稱する堡砦を築造せり。現時のオホーツク市是なり。時に一六四七年にして、同年スタドヒン、インデギルカ河を下りて北氷洋に出で二年にして遂に亞細亞洲の最北端なるセリウスキン岬に達せり。一六五〇年、哥薩クモトロフはアニユイより、アトラソフ及哥薩クモロジコは百二十人の部下を率ゐて、勘察加半島に到り、ウイルフテ・カムチャッカ冬營所を建設せり。ポヤルコフの黒龍江遠征は、地理學上の功蹟に止まりて、何等の殖民的發展を見

ることなく、黒龍江占領の功蹟は、寧ろ第二遠征者たる哥薩クの隊長エロヘイ・ハバロフに歸せざるべからず。彼は先づダウル地方の諸邑を屠り、進んで黒龍江を占領し、其の左岸、アルバシ河の合流點にアルバジン城を築造せり。こは永く黒龍江岸の重要な要塞となりて、爾後四十年の間常に露人と支那人との争闘地となり、其の清國軍に包圍せらるゝこと幾回なるを知らざりき。時の清皇康熙帝の軍は屢々露軍を敗り、露軍の勢威漸く失墜せんとするに到れり。彼得大帝即位の初め遂に一六八九年、ネルチンスク條約を締結し、外興安嶺及アルグン河を以て兩國の境界と定め、アルバジン城は毀られたり。

されど露國の東方經略は常に進展の歩を進めて止まず、一七〇八年、西伯利を三省に分ち、トボリースク、トムスク、イルクーツクとし、一七一四年、東部西伯利の領略を了し、一七五四年、大規模なる流刑移民の東方移送を企てたり。ニコライ一世の即位後、意を東方に致し、一八四七年、陸軍中將ムラビヨフ、東部西伯利總督となり、オホーツク海より韃靼海峡を通過し、サハリン島を探り、黒龍江を占領してその江口にニコライエフスク市を建設したり。一八五八年、清國に迫り、ムラビヨフ全權大使となり、清國大使奕山と江畔愛琿に會し、愛琿條約を締結せり。之れに依り露國



は黒龍江北岸全部を收め、烏蘇江西の地を清國領とし、烏蘇里江東海岸に到る迄の地域を兩國の共管地とせり。一八六〇年英佛聯合軍支那に入るや、イグナチエフ少將之が斡旋の勞をとり、其の報償として北京條約を締結し、烏蘇里江東七十萬方露里の地を全く露國の所領に歸せしむ。同年浦鹽斯德を創設し、六二年之に鎮守府を置き自由港となし無稅貿易を許したり。一八六六年樺太の國境問題につき日露間に談判開始し、遂に千島と交換の約成り、全く之を領有せり。

一八九一年歐亞の大交通路たる西伯利鐵道の起工と同時に烏蘇里鐵道の起工あり。日清戰後即一八九五年獨佛と相合し遼東半島を我國より還附せしめ、その報償としてニコラス二世の即位式に李鴻章の特派せらるゝや時の露外相ロバノフとカシニー密約を結ばしめ滿州鐵道布設權を獲得せり。時に一八九六年なり。同年露清銀行の設立ありしが、一方鐵道保護を名とし潜かに大兵を滿州に駐屯せしめぬ。一八九七年、烏蘇里鐵道竣工し、浦鹽斯德、ハバロフスク間の交通自由となれり。一八九七年十一月、獨逸宣教師殺害事件あるや、獨逸の膠州灣占領に乘じ露西亞も亦旅順大連の租借を迫り、一八九八年、遂に二十五年租借を諾せしめ同時に東清南線の布設權を得、直ちに東清鐵道を起工し、一九〇三年、西伯利鐵道の完成と

共に竣工し、歐亞兩洲の連絡極めて便なるに至れり。

翌一九〇四年は日露の開戦にして、露國の東方經略は其の戰敗に由り一大頓挫を來たせしが、一九〇八年黒龍江鐵道の工事を起し、益々東方政策を發展せんと企てたり。一九一四年歐洲大戰勃發となり、更に一九一七年三月露國大革命の起るや露帝退位となりしも、その四月、遂に黒龍江鐵道の完成を告ぐるに到れり。

### 第二節 土着民族の分布、種類及現狀

現時西伯利に於ける土着民族の數は、全住民の二割強にして諸州縣に分布するも其數漸く二百五十萬に達せんとするのみ。而もその人口調査は、彼等が交通不便にして氣候酷烈なる僻遠地方に住するが故に、甚だ困難にして精確なるものを得難き状態なるも、一九〇六年及び一九一二年の中央統計局よりの出版物によつて之れを見るに、西伯利に於て人口比率上最も多率なる土着民族を包容せるは、ヤクーツク州の八割七分五厘にして、最も少率なるは黒龍江省の四分五厘とす。之れを表示せば以下の如し。

州 縣 名	他人口トノ比率	人口數
トボーリスク	〇、〇六強	八五、五〇九



トムスク	〇、〇六八	一一六、四九七
セミバラチンスク	〇、八五三	七二四〇一七
アクモリンスク	〇、五〇〇	六八五、七六三
エニセイスク	〇、〇八八	一一〇、〇六五
ヤクーツク	〇、八七五	二五五、六二三
イルクーツク	〇、二二六	一二六、三六一
後貝加爾	〇、三一〇	二一二、五八七
沿海	〇、二	四四、六八二
黒龍	〇、〇四五	五、四一二
勘察加	〇、六六	二九、〇〇〇
樺太	〇、四五	四、三八一

以上記する所の土着民族は數に於て必ずしも大ならず而も多くは邊陲の地にあるが故に、全く經濟界の中心に入ることなく、僅かに養鹿業其他牧畜業狩獵業を以て經濟的生活に近づくあるのみ。而して是等土人中最も勢力あるは、セミバラチンスク、アクモリンスク地方に占據するキルギス族なりとす。之に亞ぎてプリ

ヤート族、ヤクーツ族、ツングース族、サモエト族、韃靼族等二十數種の土着民族ありて、而もこは他地方に分散することなく一地方の河谷地に定住し、南部地方にありては牧草を逐ふ遊牧民族たり。

**キルギス族** は、西伯利西南部の所謂キルギス地方に住し、往昔蒙古王成吉思汗に従ひ遠征に當れる者の後裔なりと稱せられ、一般に遊牧を業とし怠惰なり。尤も彼等の地方はステップ地方にて農耕に適せざる乾燥地なりと雖も、尙農耕に適する地方にありても遊牧を事とするが故に、漸次本國よりの移民に欺かれ、その土地を漸次失ひつゝあり。而してその牧地に二種あり、冬季と夏季となり。夏季の遊牧地は其範圍廣大にして、而も氣候温暖なるのみならず、家畜の飼養比較的容易なるを以て、茫漠たる曠野に或は歌舞し或は遊獵し或は競馬に最も愉快なる生活を營むを得、冬季は彼等の困難なる時期にして、彼等は一定の地方に蟄居せしめられざるを得ず。即ち冬季の牧場は大抵森林地方の南面せる山間の溪谷地の比較的温暖にして、冬期酷烈なる寒風を防ぐに適する地方を選択す。之れ西伯利の酷烈なる寒氣又は強風の屢々家畜を剽滅することあるが故なり、故に彼等は冬期家畜の收容所を設け又は飼料を蓄ふるの煩累あり。農民の夏季匆忙を極め冬季に供



樂的生活をなすに比すれば殆んどその反對にあり。

然れども方今西伯利土族は著しく露人の壓迫を蒙り、遊牧状態を去りて漸次土着的農耕生活に入るもの多きを加へ來れり。殊にキルギス族に於て著し。

西伯利の遊牧民は現時に至る迄尙多少古來の風俗習慣を墨守し、族長的生活を營み、血統的近親者は互に相提携し相扶持し、又相互間の結婚を禁ず。キルギス族の間にては斯る族長的團體をウランと稱す。こはブリヤート族の間にも存在し、互に相扶持し苦樂を共にする風あり。土耳其族はセヨーク、蒙古族はヤツス(骨の意)と稱す。此の如き團體は現時著しく膨脹し來り、所々に尨大なる團體を形成せるが、こは婦人は同族間の結婚をなすべからずとの結婚同盟的の風習に依る。往時は斯る團體には族長會議なるもの開かれ、一般族民の安寧秩序を保持するの機關とせしが、今は全く存在せず。然れども、彼等團體には其一致團結甚だ強固にして事の大小を問はず有無相通じ苦樂を共にするの美風は、今尙存す。

**アルタイ族**はキルギス族に隣接せる亞爾泰地方に住す。露人は之を呼んで白色アルムイク人と稱す。蓋し十八世紀中南部亞爾泰地方は、オイラト人即ちカルムイク族の領有に歸し、アルタイ族も一時彼等に服從せしことありしが故なり。

アルタイ族の人口は二萬〇二百九十五人と稱す(一九一〇年調査之にその分派たるテレンギト族九千二百六十四人を加ふれば、二萬九千五百五十九人となる。アルタイ族は七個の部落に分たれ、テレンギト族は東部亞爾泰、蒙古の境界地方、バシカウス、チウリシマン兩河畔、テレッキ湖附近及チウ河沿岸に住す。アルタイ族は嘗て廣大なる地域を領せしが、今は全くその住域を縮少せられ昔日の倂を傳へず。彼等はテレンギト族住域の西方、カトウニ河及其支流并にビイ、カトウニ兩河の間に棲息す。アルタイ族の生活状態は、極めて憐れむべき状態にあり、平原地方に在りし彼等の領域は漸次露人に奪はれて、山間溪谷と雖も露人の侵略を蒙り、今は僅かに山嶽地方に退き餘喘を保つにすぎず。是彼等の性溫柔にして争鬪を好まず、牧畜農耕の業に就くも、若し露人の威喝に遇へば直ちに父祖傳來の農地牧場悉くを之に譲りて去るが如き、實に彼等の日に衰滅に近づきつゝある所以なり。

**黑色韃靼族**はアルタイ族の北方に住し、コブドム、レベテ、ムラッセ、トミの諸河谷に分布す。該族の起原は明らかならざれども、トボーリスク縣地方より移動せるトユリク族の血を混じたるものなること疑ふ可らず。その生業は高原地方に於ける狩獵にして、牧畜農耕を營むもの少し。然れども此地方は露人の移住者漸く多



く、彼等の遊獵地は漸次縮少せられ、野獸の繁殖又大に減少し、彼等の生活も亦危殆に瀕しつゝあり。

此地方より以東エニセイスク縣に接近せる地方に生息する種族は稍其趣を異にす。其國境地方に住する土族は、諸種族連合より成るアスキスヤ平原會議と稱する特種の行政機關を組織し、コスラと稱する族長の指揮に依り部落の秩序を維持し近時専ら農耕業に従事するに至れり。此等連合諸種族の中にて**サガイツ**族は人口一萬九千に餘り、**ミヌシンスキー**郡内のクシテバ河アバカン河の支流、**アスキズ**河附近に於て營々として農牧に努めつゝあり。該族は純粹の西伯利土着民族にして、其祖は**キルギス**人と共に成吉思汗に従ひ戰鬪に當れりとの口碑を存す。此地方には又**トムスク**縣地方より移住し來れる**カチンツ・ベリテル**族あり。アバカン河の二支流及**ビイ、ウタ**の谷地地方に住す。彼等は冬季及夏季の二種の住家を有し、冬季の家屋は丸太造りにて屋根は板或は樺皮を以て圓錐狀となせしが、近時は之を半圓柱狀に改め富有なる者は木造の家屋に住するに到れり。彼等は**キルギス**族の去れる後に來り住せる土耳其族の一分派にして、農耕を營まず、専ら牧畜に従ふ。家屋に定住し遊牧を廢し夏季牧場に家畜を放牧するのみ。その數一

萬三三千八十人なり。

**キジリツ**族はアチンスキー郡の西南端**ペールイ、チヨルヌイ、チユサ**河畔に住す。カヂンツ族に酷似すれども彼等の口碑に依れば、彼等の故郷は**トボリスク**地方なりと云ふ。五千六百〇八人にすぎざる小部族なり。生活狀態言語等カヂンツ族に酷似せり。その住域地方は幾多の金礦に富むが故に固有の牧畜以外に諸種の收入を有せり。

**チユリムスキー**族は人口一萬〇四百七十人にして、前者の以東、**アチンスキー、マリン**スキー兩郡の一部に住す。トボリスク、**トムスク**地方より來れる土耳其族と**アリンツ**族との混種にして、一部は村落を形成し農耕を營めるも、**チユリム**河の下流地方に於て牧畜農業漁業狩獵等に従事せり。

**ヤクート**族は人口二十五萬五千六百に達し、その半數以上は**ヤクーツク**郡にあり、次に**ウリス**スキー郡の五萬四千百十五人にして、**ウエル**ハンヤンスク郡、**ゼーム**スキー郡、**コジム**スキー郡、**オレク**ミンスキー郡之に亞ぐ。

**ヤクート**族は、皆村落的生活を營み、又寒帶地方に住するが故に南部地方の如く粗雜なる家屋を有せず、木造にして周圍に厚き壁を塗り屋根は二重にする等防寒



の設備を施せり。ヤクト族は往時は馬の牧畜を專業とせしが、現時は牛を主とす。水草を逐ふて移住することなく、夏冬兩季共常に一定の木造家屋に住し、夏季は農業に従ふものあり。性才智と勇氣とに富みて、商業を營むもの多く、彼等の商業的才能は能く他の土着民族たるツングース、ユカギル、ラムトフの諸族を凌駕して、經濟上に於て彼等を支配せり。彼等は又商業上の營利の道を知れる耳ならず、現時漸く文明の何物なるかを解し來り、子弟に教育を施すものあるに到れるは、その知力の他民族より遙かに優秀なるを證するものならずばあらず。

**フリヤート**族は西伯利土族中キルギス族につぐ大勢力を有し、後貝加爾州に住するものは十七萬七千六百八十八の人口を有す。イルクーツク・フリヤート族は十一萬七百の人口を有し大勢力たり。尙ほ其他にセレンガ河口に住するクダリンスキー・フリヤート族及ニージ・ウデンスキー・フリヤート族等あり。狹義の蒙古種にして言語も頗る類似せり。蒙古の邊疆に住するものは全く牧畜業を主とせるが、イルクーツク附近にある者は農耕業を營めり。イルクーツク縣にあるホルンスキー・フリヤート族は一七九六年既に千四百チエトウエルク(我が千四百石)の穀類をイルクーツク市に輸入し、一八三九年にはその所有する耕地は千五百デシヤチ

ン(二デシヤンは我が一町三反餘)に達せり。後貝加爾州の西部地方にあるフリヤート族例へばヒルカ河の沿岸に住するものゝ如きは已に久しく露人と伍して農業を營み、又ヤブロンウイ山脈以東インゴダ河の谷地地方にあるフリヤート族も近時農耕に従ふもの漸く多く、牧場は變じて耕地となり、ユルタ(土人の圓錐状の家屋)は變じて木造の露西亞風の家屋となり、歐洲文明漸次彼等の間に浸潤して、彼等の部落には指物業大工業裁縫業石工業鍛冶業彫金業等を營むものあるに至れり。加之、フリヤート人は蒙古人と同種族にして、言語宗教風俗を同するを以て歐羅巴文明を蒙古に移入するに唯一の媒介者たる地位にあり。

**ツングース**族は後貝加爾州に三萬四千三百七十九人、イルクーツク縣に二千九百人、ヤクトーツク州に一萬二千二百三十一人、沿海州に八千八百四十八人、エニセイスク縣に三千六百六十八人、更に黒龍江州及樺太州にツングース族の一派たる數多の小種族あり。即ちゴリト族(五千〇十六人)、オリチ族(千四百五十七人)、ネギンナリツ族(四百二十三人)、サマギルツ族(四百二十五人)、オロキ族(三百九十五人)、ソロン族(十五人)、オロチヨン族(二千四百〇七人)、マネグル族(百六十人)及び滿州人(三千三百二十八人)等是れなり。



彼等の多くはブリヤート族の如く遊牧的牧畜を業とし、多くはブリヤート語を解し、シャーマン教より喇嘛教に歸依せるものあり。貝加爾湖の北部に住するものは、獸獵業に従ひ、他地方にあるものも獸獵業に従ふもの多し。而して彼等は栗鼠、黑貂、熊、山猫を獵す。漁業を營むものもあるも自家の食用に充つるのみ。されど彼等の大部の業とする所は養鹿業なり。

彼等は西伯利土着民族中にも性質最も温順にして外來人を好遇し、華美清潔を好み、衣服の如き種々の貴重なる毛皮綴りて之を造り、之に配するに諸種の金屬裝飾を以てせり。ヤクーツク州及オホーツク海地方に住するツングース族はヤクーツ族の壓迫を蒙り、言語習俗等全くヤクーツ化せるを見る。該種族は近時著しき減少の傾向を示し、一九一二年に於て總數七萬六千五百と稱せられしも、更に遙かに減少せるやも測り難し。

ウオグロ族は烏拉爾山脈の東方斜面地方に住し、養鹿を業とし、その數七千四百二十人にすぎず、往時のユゴール人の後裔なり。此地方は古來露人の西伯利遠征の要路に當り、その壓迫を受けたるのみならず、壓制的族長制度の結果、族民悉く著しき窮狀に陥り、鹿の如きも概ね族長の所有に歸し、土民の多くは奴隸的生活を繼

けつゝあり。

サモエド族は歐羅巴露西亞の北部地方より、亞細亞洲の北部地方をエニセイ以東に及び東經百二度に迄播布せり。彼等は原始的生活を營み、半野生的の鹿を放牧し、捕索を以て之を捕へ、或は乳を搾り、或は屠りて肉を食し、皮は以て被服とし、又は敷物となす等、彼等に採りて唯一の財産をなす。而して之等の鹿を春は北氷洋沿岸に放牧し、秋は高原地方に移轉するを常とせり。サモエド族は養鹿業の外、尙夏時は渡り鳥即ち雁鴨等を獵し、秋冬の候は獸獵を業とし、未だ農耕の業を營めるものなきが如し。その西伯利にある總數は二萬七千にすぎず。

オステヤギ族はサモエド族住域に混在して、オビ河下流地方及其支流地方に散在し、人口一萬七千三百五十三人に達せり。往時養鹿業に従ひしが、現時は主として漁業及び狩獵業を營む。サモエド族に比して性質遙かに寛大にして、好感を以て外人を迎ふるを常とす。冬は土窟若くは小舎に住し、夏は丸太造りの家屋に移る。彼等の生計は極めて苦境に導かれつゝあり。オビ河の漁業も近時露國人と競争甚しく之に壓倒せられ、山野に於ける獸類の如きも著しくその數を減じたり。加ふるに彼等の間に傳播せる微毒其他の惡疫は益々その種族を減衰せしめつゝ、



あり。

カラガス族はビリユス、ウダ、カジラ河の流域及サヤンスキー山脈の谿谷地即エニセイスク縣の南部山地内に住し、人口僅かに三百八十九人を餘すのみなるも、人種學上頗る興味ある種族なり。彼等は現時土耳其語を用ふると雖も一種特異なる言語を交へたるを見る。是彼等の祖先が土耳其種にあらずして、既に滅亡せる或種族の殘存者たるを示すものなり。殊に彼等が飼養しつゝある鹿類は元と北方より此地方に驅逐し來れるものにして、その祖先が元と養鹿を業とせる北方種族に非るかを思はしむ。過半は養鹿獸獵を營むも、鋤夫人夫等となりて生計するもの漸く多からんとす。

カマシンツ及ユト族は、カラガス族住域の北方に住し、エニセイ河右岸アンツヘローア河とコレカ河の會流點地方に土着的生活を營むも、一部はアンガラ河を逾て高原地方に移住せり。總數九百八十人にすぎざれども、彼等固有の言語を有す。この族はカラガス族と共に人種學上の貴重なる研究資料をなし、ベルグマン、クルジマイロ等諸學者の間に種々の論題を提供せり。

古代亞細亞民族は、其種類甚だ多きも、人口は三萬二千九十三人を數ふるのみ。

その主なるものより擧ぐれば

チウクチ族	一一、七七一
コリヤーク族	五、六三二
ギリヤーク族	四、六四九
カムチャダール族	四、六〇九
アイヌ族	一、四五七
亞細亞エスキモー族	一、三〇七
ニエセイスク、アテテヤギ族約	一、〇〇〇
ユカギル族	七五三
アレウト族	五七四

チウクチ族は、ベーリング海地方に住し、村落的土着生活をなして海獸魚類を漁するを以て其業とするものと、遊牧的生活を營み養鹿を業とする者との二種に分つを得、チウクチ族は獨立的種族を以て自任し、性質勇悍にして戰鬪的遊戯を好む。コリヤーク族は、ベトロバウロフスキー、アナドルスキー、ギジギンスキー、オホーツキー諸郡、即ち勘察加州北部地方のベーリング海沿岸及オホーツク海沿岸に播布



す。チュクチ族と同じく材落的土着生活をなして漁業を営むものと、遊牧生活を営み養鹿を業とするものとの二種に分たる。その生活態様はチュクチ人と同じく、又彼等と等しく骨細工に巧なり。

亞細亞エスキモー族は、ベーリング海峡沿岸九村落に分住せり。而して精密には尙三種族に分たる。彼等は彫刻の手工を能くし、海獸獵及び漁業に巧なり。彼等は土着的のチュクチ人と雜居するもの多し。

アレウト族は、十九世紀の初葉アレウト諸島より、コマンドル諸島に移住し來り、現時人口男女合せて僅々五百七十四人を有するにすぎず、而も彼等は甚しく露國化し、彼等固有の言語を忘れ去らんとしつゝあり。其の生業は漁業及び獸獵なり。

カムチヤダール族は、露國の考古學者ステルレル、クラセンニコフ兩氏の説に據れば、チュクチ族コリヤク族と同じく、石器時代に於ては亞細亞洲北部に大なる人口を有して勢力を揮へる種族なりしと謂ふ。彼等は他の大種族の殘類と均しく、人口を漸次減退せしめつゝ、今は勘察加半島の南部に露人と雜居し土着生活を營み、人口二千六百六を有す。

ギリヤーク族は、黒龍江口附近及び樺太島に住し、附近の種族と言語を異にせるのみならず、その生活態様も著しくその趣を異にせり。その住家は、土地を約一アルシン半程掘り下げ、その穴の中央に圓柱形の土壤を殘し、その穴の周圍には木を以て基礎工事を施したる家屋を造れり。此の穴窟家屋はエスキモー人の冬季家屋と酷似し西伯利土人中稀に見る所のものなり。滿洲人は往時穴居の民にして梯を用ひて出入せるが如き深き穴を穿つて住せりとの説あり。人類學者アマチン博士は此の穴居説を主張せり。

西伯利土人の多くは、熊を尊崇する宗教的慣習を有せり。遊獵の際熊を射殺する時には、死屍に對して祭祀を行ふものあり。カラガス人は、熊の頭を土中に葬り、祭祀を行ひ、彼を殺戮せる罪を謝すと稱せらる。彼等は熊を以て自己の同胞の如く思惟し、神は四人の兄弟を創造せりとなす。即ち最年長者は鼯鼠にして、次はナリム(鰻)の一種、第三は熊にして、最年少者は人間なりとす。ギリヤーク族はこの熊に關する祭事極めて特異にして、始め子熊を捉へ來り之を檻中に養ひ、成長するに及んで全村民悉く集まり、一種の祭典を舉行して而して之を屠殺する風習を有す。



アイヌ族は樺太島にあり。今は日本領に入れる地域に多し。西伯利土人中、ギリヤーク人より更に特異なる諸點を有す。西伯利土人の多くは、顔容骨格皆相類似し、顎骨秀で髯鬚稀薄なる蒙古種に屬すと雖も、アイヌ族は髯鬚濃厚にして顔容頗る露西亞人に酷似せり。漁業狩獵に巧みにして、熊を尊崇することギリヤーク人に譲らず。

西伯利の土人にして真正なる土着生活若くは都會生活を營むものは、極西西伯利の諸族即ちトボリスク韃靼族(三萬三千八百十人)トムスク縣カインスキ郡に於けるバラピンツ族(二千二百六十四人)及十六世紀に中央亞細亞より西伯利に移住し來をるボハラ族(二萬一千六百五十九人)に於て見る。彼等は優秀なる農民及商人にして、全く土着的定住生活をなし又甚だ商業活動を好み。往時の彼等は、中央亞細亞の物産例へば乾果、生果、小麥粉を西伯利の市場に供給せる唯一の仲介者たりしなり。又彼等は中央亞細亞の回々教の信者として好く該宗教の典儀に通曉せり。

以上は西伯利の土人種族の概観なるが、彼等の文化の主要要素たる宗教に就きて觀察し、更に經濟上に於ける土人問題に就き論述せん。

### シャーマン教

少數の回々教徒、佛教徒、及び基督教徒を除けば、全西伯利の土人は、悉くシャーマン教を信奉せり。シャーマン教は萬物活存の信仰を基礎とする拜物教の一種にして、山川若くは動物に犠牲物を捧げて祭事を行ふ儀式を有す。山又は川に捧ぐるはその「主」に捧ぐるの意にして、動物に捧ぐると同意味なり。即ちその崇拜の對象を一に歸せんとするは一神教に類似し、又二元論を加味せるが如き傾向をも有す。該教に於ては、全世界を創造せる最上の神は、アルタイ族にありてはウリゲン、他の土耳其族にありてはクマイ、ヤクト族にありてはアルイ・トイオンと稱せらる。この最上神は諸神の上に立ち、有ゆる慈悲慈善を司り、犯罪に對して人を罰することなしと雖も、之等の犯罪者に對してはその慈悲を現はさざるものなりとせらる。此神の慈悲を受くる能はざるに到りしものは、エルクク・ハレと稱する惡神の手に落つるに到り、この惡神の手に歸したるものは、犠牲を供ひ祈禱を行ひて罪惡を謝さざるべからず。此神と人間との間に立てる者は、即ち所謂シャーマン(僧侶)なり。シャーマンは、神に對して病疾苦痛不幸等を減少する事を祈り、常に全信徒に對して全般的の祈禱を行ふ。



シャーマン教徒は皆各自の家庭内又は原野に偶像を安置し之を祭れり。土耳其族に屬するものは之をトユスと呼び、蒙古族に屬するものは之をオンゴンと稱す。之等の偶像は實に怪奇珍妙なるもの多く、木片を以て種々の肖像様の形態を彫刻して造り、又は單に樺の枝に綿布を掛けたるにすぎざるものあり。而して之等の偶像は何れも皆シャーマンにより聖潔せらる。この偶像にも種々の種類ありて、或は病氣を除く神あり、或は家畜を保護する神あり、或は獸獵若くは漁業の幸運を助くる神あり。病者を癒さんとせば病氣除けの偶像を祭りて之に祈り、山野に獵せんと欲せば獸獵の幸を與ふる偶像を拜して獲物の多からんことを希ふ。シャーマン教は單に偶像のみならず、動物を聖潔して之れを神とせるものあり。斯る動物は主として馬にして、一度神とせる馬は之れを使役すること能はず、又之れを他に賣却すること能はず、唯二家の主人之れに騎するを得るのみなりと謂ふ。彼の西伯利土人一般の風習たる熊の崇拜の如きは、此のシャーマン教の一部面と觀ざるべからず。

#### 土人問題

土人は劣等人種として永久に滅亡して其領土を文明國に讓る可きを當然とす

るか、凡ての種族は各其特徴を有するのみならず、永く其の地方に生を享け來りて其の風土氣候に慣れて新たに此地方に入り來れる他種族の困難缺陷を補足するに足る點に於ても、更には人道上的論據よりしても、大に之れを保護し扶助せざるべからざるかの問題は、直ちに之を速斷し難きも、吾人は西伯利の經濟的開發の上より之れを見て後者の主張を採らざるを得ず。若し北方極地地方の土人種族の急に滅亡せりと假定するに、此等不毛地方の經濟的開發は、勢ひ他種族の手に依らざるを得ず。然るに此等極寒地方は寒氣に慣れたる露人と雖も、風土氣候の異變と戦ひつゝ、更に嚴酷なる寒氣を忍ばざるべからず、少くとも平原地方の開拓に従ふ數十倍の努力を以てせずんば到底之に當るべからず。而して彼等の羸ち得たる所の經濟的效果の幾何なるかを思ふ時、吾人は其の徒勞の甚しきを思はざるを得ざるなり。而も彼等土人に取りて彼の極北の嚴寒地方は、殆んど彼等の固有界なり。彼等は他種族に取りて極惡なる氣候と雖も、尙生を樂しみつゝあるなり。而して何等の苦痛なくして生業を營みつゝあり。極寒地方若くは氣候風土の不良なる地方に於ける産業は、彼の住域を樂しみつゝある彼等土人に委せしむるに如かざるなり。何ぞ強いて彼等の生業を奪ひ彼等種族の絶滅を早からしむるの



要あらんや。人道上の見地よりしても吾人は斯る非業を見るに忍びざるなり。西伯利に於ける重要産業の一たる養鹿業の如き全く彼等の手によりて始めて行はるゝなり。之れが乳は食用として貴く、其の肉は味美にして、その皮は被服とすべく敷物となすべく、その性は用ひて以て交通を利すべし。近時その肉及舌の燻製は北米合衆國、英吉利、佛蘭西等に輸出せられ西歐諸人士に盛んに賞美せらるゝに至れり。之が適當なる飼養法、利用法、保護法を攻究して彼等に教へ、以て彼等を指導啓發するあらんには、必ずや世界に於ける重要産業たるに到るべきなり。更に彼等に助力を與へて開發に努めんには、極北未開の地方に於て諸種の事業興起も來るべきこと亦必ずしも期すべからざることにあらず。唯に極北地方に止まらず西伯利各地に於ける牧畜業は、今や全く土人の手にありと稱するも不可なきなり。西部地方に於ける牛馬、後貝加爾州に於ける綿羊の如き、キルギス族、ブリヤート族に俟つこと大なり。然るに露人殊に流刑移民として西伯利に來れる露人等は盛んに土人を迫害し、強迫掠奪有ゆる手段を以て自利を貪れる例證所在に之れを發見するを得べし。而して政府の移民獎勵は之れに助勢を與へ、露人をして土人の地位に換はらしめんとするに到れり。されどこは遂に失敗に終れり。即

ちキルギス平原地方に移植せられたる露國移民等は、倏ちにして家畜を多數所有するに到り、漸次必然の勢に驅られて遊牧生活に入りつゝあり。更にその著しき例證は後貝加爾州に於て之れを見るべし。蒙古の邊境地方に於て多數の家畜を有する露人は、自然に遊牧生活に入り、西歐文明に遠かり漸次原始民族の未開状態に陥りつゝある趨勢にあり。この現象は、實に露人が從來の文化程度を保ちつゝ、彼等の地位に換ること能はずして、彼等の地位を奪はんが爲めには、彼等の生活態様をも採らざるべからざるを證するものなり。即ち未開化せずんば彼等の地位を奪ふこと能はざるなり。文明程度の高きものが強て其程度を低くして迄、彼等の地位を奪はざるべからざる必要ありや。吾人は少くも疑問とせざるを得ず。文明人をして未開に到らしむるは、文明に到達するに拂ひたる代價の損失を意味すればなり。こは確かに國民經濟上に於ける損失に他ならず。その能率は之れを他に用ふれば遙かに之れを高めしむるを得ればなり。彼等土人を現狀に置き、外部より之れに助勢を與へ指導を爲すに如かざるなり。彼等は彼等の地帯に於て發育せしめよ、發展せしめよ。是れ彼等をして經濟的に意義あらしむるのみならず、又人道上の一寄與ならずとせんや。斯は露國若くは西伯利に於ける問題の



みならず、實に世界の問題と謂はざるべからず。

### 第三節 流刑移民の過去及現在

抑も西伯利の征服は、其の始源を尋ねれば贖罪又は懲罰に孕胎せるものにして、逃亡せるウオルガ地方の盜賊の逃れて西伯利に入れるを嚆矢とし茲に其地を領し、住民を従へ種々の貢物を時の帝王、イヴングローズヌイに献じ、以て自己の前罪を償はんことを乞へるに際し、興國の志に燃へたる、イヴンは之れを赦免して封ずるに西伯利侯を以てし種々の特權を與へたるのみならず從來、此地に入りて種々なる職業に従事し或は漂浪的生活をなしつゝありし有ゆる犯罪者に對しても大赦を與ふることゝせり、即ち兵役其他の義務を免れんが爲めに此地方に逃竄せる逃亡者は俄かに此地に入るに及んで青天白日の人となり、曩に竊に獸獵或は漁業に従事せる地方は公然と之れを領有するに至れり。

當時露國の刑罰は實に殘忍酷薄を極めぬ。死刑にも種々あり。盜賊強盜は始め烈しく之れを鞭ちて其罪を犯せる都會に於て絞殺し、放火犯人も之れと等しく、夫を殺せる妻は、之れを土中に生埋し、反亂者は筏の上にて絞殺し、他の者を戒飾せんが爲め、後之れを河流に放下し、不信仰者異教者、僞善者、妖術者等は之れを木筐に

入れて燒殺し、又國事犯人は之れを十字形に四つ切にし、車輪にて入つ裂きにし、杭にて刺殺し(地上に立てたる、先の尖れる杭に犯罪者を載せ、肛門より刺殺したり)或は丸太を以て頭を打碎き、金錢贖造者は兩足及び左方の手を切るが如く、其他拷問又は苛酷なる刑罰も其の種類甚だ多く、就中、其甚だしきものは犯罪人を吊して、之れを拷問し又は赤熱せる釘拔を以て燒き傷をつけ、舌及び耳を切斷し、鼻孔を裂き、熱せる湯或は油を浴びせ掛る等甚だ酸鼻を極む。其の最も普通に行はるゝは、笞刑なれども、其の苛烈なること、殆ど死に至る迄之れを鞭つを常とす、是れ實に當時に於ける刑罰の狀態なり。

西伯利に於ける最初の流刑は重罪犯者にあらずして主として團體的政治犯人に科せられたり。一千五百九十二年ドミトリー王殺害に關聯せる、ウグリチャン人をペルムに於けるオーストログ(柵を以て圍繞せる牢舎をいふ)に流せるを始めとし、後有らゆる不平者又は有らゆる騷亂者の、百人乃至千人の住民を有らゆる一村邑を擧げて悉く此地方に送りし事あり、降りてミハイル王の治世に至り二人の王位覬覦者及び百八十人の黨與西伯利に配せらる。又アレクセイ・ミハイルノウイチ王の世には銅貨暴落の爲めに反亂を企てたるギレーウシチキ人流刑に處せら



れたり、又西伯利には有名なる自ら稱して、シメオーナ・アレクセウチ王と稱せる、ステニキラジン氏の幾百の黨與流され、一六六〇年にはウクライン地方の合併に反對せる幾千の哥薩克又は普通住民流配せられぬ。

恰も時を同うして重罪犯人の流刑開始せられたり、即ち一六五三年勅令を以て窃盜、強盜の死刑犯は之れを西伯利に流すの布告を發せり。然れども、初めは其數著しからずして、宗教分離者、徒黨者、瑞典の捕虜、波蘭土の黨與犯人等の大團體の流刑其の多くを占めたり。殊にピートル一世に至りて重罪犯の流刑を減じ、政治及び國事犯の數を増すに至れり。

抑も露國が政治的不平者を西伯利地方に送れるに至れるは、是れ彼等の勢力を殺ぎ及び其の思想を銷磨せしむるの政策に出でたるものにして、西伯利流刑の根源茲に發す重大なる國事犯は西伯利のオーストログに監禁して、煩悶、饑餓等死より一層苦痛なる刑罰に處するを以て是れ西伯利苦役の本能となす。

當時に於けるオーストログの西伯利牢獄の状態は現時尙ほ口碑又は歴史の傳ふる處なり。牢獄の構造は地上に穴を穿ちて其周圍を柵組となし、太き丸太を以て之を蔽ひ、小さき窓を設けたり。此の窓は即ち唯一の出入口にして之れより食

物を投げ與へ、食物は單にパンのみにして冬期と雖も衣服を給與せざることあり。是れ即ち露國政治犯罪人の幽閉所にして、實に有名なるワリシニキテツ・ロマノーフ氏の如きは一六一〇年ベルムに於て斯の如き穴にて死せるなり。哥薩兵長ムノゴグレシヌイ并にサモイロ・ウキチ氏はヤクトックに於ける、此種の穴に於て苦悶せるなり。此の如き陰寒なる牢獄はベレゾフ、アルバジン、アウワウワム其他幾多の地方に設けられたるもの殆ど擧て數ふべからず。一六六六年、セレゲンスクに於ても、オーストログの設立せられたり、此牢舎は特に普通重罪犯人の爲め、莫斯科風の家屋建設せられたり、然れども重大なる國事犯人は此の種の家屋に收容することなく尙暗黒なる牢獄を用ひたり。陰暗なる牢獄は殆ど凡ての西伯利オストログに設けられ、犯人は常に嚴重なる看守に依り守衛せられ、桎梏を以て縛しめらるゝのみならず首は鎖を以て柱に繋がれ、又腰或は手に約二布度の重量を有する鐵板を結び付けらるゝこと少からず。此の如き殘忍なる待遇が其の反動として種々の惡計を企むに至らしめ、殺人、強盜を再び此の配所に於て繰り返し、牢獄より逃亡する者續出するに至りしが、是等の脱走者は團隊をなして、或は官憲に抵抗し、或は政府の輜重を襲ひ、官吏、農民、商店を掠奪する等、殺人、掠奪、破壊、壓迫



等は地方の常事たるに至れり。西伯利の監獄及び流刑地に於ける刑罰は特殊奇異なる形式に依り行はる。例へば拷問、吊刑、熱鐵の刑、杭刑、答刑等は西伯利に於て行はれたりと雖も斯は單に刑罰に用ひられたるのみならず訊問に於ても尙ほ用ひられたり。是等の刑罰は露西亞本土に於ては一七五一年に於て法律を以て著しく制限せらるゝに至れりと雖も、西伯利には、一千八百年代まで繼續されたるのみならず一八四八年に於て政府が一サーセン(我七尺餘)の鐵鎖を以て罪人を壁に繋ぐは精神及び肉體狀態に如何なる影響を與へつゝありや等の監獄の狀態を諮問せるに際し、西伯利の長官は之れに答へて曰く、動く能はざる結果囚人の顔色憔悴し蒼白となり、時々精神に異狀を呈し、後には沈靜することあり。又音聲機關著しく衰弱し歩行の際眩暈を呈す云々。

一八六〇年代に至る頃にも尙ほ西伯利には五ヶ年乃至十ヶ年間鐵鎖に繋がれたる男女ありて一八八〇年頃オーストログに於て是等の壁上に打ち付けられたる鐵環、鐵鎖を目撃すること屢々なりき。又現時尙西伯利に鼻を裂かれたる不具者の住せるを見ること往々にして又手械、足鎖、答は尙ほ今日に至る迄存続しつゝあり。

初め西伯利に送りたる盜賊、強盜に對し、政府は麥粉、鹽、火藥、鉛、鐵其他有らゆる必需品を毎年莫斯科或はトボリスクの本營より西伯利のオーストログに輸送せしが流刑人は是等輸送に際し、或は荷役夫となり、或は船夫となり、或は輸送指揮者たる哥薩克兵の手傳者となる等種々の任務に就けり。彼等は此の如くにしてトウラ、トボル、オビ、ケタ等の凡ての河流并にエニセイ河の支流、カス河等の航運に従事せるのみならず、又當時此地方の各地に散在せる都邑、監獄所在地間に敷設せられたる車道に於る運搬業に従事し、ウオログト、ウエルホトウリイ、チュメン、トボリスク間を往復し、又此地方より遠く東方、タルを経て、或は南方トムスク及びオムスク、オーストログに至れり。

僧侶アウカクマ氏及波蘭の政治犯人たりしカルラ、リュビチ、ホイッキー氏ベネウスキー氏等の著せる書籍中當時に於ける是等の光景を叙述せる興味ある記事あり。該記録に依り之れを見れば、政治犯、普通重罪犯人等男女混合の流刑人カザン地方より幾組となく送られしが彼等は露西亞本土に於ては、武装せる兵士に依り嚴重に圍繞せらるゝと雖も西伯利に至れば、太き棍棒を持てる農夫に依り、村より村に送られ、所に依りては或は寛大或は殘酷に取扱はれ、又食料品を贈與せる所すらあり。



又支給せられたる食品を横領する所あり、或は彼等を馬車或は櫓にて運びたる所あり、或は足錠を掛くるか、或は長き鐵棒にて珠數繋ぎとする所あり。是等は凡て其地方獨得の見解又は其地方組織の如何によりて異れり。

カルラ、リュビチ、ホイッキー氏の説に依れば當時露國及び西伯利の普通人民は是等の不幸なる囚人に對し熱切なる同情を注ぎ到る所多くの贈物をなせりと。此の風習は歴史的の習慣にして、住時に於ける露國の囚人は現時の支那に屢々見るが如き社會の慈善家より養はれたり。ピョートル王は一室に收容せられし囚人中より一日二人宛贈與物を集むるが爲め外出するを得るの法律を制定せり。又苦役は飢餓或は疾病の爲め死するもの甚だ多きを願はずして繼續せられしが、一千七百二十二年に至り元老院は該法律を禁止せり。然れどもエカテリナ一世、エリザヴェタ、アンナ、エカテリナ二世等の各女帝の世には再び復活せられ、罪人は長き鎖を以て縛められ、或は破れたる襯衣一枚を着し、跣足の窘狀見るに忍びざる姿態をなして、都邑又は村邑に至り種々の苦役に就かしむるに至れり。然るに當時農民及商人は是等の罪人に慈善品を給するは、是れ自己の義務にして又善事なりとせり。此の如き風習は、囚人又は監視者の間に其施與物を互に分取するに便なるを以て、

是等の禁令は何等の效力を奏せず、單に、有らゆる獄吏をして、收賄、強要等の罪惡を助長せしむるに過ぎざりき。又近世に至り、アレクサンドル一世は是等施與物は獄吏の手を経ざるべからざる法律を制定せるが、斯は單に秘密的寄贈品を分與せんがため、官吏の分前を多からしむる結果を呈するに至りしに過ぎざりき。然るに此の實情を探知したる普通人民の寄贈者は其の物資を官吏の手を借らずして直接囚人に與ふるを努むるに至れり。政治犯罪人の一團が街道を通過する際、市民は舊風に依りパン及び林檎を以て囚人を包圍し、或者の如きは護送兵士の圍みを破り來りて囚人の手に金錢を握らしむるものありき。斯は又西部西伯利の幾多富有なる村落に於ても行はれたり。即ち此の地方に於ては囚人を三頭立の馬車に乗らしめ殆ど貴族的待遇をなし、多くの菓子、パン、鶏卵等は諸方より囚人の車上に投入せられたりと。

囚人の給與は今尙ほ七十年前に規定せられたる殆んど改竄を許されざる監獄給與法に依り、又監察官の絶無なるが如き實に驚くに堪えたり。

上述せるが如き法律に對し、饑餓は唯だ施與物に依りてのみ救濟せられ、監獄に於ける賃仕事は其の當時までは甚だ僅少にして所得として數ふること能はざり



き。糸、針、石鹼、櫛、衣服の損所を繕ふ布片、紙、切手、煙草等は最貧窮なる生活にある者と雖も必要缺くべからざるものなり。然れども囚人は此の如き必需品に對してすら懊惱すること甚しく、慈善家の救済に待つの外手段なかりき、囚人等は「慈善心」の歌を唱へて沿道人民の施與を得たりしが、此の歌の許可を得るためには最寄の長官に贈る可き金錢を要し先づ此金の調達に焦慮せしこと尠からずと。此歌は往時は西伯利街道に唱へられしが、近時は鐵道沿線を離れたる村邑地方に於てエプタ(流刑人の一地方より他に送らるゝ際の中繼所)よりエプタを経て護送せられ行く途上に歌はれつゝあり。

此エプタ組織は流刑人の通過する沿道に、スペランスキー氏の創意に係る囚人の驛遞輸送法に基き、エプタ及半エプタの設立せられ一八〇二年頃之れが爲囚人輸送は從來の方法より兎に角大進歩を致したり。該エプタは兩面より高さ木柵を廻せる二個の木造の屯營所にして、一個の建築は清潔にして四室を有し、中二室は護送兵、士官等の宿泊に供せられ、他の二室は約四十人の護送兵の用に供せらる。又其他の家屋は是れ一般囚人の宿泊に供せらるゝものにして、之れを四區分し、前方の二室は普通の移民の用に供せられ、後方の二室は囚人の宿泊所に充つ。半エ

プタは只休息的一夜の宿泊所の爲めに設けらる。エプタは五十乃至六十露里の距離に於て設立せられ、半エプタは其間に設けらる。囚人の一ヶ月の行程は五百露里と規定せられ、降雨風雪寒冷炎暑の如何を問はず、日に日を繼ぎて前進せざる可からず。衣服の不備食物の不良は種々の疾病を醸し、殊に秋冬にあつては四肢の凍傷、感冒、劇烈なる痲質斯、熱病等の患者續出して、エプタ或は沿道の監獄に遺さるゝもの多かりき。斯る病徒の續出は七十年前に一百人を收容する設備を有せるエプタをして一八八〇年に至りては、三百人を收容せざるべからざるに至らしめ、其の狹隘なること甚しく、人は室内に身動きもなす能はざる迄充溢せり。又是等の宿營所には、夜具枕の如き設備なきを以て、彼等は日中着用する外套を以て之れに充てざるべからず。半エプタも亦此の如き慘狀を呈し、暖爐の如きは薪材を節約するを以て室内常に寒く、燻り勝ちにして又暗く、濕氣を含める不快なる臭氣は汗或は衣服の濕氣、汚れたる人體の垢、又は梅毒、壞血病、其の他の疾病より發する臭氣と相混じり、一種言ふべからざる嫌惡すべき臭氣立籠り、殊に夜中の如きは床虫、臭虫、虱、蚤等の來襲甚しく、單り安眠する能はざるのみならず、之れが爲め皮膚病を發生すること稀ならず。加之に是等の毒虫は、去來する幾多の團體に對し種



々の病毒を傳播する媒介者となれり。又屢々官憲より支給せらるゝ衣服殊に下衣の如きは新物を支給することに規定せられつゝあるに係らず古くして洗濯不充分なる被服を給與するを常とし、エプタに於ける浴場の如きも、法律には一ヶ月一度以上無代價とすべき旨規定せられしにも拘らず、或は代價を徴し、或は恩惠の意味を以て入浴せしめたり。浴場は彼等に對し唯一の湯及び水を得る場所なるを以て、下着物の洗濯の如き此處に於てなさるゝと雖も、其數制限せらるゝを以て兵士、下士、士官等に贈賄せずんば之れを爲す能はざるなり。

此の如き状態なるを以て監獄に於ける疾病は冬季には二割三分以上、最も多きは三月にして四割に達し、西伯利の監獄病院に於ける死亡率は、過少にすぎる帝政時代の政府の公表に依るも三・二分乃至一割六・四分の多數に達しつゝありしは是れ實に驚く可き現象なり。殊に解氷期に於ける西伯利の中央監獄は勿論、都會のオストログに於ては、囚徒は定員の四倍強乃至八倍の多きに達することありき。

狹隘蒸苦、窘屈、誼諍、爭論、悶着、鎖の音、汚穢は室内に漲り、鐵鎖を以て縛せられたる恐ろしき相貌の殺人、強盜、賭博、犯罪人の如きも、獨り悔恨の狀を現はさざるのみならず、互に自己の犯罪を大聲に得々として他に誇り、金錢、腕力の前に低頭する外、互

に相排擠、相爭鬪す。妻女子供等は夫、父兄と相並び、輕き政治犯は邊境地の反亂者と相伍し、次は無旅券者、宗教的犯罪人、改宗的犯人、其他の順序にて各一團として配合收容せり。ケナン氏のトムスクに於ける監獄及び臨時的假小屋の狀況を叙せる實録記の一節に「監獄の中は非常に狹隘にして、而して囚人斷へず新たに入りて室内に溢れ、室内の掃除を行ふこと殆どなし。又ニ―ヂネウヂンスクに於ては吾等五十人の政治犯人は普通重罪人の立退ける許りの小なる一室に收容せられしが、床は陰濕にして粘々し、而も惡臭を放ち、塵芥は指の厚さ程に堆積し、窓は堅く釘付けにせられ、ナラ床より一段高く板を張りたる處は油を以て塗りたる如く垢じみ、夥しき白色の大なる虱は匍伏しつゝありて、座し若くは臥すに忍びざるものあり。惡臭蒸し苦しきことは多少監獄生活に慣れたる吾人さへ殆んど眩暈嘔吐に堪えざりき云々」とあり。

從來ウオルガ、カマ、オビ河を曳船により囚人輸送をなせるが、こは監獄行政に對し頗る經濟的なるものなれども、其狹隘、惡臭、汚穢なるは又エプタに譲らず。不良なる食物、運動の不足、空氣の汚濁に基因せる疾病頻々として起れり。

殊に小兒等の乳及び日光の缺乏より死する者多數なり。西伯利に於ける流刑



人は、南露西亞地方よりは鐵道により直に之れをサマラ、チエリヤビンスクに送り、又其一部は莫斯科より春期舊水路により、チューメンに送れり。西伯利に来る是等の團體は冬夏共に尙ほ狹隘、惡臭、汚穢等を除去すること能はず、特別仕立の囚人列車は逃亡を豫防せんが爲め、窓を密閉せるが故に夏季は炎熱に苦み冬季は凍傷、呼吸器病を誘起す。食物は今尙スペルランスキー氏時代に規定せられたる一人一日の食費十哥を襲用するを以て、其質粗惡にして滋養分を缺き又贈品の如きは水運による時は全く之れを求むること能はず。

囚人の手荷物の如き其數量甚しく制限せられ、一人に付き一布度十フント以上の携帯を許されず。諸種の必要品の如きは本國の都會地より携帯し來るを得ざりしかば、高價を拂ひて各停車場に之を購はざるを得ざりしなり。サマーラよりイルクーツクに到るには三週間若くは六週間を要す。西伯利の起點地たるチエリヤビヤンスクに於ては團體は比較的永く滯留せしめられしが、此地に於ける屯營所も他地方の例に洩れず、狹隘、汚穢等エプタ的災厄を免れざりき。帝政時代に於て流刑民輸送に對し政府より支出せられし莫大なる費用は秋毫も彼等に餘澤を與ふることなかりき。

輸送時日の短縮も彼等を喜ばすことなかりき。何となれば流刑指定地に到達すれば彼等は苛酷なる苦役に服せざるべからざるが故に其到達する日の一日も遷延せんことを求むるなり。往時彼等は二ケ年に達する長き道中を喜びしが、それは該期間が刑期中に加へられ、苦役に就くよりは遙かに安易なるを以てなり。若しエプタに於て假令疾病の爲めに瀕死し、或は僕麻質斯より永久的不具者となるが如きことありとも、普通重罪犯人の如きは最も完備せる牢獄として之れを歓迎せり。

實に西伯利に於ける苦役は露國の犯罪者に對し、最も甚だしき苦難的生活ならずんばあらず。即ち囚人の行動は懲罰の方法、監獄行政の組織等は長官の絶對權力範圍にして殆んど彼の意の儘に處置せられぬ。

西伯利に於ける初期の流刑民は苦役を知らざりき。死一等を減せられ、西伯利のオストログに配流せられたる恐る可き罪人と雖も、此の地方に於ては農民に編入せられ、政府の募集に依り此地方に移殖せられたる農民、職工等の無辜の移住民と平等の待遇を受けたり。然れども自由農民との差異は犯罪の程度により鼻孔を裂かれ、耳を切斷せられ、手或は足を切斷せらるゝが如き懲罰的癍痕を有するに



ありき。歐羅巴露西亞に於ては當時時としては罪人を公共的勞務に使用せしが其範圍廣くして、規律ある苦役はピートル一世の代に至りて始めて行はれたり。即ち帝は西伯利に於ける普通重罪犯人の流刑を減じて、戰爭に於ける夥多の捕虜ストレック人、非國教徒其他一般の彼の反理想的敵人を以て之れに代へたり。蓋し此の政策の因由はピートルが彼等を移して西伯利拓殖に當らしむる時は、地方の文化増進に資する所ある可しと思惟せしにあり。普通重罪犯人に對して、ピートル帝は聖彼得堡、シリシセル、ロゲルウイク、アソフ、キジリアル其他の都邑堡砦の建設に利用せり。帝の在位中は該制度は大いに發達整備せしが、囚人の作業中於ける逃亡、暴行、強奪等續出せるを以て逐時之を西伯利に送り、官私の諸製造所工場、礦山等に使役し、或は境界地方の堡砦に移殖して諸種の業務につかしむるに至れり。乃ち此時に當り刑罰の輕重に準じ苦役期限の長短を定むる法律制定せられたりき。然れども聖彼得堡の刑法學者に依り案出せられたる是等の法律は忽ちにして種々の缺點あるを見出すに至れり。即ち理論は實際に反する事多く、例へば製造所、就中製鹽所又は酒釀造所に於ける勞務は礦山に於ける勞務よりも困難に、又城堡等に於ける嚴酷なる軍隊的勞務は囚徒をして更に殘忍なる性質を

帯びしむるに至れり。

工場は罪人に對し比較的良好なる地位を占めたり。露西亞に於ける工場の大部分は初めは個人に依り創設せられ、後政府の買収する所となれるもの多し。斯の如き工場即ちイルクーツク市附近にある、テクミンスキー工場（一七五一年ポプローウ、氏に依りて創立せらる）イルクーツク市に於ける、ゾールタコーウスカヤ陶器工場、トボーリスク市に於ける麻布工場（一七九一年の創立に係る）、オムスク市に於ける哥薩克兵の需要に充つべき、官設囚人羅沙工場其他なるが、是等は官營業として損失を招きしかば更に之れを低廉なる價額を以て個人に賣下ぐるに至れり。幾多の城堡中オムスキー城（一七〇八年創設）は一七八三年及び一八三七年二回に於て波蘭人に對し殘酷なる流血的懲罰を行へり。有名なる、ドスドエフスキー氏は實に此の地に住し、此の慘刑に遇へるなり。流刑的城堡は其他尙オホック、テジネ、カムチャック、ペトロバウロウスク（アワチ）、黒龍江口に於ける、ニコライエフスク（チニルラフ）イシム、セミバラチンスク、ウスチ、カメノゴルスク等に設立せられたり。流刑囚人を使役する工場中著明なるものは一七九〇年商人ブテキン氏により創設せられたる、ペトロウスキー鐵工場及一六四〇年ボヤルコフの部下たりし、



エロヘー・ハバロフ氏により沒收せられたる、ウスチラトスキ製鹽所にして又往時より創設せられたる、イルクーツク、ウスリに於ける製鹽所、トロイッキ（カンスキ郡）、セレンギンスキー製鹽所等とす。釀酒所は十九世紀の初めに於て全西伯利の至る所に設立せられしが、是等の大部は官營より個人に賣却せられたるものなりしが今は又再び政府の所有に歸するに至れり。

如上の諸工場に使役せられたる流刑囚徒は堡砦或は普通の家屋に住し、之れに附屬せる土地を自己の菜園として使用するを許されたるのみならず、又毎日三留と二布度の黒麥粉を給與せられたり。勞働は祭日、日曜日を除き、終年一日十二時間繼續せられぬ。是等の苦役人は過激なる勞働、瘧血病、癩麻質、梅毒、其の他の疾病より或は斃れ、或は逃亡するもの續出し著しく其數を減せり。地方に於ける堡砦の荒廢せるが爲め苦役人を使用する製造所又は工場は自然に閉鎖するに至りしは各地方皆其轍を一にせり。されど之れに代りて近時に至り、トボーリスク羅紗製造所若しくはイルクーツク市のアレクサンドロフスキ中央監獄所に於て種々の手工場設立せられたり。ウツリに於ける製造所は這般革命勃發するに至る迄囚徒苦役に依る事業繼續せられ一八六三年頃には同所に於て重罪犯の流

刑波蘭人苦役に服せしが現時は這般迄政治犯人が重罪犯人と等しく極めて苛酷に使役せらるを見る。アレクサンドロフスキ中央監獄に於て這般迄政治犯人の收容せられつゝあるもの八百人に達せり。

礦業苦役の行はるゝ主なる地方は一七〇〇年の創立に係れるネルチンスキー礦坑區地方なり。該礦坑は政府の委託による希臘人レワンデアンの設計に係はり莫大なる資金を注入して創始したるのみならず、附近の山地を探險して莫大なる富源の開發せられたるに拘らず多くの利益を擧ぐるこ能はざりき。此の地方は獨り鉛、銀、銅、水銀、硫黃、錫、鐵を有し又近時に至り富有なる合金地層の發見せらるゝに至れり。一七一二年迄は是等銀礦の發掘并に製煉は西伯利の各地方に移住せる農民に依りて行はれたりしが五十年を経過するに及んで、ネルチンスキー郡の各地礦坑工場に集り來れるもの七千人に達せしが、内一千人は一七二一年より此地方に送られたる流刑囚なりしと云ふ。是等の流刑囚は、始は露西亞本土に於て其服役期限を終りたる者に限りしと雖も、後に至りて露西亞の罪人中よりダウルスキ礦夫の名を付し、直に此地方に送られたり。彼等は一定の服役期限終了の後には或る額の賃銀を給與せらるゝの約束を以て



勞働に従事せりと雖も、是等の金額は一定の規定あるにあらずして、長官の意志如何に依りて左右せらるゝのみならず、服役期限の終らざる前に之れを農民に編入するが如きことあり。又出産或は轉籍の際に無期々限を付せらるゝ事等ありて之れを受けざる事屢なりき。例ば現に殺人囚なる父が一定の期限を終へたる後、囚徒工場より出で、普通村落に移つるを得たりしも、無辜なる彼の兒等は終身の苦役に就かしめられたることあり。是等官憲の不法行爲は終に無數の逃亡者を生せしめ、又有期限の苦役に服するの目的を以て、故意に犯罪をなすものを續出せしめぬ。勞働賃銀は極めて廉にして而も工場は屢々賃銀を拂はざることありしに拘らず、官吏或は番人の俸給極めて高かりき。銀の産出額は次第に減少せしかば一八五〇年に至り、囚人を以て銀礦を發掘し或は製煉することを停止し、彼等をカインスキー金礦地に移すに至れり。カインスキー金礦の一八五三年ラヂギクデイフ氏に依りて監督せられたる際は、該礦地の全盛時代にして、一定の勞働時間を勤めざる者は之れを鞭ち、之れを殺害する等苛酷極まる方法を以て一千人の囚人を使役し、採掘せる金額實に年一百七十二布度の多きに達せりと雖も、囚人の室扶斯、壞血病、過度の疲勞より死亡する者續出し、從て産出額も著しく減少するに至

りしかば一八八〇年に至り、囚人を採金業に使役するを止め、彼等を再び銀礦區に向はしめたり。近時囚人を使役せる礦區の重なるものは、アカドイスキー、ゼレントウイスキー、アリツェウスキー(婦人の監獄)、アルガチンスキー、其他廣漠なる含銀地層帯に散在する幾多の小礦區なりとす。是等の礦坑は出水の爲めに廢滅に歸せる所多しと雖も、又排水法を行ひ、事業を繼續しつゝある所少なからず。アカドウイ、ゼレントウイ及マリ、タウには近時新に完備せる監獄設立せられしが、是等は近時主として長期限の政治犯人收容せられつゝありき。流刑並に苦役開始の時代より已に罪人の勤勉、柔順、衰弱或は國家に特殊の功勞ある等の長官の認定により、或は特別の取扱をなし、或は其期限を増減する等の監獄制度定められたり。然れども其の結果たるや、唯金錢的賄賂に依り、甚だ如何はしき罪人と雖も、之れを拔擢して同囚徒内の監督者となし、又熟達せる職人の部に編入し、或は警察吏に任じ又は全く放免することあるも、而も其他の者に對しては一層苛酷の取扱をなすが如き此種の惡弊は、一八三八年に法律により囚人の服役期限を制限し又は定罪法の制定せらるゝに拘らず、近時尚盛に行はるを見たり。

抑も該法律なるものは無期流刑人第一種は八ヶ年間、十五ヶ年乃至二十ヶ年の



苦役に服する宣告を受けたるものは第二種四ケ年、十二ケ年乃至十五ケ年は第三種六ケ年、六ケ年乃至十二ケ年のもの(第四種)一ケ年半、又四ケ年半乃至六ケ年のものは(第五種)一ケ年各、監獄生活をなさざるべからずと規定せり。監獄の收容者は試験中の者と試験を経たる者との二種に分たる。前者は五乃至八「フント」の足枷を締め頭髪を剃去し労働の際には嚴重なる陸軍の番兵を附し又労働賃金を交付せずと雖も、後者は鎖を付せず労働には唯監視者に統率せられて労働に従事するのみならず頭髪を剃り落すことなく、又監獄の狹隘を來す時は法律に依り定められたる期限内之れを普通の家屋に收容するか、或は兵營に生活するを許さる。彼等は日課的労働に對し、少額の賃金支給せらるゝと雖も斯は開放の際交付せらるゝものなり。彼等の中には長官の認定に依り労働を免せらるもの少なからず。監獄に於ける給與は極めて僅少にして、ヤトリンツエウ氏の計算に依れば衣服を合して一人に對し一ケ年七十四留なりしと云ふ。苦役人の食料は百四「フント」の黒麵麩及び現金にて四哥を與へられ囚人は監獄吏或は囚人中より撰ばれたる監督者の監視の下に自ら麵麩を焼くと雖も、是等獄吏は往々此の支給品を劫掠するを以て、支給額は監獄局の豫算に依り査定せられたるものより遙かに少額なり。加

之に有らゆる些細の過失或は僅少なる自己の權利の防衛に對しても、甚だしく壓迫を加へ先づ棒を以て之れに臨む。監獄所長は自己の認定により囚人に五十以内の笞刑を施し、又明き監禁所内に七晝夜、暗き監禁所内に三晝夜間監禁することを得るの規定なりき。笞刑と雖も裁判の決定に依りて之れを行はざるべからざるのみならず、又一輪車に鎖を以て手を結び付くる刑罰も裁判の決定に俟たざるべからざる等凡ての刑罰は法律に依らざるべからざるも實際に於ては多くの不法的刑罰行はる。監獄制度は、最近數年間は其退歩殊に著しく、十六世紀に於ける穴窟牢獄を想起せしむる所あり。監獄に於ける囚人の生活の一般状態は、朝は祈禱朝食、檢閲労働に出で、労働より歸り晝食し、又労働に出で夕食、睡眠と、この定規的生活を繰返すものにして、極めて、單調なり。日曜日には希望者は寺院に行くを許され、監獄に於て書籍類は、一切之れを給與す、唯稀に、圖書室を有する監獄ありと雖も、斯は、單に囚人の讀む事を悦ばざる勸善懲惡、精神救濟的の書を備へたるのみ。西伯利の監獄、或はエタブに於ける食物の買入、調理、厨房、燒室の整理、室内の掃除等は、四十乃至五十人の團體を以て、之れを組織す。各團體は外部及監獄吏其他に對し、其代表者となるべき團長を選擧し、團長は監獄長之れを任命すと雖も、之れを變



更するには、團體の同意を要す。團長は長官に對し、團體に關する責任を帶ぶ。

大監獄にありては、是等の團長は、數人あるも、是等團長中に又總團長を置き、團長は獨り經濟事務を司どる耳ならず、各自の團體に對し、禮節、并に共同責任等を勵行せしむるが如き事務を司どる。組合、并に共同責任は、監獄に於ては、甚だしく重要視せられ、假令殺人、窃盜、詐欺を宥すも、告發、并に變約は、之れを宥さざるなり。若し團體中に於て互に規定せる規約に對し、不正の行爲をなし、又習慣を破るものある時は、他の團員は、烈しく之れを追遂し、團長なると然らざるを問はず、之れを毆打し、或は之れを殺害するに至る事あり。

西伯利の監獄に於ては大は、長官の命令より、小は骨牌に至る迄、更に火酒女等と雖も之れを購ふを得るを以て、團員或は團長の主力を盡して、獲得せんと欲するものは、金にして、彼等は出來得る限り、其多額を得んことを努む。金力は監獄に於て法律を以て、禁止せられたる有ゆる自己の満足を購ふことを得る、唯一の武器にして、其獲得の大小は、一に此の魔力の強弱の如何に由るものなり。慈善的寄贈品を得る地方にありては、斯は團體の收入中、最も、重要なものにして、又最も、大なる財源なりとす。而して其の一部は各自平等に分割し、一部は共同的豫備資本として、

之れを團長に保管せしむ。又彼等の間には、是等の資本金を充實せんが爲め、マイダンと稱する一種の競賣の如きこと行はる。是等商人(マイダンシチク)は食料品、衣服、針、糸、紙、封筒、靴、燭、煙草、火酒、骨牌等の專賣權を享有する代償として、團體に對し、其收入の多少に依り、十五留、二十留、乃至五十留、時としては百留を納付するに至ることありと云ふ。是等の金錢は、監獄に如何にして入るや、は詳かならざれども、或は監獄の番人を經、或は差入れ品に扮する等種々方法に依るものなるへし。囚徒が監獄に於て、自己の福利に對する欲望の満足を得るには、唯金に依らざるを得ざるを以て、彼等は此金錢の獲得に對して、有らゆる心血を絞りつゝ、あるは、一度、露國の監獄の内狀を窺ふ者は、其處に恐る可き光景の展開せらるゝを見るを得可し。金錢、特權を得んが爲め、強迫、詐欺、或は極端なる屈從等が囚人間に甚だ嫌惡なる方法に依りて行はる耳ならず、又四圍の大小官吏の苛酷なる要求、之れに對する買收等は、全く囚人の性質を根本的に墮落し終はるに至る。例へば偶發的非常習的犯人なる柔順にして正直なる人物と雖も、一度、此の空氣を吸ふ時は、著しく性質を變ずるは勿論、意志の薄弱なる者に至りては、是等非天性的犯人に感染して、眞實の惡人となり、社會を蠱毒すること、僅少にあらず。犯罪人間には現今所謂、彼



等獨特の風習、貞操、汚辱等より成る吾人の到底豫想し能はざる一種獨特なる社會の組織せられつゝあるは事實なりとす。苦役囚人の労働期限を終れる者は、往時は後貝加爾州の村邑に残されたりと雖も、近時は其の大部は、イルクーツク、エニセー、スク縣の僻遠なる郡部、又はヤクーツク州に送られたり。彼等はエタブを経て送らるゝと雖も、主として、春或は夏季河流に依りパウジクと稱する粗造の舟を以て輸送せらるゝを常とせり。苦役を離れて村落に來れる解放囚徒は歐露より直接に此地方に送られたる疲弊せる移住民の如く、囊中一哥をも餘す所なく、此地方の農民、又は土族の社會に入りて、再び貧窮生活に陥りつゝ、將來に於ける運命の開拓に従事せざる可からざるなり。彼等は此地方に於て、土地を給與せらるゝと雖も、厚顔なる者は之れを村落に要求し、又生活の援助を乞ふものあり。されど露人の村落に於ては、之れを顧るもの殆んどなく、其最も多くを與ふる者と雖も、僅かに退去料として三留乃至五留を與ふるにすぎず。然るに土民部落に於ては、流刑民は、宗主國民として、彼等より敬意を以て迎へられ、種々食物を給與せらる、而して是等給與品は流刑人の勢力が、土民を威壓する程度に依るものなるが、時としては、其量の著しく多額に達する事あり。故に此地方に屢々土地の給與一人に付十五デ

シチン内十デシヤチンは耕地、三デシヤチンは草刈場、四分の一デシヤチンは宅地、一デシヤチン四分の三は林地を受け居るに係はらず、土地の補助を受くるの壯者少からず。是等の大部は家族を有する、慣熟せる、粗暴なる住民にして、是等の家族は、其食料として、土族の部落より徵集するもの、一ヶ月三十留に達することあり。故に、此地方に於ける露人は紳士生活をなすに反して、支給者たる土民は、餓たる乞丐の如き生活を營む。彼等は自ら労働に従事せずして、土人等より多額の給與を要求するのみならず、彼等は隊伍をなして、掠奪を試み、到る處を荒し廻ることあるが故に、ヤクト人の如きは、甚だしく、是等露人を恐怖し、又之れを恨み、或は難を他方に避け、或は稀に、復讐を企つるに至ることあり。或紀行家の記する所に據れば、一八八六年ヤクーツキー郡、メグレンスキーの土人の部落に至りし時、四人の成年者と三人の子供より成れる、タール人の盜賊が、ヤクト人の爲めに、殺害せられたることありしが、斯る慘事は、彼等の住家内に於て行なはれ、其罪跡を湮滅せんが爲め、其家を焼棄したりき。又ウエルホヤンスクに於て、若き一人の流刑地より來れる漂浪者が、土人の復讐に遭ひ、路傍に倒れ居るに逢遭したるを以て、彼を病院に運び、治療を加へ、種々尋問せしが、彼は赤子の如く大聲を擧げ泣て曰く、土人は、我が面部を打ち、我



に食を與へずして、剩さへ我を嘲弄せり云々。

以上は此邊陲的部落地方に送られたる住民が、此地方に於ける獸獵或は漁業を能くせず、又何等の職業を見出す能はずして、永久の恐怖に圍繞せられ、時としては、土人の恨を受け、甚だしき蠻行を加へらるゝことありて、終には往時住居せる西伯利の都會、或は郷土の追懐切にして一種の望郷愁に罹れるを證するものならずんばあらず。

本國出の移民の稠密せる地方に於ては、此の如き悲劇を見ること少し。然れども此の如き住民蟬集せる地方、或は都會、大村邑にありては、多くの不正なる徒黨組織せられ、害毒を流すこと少なからず。西伯利に於て、大なる掠奪殺人、窃盜は主として、移住民の混入し來るによりて行はれ、流刑人は實に此の如き有らゆる惡事の首領、組織者、教師にして、此地に土着し工業、商業、或は輸送業に従事する此種の住民は之れの援助者、隱蔽者にあらずんば、贓品購求者ならざるはなし。オストログに堅く纏着し來れる囚人の氣風は、自己の仲間を隱匿し、又貧者には、食物、金錢的の援助をなすに至れるものにして、然らざる時は、彼等のために殺戮せらるるか、或は滅亡せらるゝが如き、危険を惹起するに由る。夫れ新住民より成れる新村邑は、其困難

なる經濟的狀態より、性來的の盜賊にあらざるも、遂には、掠奪者の群に投ずるに至るは是れ自然の數なり。西伯利に於ける獨創的研究者たる、マクシモウ・ヤードリオンツエフ氏は、過去現在の此地方に於ける漂浪者、及び流刑民の犯罪狀態を記載せしが、ヤクーツク州に於ける犯罪の大部は、全く普通重罪犯人により行はれたるを曝露せり。彼等は此地方に於て、ヤクーツ人と結托し、馬盜團を組織し、之れが爲め河流に於ける輸送業の全部を、一手に掌握するを企てたる事あり。彼等は、又都會の附近に住するヤクーツ人を黨與となし、ヤクーツク市民を震駭せしめたる、夜の強盜團を組織せしことあり。監獄より逃亡せる、流刑人のタ、ール人は、公然剽盜を事とし、白晝個人商店の番人を殺害せしことあり。酒精行商人、酒精を密輸入し、又金を盗むを以て、業とする商人は、主として此地方にある移民により行はるゝは、一般に認めらるゝ所なり。ウイテム、マチヤ邑は、是等漂浪人、流刑者の巢窟なり。西伯利に於ては、一種の強盜法行はるるを見る。即ち其の一は、一八九四(五年)の交、イルクトック市に於て、行はれたる、コセウカと稱するものなり。コセウカとは年若き無賴漢が薄暮、三頭立の西伯利式の廣大なる馬糧に乗りて、街路を疾驅し、捕索(馬、其他を捕ふるに用ふる索)を以て、通行人を捕へて、物品を掠奪し、少女の如きは之



れを丸裸にし剩へ強姦して、之れを郊外の雪中に投棄するが如き、殘忍極まる強盜にして、當時此の如き災厄に罹れるもの頻々として起り、巡邏兵の増加、哥薩克兵の徘徊も何等の效を奏することなかりしが、官憲の惡徒黨流刑人等に對し、嚴重なる檢舉をなすに至りてより、此種の強盜は跡を絶つに至れり。又之れと略時を同うして、コセウカはトムツク又クラスノヤルスクを襲ひたりき。

一八九一年、イルクースク市の新聞、ウオスチノイ、オボジレーニに於て、逃亡囚人のアレキセーなるもの徒黨を糾合し、イルクーツク市及其の附近に於て、殺人、略奪等に從事せる状況を記載せしことありしが、後ち二年にして、此の如き惡黨の首領、チエルウインスキーなるもの官憲の爲めに、捕はれて絞殺せられしが、此種の如き團體、今尙ほ依然として、繼續せり。一九〇三年頃、イルクーツク市其の他、東方の都市に於ては、此種の惡徒橫行の爲めに、市民は戒嚴令の下に生活し、夜間人家の稀薄なる處を通過する如きは、最も危險視せられたりき。西伯利に於ける警察は、甚だ無勢力なるのみならず、警察署自身の書記、巡查、探偵、其他の役員は、流刑人にして、彼等は地方の安寧、秩序を維持せんよりは、之れを助成する守護者となりつゝあるなり。是れ即ち西伯利に於ける殺人、掠奪は、益々増加し、生命財産の安全は、支那、朝鮮

の邊陲地方と何等の撰ぶ所なき所以なり。西伯利街道の路傍、殊に都會附近の地に立てる多くの十字架又は墓碑は、是れ地方に於ける殺人、掠奪を永遠に語る歴史にして、又地方新聞の三面は、常に有らゆる犯罪的記事を以て満たされ、又地方の村役場の如きは、村民の流刑人に對する詐欺、竊盜、其の他の訴訟事件に忙殺せられつゝあり。又無賴漢の婦人に對する侮辱、強姦等は、此地方に於ける日常の普通事なりき。而かも、是等大小の犯罪事件は、大概ね流刑人の行爲にして、假令流刑人等の直接之れに關與する事なしとするも、彼等の直接、之れが遂行に當るに非れば、必ずや之れが間接なる教唆、若しくは、鼓吹者たらざるはなきなり。吾人は、若し、西伯利の重罪犯人の歴史を觀察する時は、十七世紀に於て、河流に於ける強盜社會より始まり、現時盛んに行はれつゝある紙幣贋造者に至る迄、皆其源を流刑民に發せざるなきを知る、即ち彼等に依り創立せられ、又彼等の集り來れる地方は、即ち茲に、有らゆる惡事兇行發現し、強固なる巢窟を形成するに至る。西伯利の土着民即ち土人、及び露人は、何れも流刑民等の彼等の住域に侵入するは、彼等の平和を破壊し、秩序を紊亂するものなるを知るが故に、努めて彼等を排斥し、若し彼等の郷土に入り來るものある時は、金錢を與へて、其退去を要求するを常とせり。是れ實に疑もなく



西伯利に破落戸、漂浪者の多きを致せる所以なり。西伯利の厄介物たる破落戸は、西伯利の住民に對し、放火、強盜を防禦し、又は數萬を超ゆる彼等に物資を與へて養はざるを得ざる等、莫大なる負擔を負はしめつゝあるものと云はざる可からず。トムスキー、クベルンスキー、ウエドモスチ紙（一八七〇年第二號）の計算に依れば、トムスク市に於て、乞丐、物貰等に給與する金額は月八千留なりと。此比例を以てすれば、全西伯利の都會に於て、彼等に支出する金額は、ヤトリン、チエフ氏の計算に依れば、毎年二九六萬留の巨額に上る可し。其他、郡部の都會にあつて、冬季多數の漂浪者の來り、休憩する市立の監獄の維持費を支辨し、又州縣の首都は、此の種の監獄の維持費の半額を負擔す。歐羅巴露西亞に於ける破落戸は、種々複雑なる歴史を有すと雖も、西伯利にあつては、主として、源を流刑民に發せり。流刑民の總數中、其の地方の戶籍簿に殘留するものは、辛じて、其の三分の一に過ぎず、其他は行衛不明となり歸着するものなし。蓋し斯は、流刑人の四割二分、四は老衰或は勞働に不適當なるものなりしを以て、彼等は勢ひ路傍に哀を乞はざる可からざる耳ならず、又西伯利に於ては、彼等流刑民に對する勞働賃金の如きも、雇主は初めより彼等を使役するを好まず、一時的に彼等を使用するを以て甚だ低廉にして常に普通人民の

賃金の半額以下を給與するが如き、是れ即ち流刑民をして漂浪せしめ、又種々の罪惡を犯さしむるに至る所以なり。是等は露國の西伯利に對する殖民政策の誤れる結果を表白する一端にして、其他の例證を擧ぐれば、政府は戰爭に於ける捕虜を以て東部西伯利に於ける農民又は勞働者たらしめしが、是等の捕虜は農業に従事する事を嫌忌し、遂に農民を苦しむるに至りしを以て、政府は後ち之れを都會に移せしが、彼等は此地に於て始めて種々の適當なる職業を見出すことを得、獨力を以て土地を領有するに至れり。然るに其當時に於ける一般重罪犯人は、大概ね逃亡し、大團體を組織してレナ、エニセー河畔に集り、舟に搭じて村邑、商隊を劫掠し、官金又は朝貢物を輸送する政府の輻重を襲ひたり。

一七九九年、後貝加爾州の各村落到地方住民に供給す可き半ヶ年分の穀物を保藏し、又住民に家畜、種子、農具を販賣す可き官設の供給所設立せられしが、此の施設は一八〇六年、ニージュンスキー郡地方に流刑民の村落、設立せられたる時も亦實行せられたり。

一八二七年より一八三五年に至り、エニセースク縣の各地方に設けたる村落は、總計二十五個、其人口五九五二人、之れに費せる資金は二十七萬留に達せり。而も



エニセイスク縣は、此計劃の徹底を期して更に縣費約五萬留を支辨せしが、住民の大部は土地家屋を棄て漂浪者となり、又は犯罪人となり定住して農耕を營むもの尠かりき。一八八九年、トボリスク縣、タールスク郡に行政處分を受けたる流刑民より成る村落設立せられしが、一八八九年より一八九八年に至る統計に依れば一千三百七十八人の住民中八割九分六は直に土着的殖民者となれり。蓋しこの例の如きは、此種の村落の優良なるものなり。然れども懲治的刑罰の目的を以てせる露國殖民政策の不成功の明白なる例證は、實にサハレン島に於て見るを得可し。該島は峻巖なる氣候なりと雖も、西伯利の中部地帯の如く、好く健康に適し、且つ地下に無盡藏の良好なる石炭、石油、鐵等の礦脈を包藏し、鬱蒼たる森林を以て蔽はれ、肥沃なる土壤は農耕業に適し、南部地方は野生の葡萄、胡桃等成熟し、又米を産す、此の豊穰なる島嶼は其管理權を露國監獄局本部に與へられ、普通重罪犯人の配流所として、過去二十年間に於て支出せられたる金額二千萬留に達し、自由民及び罪人其他の移殖せられたるもの約三萬人、内一萬七千人は流刑民村落の設立せられたるもの百個獨立的生計を營むに至りしもの五千戸に至れり。然るに其後離島するもの多く、殊に日露戰爭起り、退去するもの益々多く、現今露領サハレン

に住する露人の數は三千人(主として兵士及び官吏)に過ぎず。今や全く大風の一過せる跡の如く荒涼たる狀を呈す。革命勃發前に於けるサハレン島は唯監獄内に生活するもののみ安全にして、他住民は寸刻と雖も、生命、財産の安固を期し難しと稱せられしが、こは解放せられたる流刑移民が、奔放なる秩序紊亂をなせるが爲めに、革命後に至りて其の暴狀更に甚だしきを見る。

露國政府は、過去三百年間に於て、全西伯利に送れる普通重罪流刑人の總數は、百萬人に達し、政府の之れに費せる費用は約十億留に達すと雖も、斯は露國本土に對し、何等の福利を増進せざるのみならず、西伯利の殖民に對しても何等の利益を與へざりき。懦弱疲憊の病患已に膏肓に入れる彼等は、家族的生活及び子孫繁殖の機能を缺き、假令一旦土着生活を成し、又は都會に集合することあるも、斯は忽ちにして人口を減少せしむるのみならず、社會開發に、有害なる病源を残すに止まれり。西伯利の殖民に積極的結果を與へたるは、専ら政治犯の流刑移民なり、即ストレリツ人、スタロウエル(宗派名)人の移殖は、慥かに當時尙ほ頗る微々たりし此地方の農業の發達に對し、貢獻せること僅少ならざりしのみならず、又地方自治制度を組織せしめ、又此の地方に配流せられたる波蘭人は、バルサ氏の説に依れば已に十七



十八世紀時代に於て、完全なる農具を利用し、レナ、エニセイ河畔に於て農耕業に従事せりと。デカブリスト(十二月黨)は、此地方に廣く教育を弘め、科學及び技藝に關する興味を喚起せしめ、十九世紀中此地方に移殖せられたる波蘭人は西伯利に多くの職業、手工業の本源を齎し、工場を創設し、道路を開き、野菜の耕作法及び其要用を教へ製蜜業を開始し、又文學を廣め、多くの風習を柔げ畫及び音樂を多くの西伯利人に傳播せり。彼等は全く今次勃發せる民主的革命思想を西伯利の地に移植せる第一の先達にして、比較的未開の度深き西伯利に於て、殆んど本國と歩調を一にし、時を一にして、革命の勃發ありしは全く彼等政治囚の流配せられありしに因る。されど人道より之れを見、人類の勢力及び福祉を保護するの見地よりすれば、政治的流刑民の此地方に拂へる大なる對價に依り購ひ得たる積極的結果は未だ其損失を償ふに足らざるなり。亞米利加は自由殖民により、大成功を收めたる著しき例なり。政治的流刑民を俟たずして獲たる大なる結果は實に西伯利と日を同うして語る能はざるなり。

西伯利に於ける流刑民の害毒は獨り地方の住民のみならず西伯利の行政官等の已に久しき以前より認識する所のものにして、西伯利に普通重罪犯人を移殖す

れば、地方の殖民に何等の利益を與へざるのみならず、甚だしき害毒を與ふるものなりとは、已に一八三〇年時代に於て彼地殖民間に公然唱導せられ、漸次其の勢力を増加し來り、西伯利の新聞、公設機關都會村落は、常に一齊に絶叫せる所なりと雖も、未だ地方長官は、此種の犯人の移住を停止するか或ひは少なくとも其數を制限せんことを乞ふの上奏書を提出せるものあらざりき。一八七三年始めてプリスを議長とせる委員會、流刑的移民を禁止し、罪の輕重に準じて之れを有期徒刑に處するの必要なるを主張せる建言書提出せしかば、政府は該問題を攻究し、又監獄制度改革に對する委員會ソルログア伯に依り組織せらるゝに至れり。此の如き機運ありしに拘はらず、西伯利に於ける流刑は、一般民衆の要望も一部當局者の認識も毫も顧慮せらるゝことなくして、革命起發以前迄繼續し來れり。流刑民の開始は十七世紀初頭に於ける一時的、無秩序的なる政治犯流刑に起り、其の中葉に至り秩序立ちたる普通重罪犯の流刑行はるゝに至れり。然れども斯は全十八世紀中には、其數政治犯に比し比較的少數なりしも、後者の數減少するに従ひ、前者は漸次に増加し、一八〇七年に至りては、一年に二千〇三十五人に上ぼりしが、此當時に至り、普通重罪犯の流刑は全く行政及び司法と相錯綜し、複雑なる關係を有するもの



と成り一八二七年其數一年に配流せらるゝ者六千人に達せり。

而して一八二四年より一八二七年に至る間には、歐露の城堡に幽閉せられし全囚人及び破落戸而して補充兵に充てられたる小犯罪人も皆西伯利に送らるゝに至りしを以て其數俄に増加して、毎年九千乃至一萬一千人の多きに達せしが、其の後に至り、其數は稍減じて毎年六千人となれり。

然れども一八三〇年には數千人の波蘭人より成る政治犯罪人を送りしを以て同年に於ける流刑民の數莫大となり更に一八六〇年規定の普通流刑民の外に一萬八千五百人の波蘭人及び邊境の反亂を企てたる之れに譲らざる農民移殖せられたり。然るに當時普通流刑犯人の數も著しく増加し、一八七八年には一萬七千七百九十人にして其の後十年間は、毎年殆んど之れと大差なく唯一八八三年には一萬九千三百十四人に上ぼりしことあり。降つて一八九〇年代に至りては其の數愈々増加して毎年二萬人に上ぼれり。一九〇〇年六月十二日の法律に至り、政府は行政的處分に依る流刑を禁止したりしが、政治犯の流刑俄に劇増するに至り、境界地方の反亂に参加したる農民の數を合して、其數三萬五千を算したり。日露戰爭の當時は有らゆる流刑民は殆んど全く其の跡を絶つに至りしも戦後自由移

民の獎勵と共に流刑民を送致し、殊に政治犯流刑の數は著しく増加し全く普通重罪犯を壓して年々五萬人の多數に上ぼれり。一九一七年三月革命勃發當時本國の政變に對する西伯利の敏感なる度を思ふものは、その淵源蓋し淺からざる所以を前述流刑民の狀況に依りて觀取し得べし。但し茲に特記すべきはヤクーツク州に送られたる虚勢流刑移民の成績なり。彼等は性溫柔にして勞働に趣味を有し、他住民を感化するのみならず同州の穀産物をして著しき多數に上らしめたり。

以上の歴史的事實は西伯利に於ける住民の素質を觀察する必要なる一條件にして又西伯利の社會が他の社會より如何に多く惡質分子の根源を有するかを察すると共に西伯利開發が年月の經過に比し著しく後れたるは實に是等にも亦其の素因を有する實情を察することを得べし。吾人は西伯利に於ける經濟的生活の主體たる住民を考察するに當りてはこの流刑民の事情を明らかにせざる可からざるを認めたるを以て茲に資料を集めて贅説することゝせる所以なり。

#### 第四節 西伯利に對する移民運動

西伯利に對する露國の移民は一五九〇年三十戸の農民を西部西伯利の一地方



に送れるを以て嚆矢とす。當時莫斯科政府は、哥薩克の攻掠的遠征と武裝的都市の建設とのみを以てしては、曠漠たる西伯利に其勢力を遺憾なく扶植する能はざるを悟り、土着的農民の移植を以て勢力確立の根本策となし之が實行に着手したり。此等の最初の移民に對しては、政府は極めて厚き待遇を與へ、農具種子を供せるのみならず、牛馬鶏若干と一家族五十留宛の給與をなせり。(五十留の金額は當時にありては現今の數十倍に匹敵せり)。されど斯の如き厚遇を以てする保護殖民法を以て漸次之を大規模の殖民計畫たらしめんには、之に要する莫大なる經費は到底當時の歳入少なき政府の堪ふる所にあらず。乃ち保護移民政策は變じて資用比較的少なき流刑移民政策となるに至れり。一五九三年、ドミトリー王の殺害後、之に關聯ある三百人の罪囚を耳朶を切斷してウグリチよりトボリスク地方に送致せり。以來この政策を續行せしが、次で一五九七年には、更に西伯利地方に種々の原因より逃走し來る者は六ヶ年以上該地に滯留せざるべからすと規定せる勅令を發せり。一六四五年波蘭人瑞典人リトウ人を主とする千五百人の流刑移民の送致あり、爾來續々流刑移民は西伯利に送られ來りしが、一方保護移民の計畫は再び之を見ることなく、本國よりの掠奪的冒險的企圖を有する逃走者若く

は自由移民の流入し來るもの漸次増加せりと雖も之れを西伯利の廣袤に比すれば尙海洋に滴水を注ぐの觀を脱せざりき。

吾人は前節に於て流刑移民の暴狀を觀察せしが、更に注意すべきは當時より流入し來れる此等本國の逃亡者若くは掠奪的自由移民の實狀なりとす。

當時露國にありては西伯利地方には獸皮其他の天產物夥しく豊富なりとの風聞盛んに傳へられしが、こは露本國民の著しき刺戟となり、而も當時の西伯利は征服時代に屬して朝貢を名として武力を以て恣に土人を掠奪し財寶を獲取するに便なりしかば、此地方に侵入する冒險者の移民の數は甚しく多きを致せり。されど此種の掠奪が盛んに土人を苦むるに至れる結果、土人自ら莫斯科政府に朝貢し救を直接政府に求むるに至り、露國に依て以て自國地方の位置を安穩たらしめんとしてトムスク市建設後程なくエニセイスク・キルギス族の酋長の歸順せるあり、その結果は意外なる方面に影響せり。然れども、かゝる惡質移民の原因せる地方的擾亂は、良民の移植に對して尠少ならざる阻碍を與へぬ。

抑々政府が流刑移民を西伯利に送れるは當時の政策上一時の便法に出でたるものなりと雖も、自由なる普通移民の妨害をなせるは疑を容れざる所なり。現時



流刑移民の一部即ち虚勢流刑移民の如きは可なり成績を挙げつゝあるに拘はらず、一般流刑移民より及ぼさるゝ種々の原因より普通移民は著しき窘狀に陥れるもの少からず。流刑移民の弊は夙に歐洲諸國の之を認めたる所にして、若し露國にして初めより健全なる地方的發展を庶幾せしならんには、一日も斯る愚策を採ること能はざりしならん。流刑移民が地方の擾亂を誘起して普通移民に迄その影響を及ぼしむるもの所在に之が例證を見るべし。今近き例證を求むれば、一八九一年オビ河畔に建設せられたるノニコライエウスク市は最近著しき進歩をなし忽ちにして西伯利有数の都市となり、從來商業殷賑を極め全く靜穩なる都會なりしが、日露戰後サハリン島より無頼なる流刑移民の一團此地に侵入し來り、窃盜殺人等頻りに行はれ數年間極めて不安なる状態を持續したり。

更に西伯利に於ける露國移民發展の状況を攻究せんに、吾人は其の材料の貧弱にして甚だしく精密ならざるに苦しむ。その調査の最も古きものを求むれば、歴史家スロウツォフ氏の調査せる一六二二年の統計にして其資料によりて表記すれば左の如し。

修道規約に準據せざる僧侶(自稱僧侶)

三〇〇(但男子)

正僧

五〇(但男子)

役僧

二〇〇

職工(ウグリチャン人家族ヲ含ム)

四、〇〇〇

哥薩克兵ト共ニ團體ヲ組織シ  
移動シツ、アル職工

二、〇〇〇

僧正其他宗務局直系ノ僧侶

一、〇〇〇

運搬業者其他

一、〇〇〇

計

一四、七五〇

されど、斯は當時西伯利に定住せる尠少ならざる農牧業者を加算せざるものにして、西伯利在住の露國移民の計數に於て著しく僅少にすぐるを認む。更に同氏の說に従て表記するに

一七一九年

三七、〇九六戸

一七六六年

二五、七四五(エニセイ以西)

一七八五年

三五、五〇九(エニセイ以東)

五四、七〇〇(エニセイ以西)

三七、五〇〇(エニセイ以東)

この調査には幾分の過誤なきを信せられざるに非るも大體に於て其の事實を認むるを得べし、即ち之に依れば、二十年間に於て、エニセイスク以西の人口は約二



倍し、其の以東の人口は約十倍の増加を示せり。されど一七八五年の調査はエニセイ以東の人口に對し、土着民族の調査し得たる所のものを加算せしに非るかの疑なきや保し難し。

翻て流刑移民の状態を見るに、是等を西伯利に送るに先ちて之を帳簿に記録せるに相違なく又一人宛の經費等は政府の決算表に表はれ居るべき筈なれども、當時政府の秘密主義は是等を外間に洩さずして、何等の確なる證據の書類を發見するを得ず、從て其の人員數も精密なる調査を遂ぐる能はざるなり。然れども十九世紀の初葉即ち一八〇七年に到りて、始て流刑移民に關する報告發表せらる。該報告に依れば當時は毎年約二千人の罪囚を西伯利に送れるものゝ如く、其後の發表を見るに一八二三年に到る迄は殆んど平均該數の罪囚を送り、此の年に到りて急に罪囚の數六千六百六十人に増加し、爾來一八七七年迄に送られたるもの合計三十九萬三千九百十四人に達せり。其後の發表は又しても秘密裡に葬られて明らかにするを得ざれども、毎年略六七千の罪囚送られたるものゝ如く、二十世紀に入りて本國に於ける革命運動漸く盛んなるに到り政治犯人の西伯利に送らるもの益々多くなりしは事實として認むるを得べし。而して日露戰後本國政府の

移民獎勵熾烈となるや、普通移民と共に流刑移民の増加益々多きを告げたるものゝ如し。而して是等移民中の一部は農業に牧畜に或は其他の職業に従事せしものもありしが、其の大部分は先住移民の使役者若くは漂泊者となり、後金坑の開發盛になるに及び多く是等坑山地の坑夫となれり。

西伯利の普通殖民地として露國朝野の注意を喚起したるは農奴開放後にして、農奴の位置を如何して良好ならしむべきかの問題に對し、西伯利の自由なる天地は之に最適の解答を與へたり。されど、一八九一年の西伯利鐵道起工以前は、中央露西亞より西伯利に入るべき移住民は殆んどトムスク縣内に限れる觀ありしも、此地方に入れる移民と雖も冬季六箇月間は殆んど何等の職業をも得られざるの狀態なりしかば、露本國に於てこの問題に關する爭議喧しく遂に政府當局の注意を喚起し、一八八四年四百萬留、翌年二百萬留の支出を見たりしが尙好結果を得るに到らざりき。而して西伯利地方に於ける堅實なる移殖民の運動が旺盛となりしは西伯利鐵道敷設以後とす。無人の曠野に於ける斯る大鐵道の敷設は人口稠密なる歐露の農民をして此地方に移住せしむるの動機となり、又西伯利鐵道應及本國政府も遂に西伯利殖民事業に對し多大なる注意を拂ひ、之が德愆をなすに到



れり。

更に最近西伯利に對する移民運動を急速に發達せしめたる主因を攻究するに、  
 (一)は歐露内に於ける土地不足の傾向の増進せると、(二)は一八九〇年代に頻發せし  
 露本國內の凶作なりとす。更に人為的原因としては(一)は前記西伯利鐵道の開  
 通と、(二)は政府の移民に對する諸施設なり。從來西伯利移民に對しては寧ろ不熱  
 心の態度にありし露國政府は一八九〇年頃より漸次積極的行動に出で、補助金の  
 支給、移民地點の開設、移民事業管掌に當る專任機關の設置、鐵道による移民運動の  
 値下、及一九〇七年に於けるが如き村役場よりの特別招致等、各種の手段を盡して  
 之を獎勵する所ありしが、西伯利鐵道幹線の開通は著しく西伯利移住を容易なら  
 しめ且つ急速ならしめたりしかば、遂に急激なる發展を見るに到れり。尙茲に注  
 意すべきは日露戰後露國政府が從來より著しく移民運動に對し熱心となり、莫  
 大なる國帑を之に投せることなり。蓋し西伯利に對する國防施設益々緊要なる  
 に至り、政府は多數住民の移植を以て西伯利防衛策の一たるを思惟せしが爲めな  
 り。

今、最近に於ける移民運動の趨勢を明らかにせんが爲に、一九〇六年、スタウロウ

スキー、アレキセーフ兩氏の編纂に係る「西伯利に於ける移民」所載の統計を掲ぐれば、

年次	移民事業經費	移民地としての配分地	移民數
自一八八五年 至一八九二年			二五八、一五四
自一八九三年 至一八九九年	同上數		概算 五一四、〇〇〇
一九〇〇			二一九、〇〇〇
一九〇一			一一〇、〇〇〇
一九〇二			一一一、〇〇〇
一九〇三			一一五、〇〇〇
一九〇四			四七、〇〇〇
一九〇五			四五、〇〇〇
一九〇六	千留 四、九八六	千デシヤチン 一、〇六五	二〇九、〇〇〇
一九〇七	一三、五二二	四、七〇一	五七七、〇〇〇
一九〇八	二八、七八〇	八、九八一	六七三、〇〇〇



一九〇九	二二、四六三	六、〇二一	五三〇、〇〇〇
一九一〇	二四、四四八	六、〇一五	三四五、〇〇〇
一九一一	二六、二九三	三、四五九	二二九、〇〇〇
一九一二	二八、二五三	三、八三八	二五九、〇〇〇

即ち一八八五年より一九〇四年に到る二十年間に於て露國が西伯利に送れる移民數は總計百四十八萬八千〇四十八人にして、一九〇五年事實に於ては一九〇六年以後日露戰後に於ける露國政府の大規模にして組織立てる移民運動獎勵に係り、實に一九一二年に到る八年間に於て約二百五十萬人の保護移民を送れり。更に一九一三年以後の移民を見るに、その統計の明確なるものを得難しと雖も各地の移民數を概算するに大略左の如し。

一九一三年	二八八、五〇〇
一九一四年	一九三、三〇〇

一九一四年七月大戰の勃發ありて、此年露國の國情稍動搖せるありて政府も移民事業に對する施設意の如くならず、遂に以上の激減を見たるもの、如し。

而して各州縣に涉り移民の狀態及び其の待遇及保護の狀態を攻究するに左の

如し。

### 一、沿海州。

歐露及西伯利奧地方の農民は、從來本州を青き楔と異名し、土地豊饒にして移民に好適なるを賞揚せしが、南烏蘇里地方の耕地は既に移民哥薩克又は舊住朝鮮人に占有せられて殆んど餘す所なきのみならず、一九一三年烏蘇里河系の大洪水及對支外交紛亂の風説等の障害ありて新移住は一時頗る沈衰を極めたり。

當時ゴンダチ總督は從來の移民政策即ち農牧を主眼とする家族移民策を變更して、専ら都會の發展に資すべき單獨出稼民を獎勵し、支、鮮労働者を壓倒するの政策を採りしかば、一九一三年には家族移民の數は單獨移民の數より約五分の一となれり。一九一四年には前策を採り新式出稼民の獎勵に努めしも、西歐の風雲急を告げ終に大戰の突發となり、其目的を達する能はず、普通移民の數も著しく減少せり。目下新移民地として好適の開放地はニコリスクウスキ郡にてはボシエツト地方の南部海岸及朝鮮接壤地方にして永久借區料一平方サーセン毎に毎年一哥を納むる條件を以て部落的若くは箇人的移民を歡迎獎勵しつゝありき。オリガ郡にてはオリガ灣の北方一帯に存し、イマン郡にてはイマン河の上流河系



及ウカシラア河系等に横はり、ハバロフスキ郡にてはハバロフスク市より二百露里のピラ河系、シンダ湖附近、コルッヘ、アルチャンの兩河系地方に甚だ多し。ウードスキ郡にてはアムグン河系及オホーツク海沿岸地方に存すれども、氣候風土農牧に適せず、漁業及鑛業に有望なり。

政府は移民一家族に四百留の家屋建築資金を貸與し、殊に朝鮮界並に交通不便なる地方に移住する者には、貸與金の半額は其の返納の義務を免除し、尙一般に蒔付種子を交付し、農具の年賦拂下をなし、且木材の伐採、魚漁及獸獵の自由を與へて盛んに移民を奨励せり。而して一九一三年の保護貸與件數は一萬二千二百六十、金額七十一萬二千九百七十七留に達したる外、新移民に貸與したるもの千六百七十七家族に對し、二十八萬三千二百八十留に及び尙道路の修繕、新設、新移民地の踏査及整理等に消費せる金額は實に二百八十餘萬留に上れり。

#### 二、黒龍州

一八九六年露國移民局設立と共に移民始まり漸次其數を増加し、一九〇四年以來の移民のみにても約十萬を算し、黒龍鐵道の開通は益々新移民の増加を示せり。されど其歸還も少からず、大約六%乃至十二%に達す。歸還の原因は日用品の不

足二十六%地所の不適二十三%氣候の不適二十家族の不運十三%等を重なるものとす。

移民の餘地は州内に到る所に存し、政府は移民一家族に對し、四百留の補助資金を爲し、主としてゼヤ、ブレヤ兩河間の上流、東北部耕地に力を致し、此地方への移民に對しては右四百留の半額は返還の義務を免除せり。

#### 三、後貝加爾州

本州に於ける一九一四年迄の移民地區は、鐵道沿線にてはタラバカタイ、ヒローク、モグソン等の驛附近にすぎざれども、ウイツテム河の上流、及其の支流に沿ふタムナ、エラウインスカヤ、ロマノーフコエ、クムキンスキ等の村落附近は、其地積頗る廣く、ネルチャ河の上流、アキミンスク及黒龍鐵道、ブシユレイ驛の西方、ピカチャチンスキー並にオノン河に沿ふウスチイリヤ等の地區も亦狭小ならず。移住者は州の北部地方即ち黒龍鐵道沿線の奥地に於ては、家屋建築資金四百留、其他の地方にては二百五十留を貸付し、而して其半額は保護金として返却の義務を免ずることあり。

#### 四、勘察加州



本州の移民は、ムラビョフ伯が一八五二年に右脚南部のアヤン街道を開鑿して、ヤクーツク市とオホーツク沿岸とを聯結し、二十五家族を勘察加半島に、百二家族をアヤン街道に移植せるを以て嚆矢とす。されど穀類成熟せず、家畜は牧草缺乏の爲斃死し、加ふるに窒扶斯壞血病頻發し、成績極めて不良なりき。然るに日露戰後政府移民獎勵あるや、一九〇九年吏員を派し探査せしめたるに、半島の東岸ペトロバウロフスク附近及勘察加河沿岸七千方露里の地は稍移民に適するも、其他は土地泥炭より成り蘚苔に蔽はれ濕潤なるのみならず、地下數尺以下は凍結し農牧に適せずとの報を得たり。仍て一九一一年黒龍州より五十一家族と牛馬七十頭をペトロバウロフスク附近及勘察加沿岸に、移植し之に漁業の特權を與へ傍農牧養鶏養蜂を營ましめたり。爾來麥類馬鈴薯の收穫あるも、到底有望なりと稱し難し。其後西岸地に數部落の創設を見たりしが、現時衰頹甚しき状態にあり。他地方に於けるが如き移民計畫を見ず。州内人口は平方哩〇、〇八人にして土人六六土人と露人の混血人二七%純露人七%なり。されど本州に於ける準移民たる漁業就業人は夏季甚だしく喟集し、日本人のみにてても時に二萬餘に達することあり。されど十月には既に去つて片影をも止めず。

### 五、樺太州

日露戰役前は罪人追放地に充て毫も産業の發達を計らざりしが、其の南半を日本に割讓せし後、一九一三年に至り勅令に依り移民一家族に對し四百留の資金を貸與し其の半額は返納に及ばざることとして、其の招徠に努むれども之に應ずるもの甚だ僅少なり。一九一三年の調査によれば全州の人口九、三六一人にすぎず而も露人は六、九四二人を算するのみ。

六、イルクーツク縣

最近に於ける新移民は、ニージネウーヂンスク郡にてはタイセツト、ツルン、イケイ、及クイツンの四區、バラガンスク郡にてはジミンスキ、オコタギニンスキ、オシンスキー等の地區、ウエルホルンスク郡にては南部地方のヤクーツク街道沿線、其他三箇所、イルクーツク郡にてはヤクーツク街道の沿線及び貝加爾湖附近に招致され、政府は交通至便なる地方(イルクーツク、バラガンスク、ニージネウーヂンスク三郡の鐵道沿線及びヤクーツク街道の沿線地方)に移住する者に對しては百留、稍交通不便なる地方(イルクーツク郡のキタ、トイスク兩河沿岸一體及びバラガンスク、ニージネウーヂンスク兩郡の鐵道沿線より遠隔せる地方並びにウエルホル



ンスク郡のヤクーツク街道に遠き地方に移住する者には百六十五留、タイセツトツルンクイツン、ジミン、オコタギン、クツリク、オシン等の不便なる移民區に移住するものには二百留及最も交通不便なる奥地地方(キーレンスク郡の大部、ウエルホレンスク郡の奥地及カタムル、ウード、キール、タンガ、ウルンカ、シール等の諸河沿岸奥地)への移民に對しては二百五十留の資金を貸與し以て移民を獎勵せり。

七、エニセイスク縣。

最近移民の招致されたる地方は、クラスノヤルスク及カンスク郡の鐵道沿線地方(移民に對し貸與金を爲さず)アーチンスク郡の中央部及カンスク郡のイムペーシ移民區(一家族百留の貸與金あり)、アーチンスク郡のラフトン、コズーリ、ボクローフ、ポドソーセンの諸村落、キズイリ土人部落、カンスク郡の奥地、エニセイスク郡のピンチユエグ、ケゼーム村、クラスノヤルスク郡のキヤイ、ジャリン、ボーゼムルチン村及ミヌシンスク郡の南部を除ける各地區(貸與金百六十五留)アーチンスク、クラスノヤルスク、エニセイスク三郡の邊境地方及ウシンスク地方(二百五十留を貸與し、ウシンスクへの移民は百二十五留は給與され返還の義務を免す)等なり。

八、ヤクーツク州。

西伯利に於て未だ移民の計畫なき一州にして、その人口の増加の如きも、一九一二年より平均増加数は年約二千餘人にすぎず。唯流刑移民の年々送致さるゝもの多く、開墾伐木探礦其他の勞役に服せしめらる。

九、トムスク縣。

西伯利に對し移民運動の起れる當初より本縣は其大部を收容し、西伯利に於ける移民の最大多數は本縣管内に移住せし者に係る。蓋し土地豊饒にして農牧に適すると、交際の便、他に比して優れる結果に外ならざるなり。殊に一九一〇年亞爾泰地方に於ける御料地の一部を開放し、人民の移住を公許せし以來、其の趨勢更に著しく發展するに至れり。現時トムスク郡にては亞爾泰、トーシセガール、チスキン、ザチュルイム及トムスク移民區内の深林帶、マリンスク郡にてはチュフテート、ゾロイスコウ、及ルビン移民區内の深林及一般原野、及カインスク郡にては北方地方バルナウル郡にてはクルンゲン移民區、其他各郡にては隨所に夫々新移民區を劃して、毎年移民の招徠に腐心し其の蝟集し來る移民數も夥しく多數なりと雖も、尙移民に適應すべき廣大なる地區の殘存せるものあり。同縣内の林材に乏しき高原地帯に移住する者には一家族百留、カインスク郡の北方荒地トムス



ク郡の交界地及亞爾泰山地々方に移住する者には同百五十留、トムスク、マリンスク郡の最北境に移住する者には同二百留、ナールイム地方のチスキン村に移住する者には同二百五十留の貸與金を交付し之れが獎勵に罷むるも、其他の地方への移民に對しては既に其の特典を撤去せり。而して一九〇七年以來一九一二年迄の本縣への移民數を擧ぐれば左の如し。

年次	官有地移住者	御料地移住者	合計
一九〇七	二四二、九五〇	—	二四二、九五〇
一九〇八	三一一、九四四	—	三一一、九四四
一九〇九	二二〇、七五九	—	二二〇、七五九
一九一〇	二〇、三〇一	七八、〇〇七	九八、三〇八
一九一一	五三、七八九	四五、五二六	九九、三〇五
一九一二	四一、五三二	六五、一一六	一〇六、六四一
一九一三	—	—	八九、六九五
一九一四	—	—	約五〇、〇〇〇

十、ア・ク・モ・リ・ン・ス・ク・州

一八七〇年頃本州には未だ一箇の農村すら見ること能はざりしが、一八八九年七月の勅令以後漸次本州に移住するものを生じ、爾來西伯利鐵道の開通は蓋其趨勢を助長し、其の移民増加の傾向は左の如き結果を示せり。

年次	移民數	全西伯利移民數トノ比例
自一八九四 至一九〇五	一年平均二八、〇〇〇	一六%
一九〇六	六一、七七二	三〇%
一九〇八	一四〇、三五〇	二二%
一九一二	二二、二四二	一〇%
一九一三	二五、四二三	一三%

されど毎年原籍地に歸還する者亦少からずして其數平均新移民の一八%を占め一九一三年度の如きは合計九千三百七十三人の歸還者を出せりと云ふ。

如斯本州の移民は逐年次第に遞減しつつありと雖も、其の移民し得べき地區は茫漠として隨所に介在せるが如し。而して現在移民の占據せる地方は、ペトロパ「ウロフスク郡の第五區、フセワートスカヤ邑附近、コクチャターウ郡クリラゼー、ルナヤ邑附近の移民第六區及コクチャターウ市附近の移民第三區、アクモリンスク



郡の移民第二・三・四・五區のボーリセシハイローフスコエ邑及アレキセーエウスコエ邑附近、アトバサール郡の各移民區等にして、移民獎勵の爲めベトロバウロフスク、アメバサール、及アクモリンスク郡の南部地方に移住する者に對しては一家族に付き二百五十留宛、アトバサール郡内イシム河の東北地方及オムスク、コクチャ、ターウスク兩郡の接壤方に移住する者に對しては同二百留を貸與す。  
十一、トボーリスク縣。

移民の成績は一九一三年、一萬七千四百人、一九一四年に一萬六千二百餘人の移植を見たりしが、未だトムスク縣の如く優良なる能はず、イシム高原、クルガン、ダラ、チユーメン、ヤルトローフ等の地方には尙充分に之れを收容するの餘地あり、而してチユーメントボーリ諸郡の北部、及ツリン地方への移住者に對しては一家族に付き二百五十留、其他鐵道沿線及イルツイシ河沿岸を除く地方に移住する者に對しては同二百留乃至百六十五留の保護金を貸與して獎勵すること前述諸州縣に於けると等し。

十二、セミバラチンスク州。

移民はザイサン地方及北部高原地方に獎勵せられ、一九一三年、一萬四千餘、一九

一四年二萬四千三百餘の新移民を見たりしが、バウロダール地方にては第一移民區乃至第五移民區に至る迄尙廣大なる移民餘地を剩すのみならず、其他の地方例へばカルカラリンスクの第一第二移民區、セミバラチンスクの第二第三及第四移民區、ウスチカメノゴルスクの第一乃至第四移民區、ザイサンの第一第二第三移民區等には尙夥しく廣大なる移民餘地を存せり。尙バウロダール地方への新移民に對しては一家族二百留、支那國境への移民に對しては同二百五十留の補助金（其半額は返納を要せず）を貸與し、之が勸奨に努めつゝありき。

而して此等移民は露西亞本國の何れの地方より多く送りしかを明らかにせんに、その統計は一八八五年より一九〇六年に到る間のみに止まり、其以後を明らかにするを得ざれども、大體に於て移民送地地の趨勢は持續せるものと認めて不可なき憑證あり。之れを掲ぐれば左の如し。

中部露西亞七縣

五五四、一三七

内譯クルスカヤ

一五一、五七三

チエルニゴウスカヤ

一二三、八七六

タレボーウスカヤ

一〇〇、四八三



西伯利經濟地理

ペンゼンスカヤ

一七三、八〇〇

オルローウスカヤ

トウリスカヤ

リヤザンスカヤ

中部黒土地方

三二〇、九七五

内譯ボルターウスカヤ

ハリコーウスカヤ

ウオロネージカヤ

西南部黒土地方

四二七、六二

内譯キイウスカヤ

ボドリスカヤ

ウオリンスカヤ

其他黒土地方

五六三、三三四

黒海沿岸地方

九〇、七〇二

ウオルガ烏拉爾地方十縣

二三三、六五四

ウオルガ沿岸工業地二縣

二一、五九五

西北諸縣

八、三七八

内譯ペテルブルグスカヤ

ノウオゴロドスカヤ

ブスコウスカヤ

西部諸縣

一七五、九七九

内譯グロドネンスカヤ

ウイレンスカヤ

コウエンスカヤ

モギレーウスカヤ

ウイターブスカヤ

ミンスカヤ

更に移民移植の状況を縣別に掲ぐれば

自一八九九年至一九〇九年各縣別移住民數

トムスク縣

一、〇九四、九〇〇人



阿克モリンスク州	四二一、五〇〇
トボーリスク縣	一八〇、〇〇〇
エニセイスク縣	一三〇、八〇〇
セミバラチンスク州	六八、〇〇〇
イルクーツク縣	五四、二〇〇
後貝加爾州	五八七 <small>村落</small>
極東地方	二八、五七八 <small>人</small>

此の趨勢は、此の前後に於ても持續せられたるは事實にして、トムスク縣は常に大多數の移民を收容し、其の對移民施設も他地方に比し遙かに優秀なり。是れ移民を最も吸収したる最大原因なるが、其の交通の至便なると、トムスク市が西伯利に於ける政治的經濟的中心地たりしと、その地方の土壤が豊饒たるとに因ること又看過すべからず。西伯利に於て全く政府の保護に依る移民計畫の缺如せるはヤクーツク州なりとす。こは此地の位置僻遠にして交通不便なると、氣候嚴烈なるとに因りて、移民に依る經濟的開發の期し難きが故なり。嘗て流刑移民は盛んに送られ、開墾伐木に従へるも其成績思はしからず、唯土人及先着住民等の社會を

動亂せしむるにすぎざりしが、去勢移民を此地に送致するに至り漸次此の傾向を緩和するに至れり。是れ彼等の性溫柔にして、且つ勞働に興味を有し種々の手工的技能に巧みなるが故に、漸次周圍を善化せしに由るなり。

是れ等西伯利に移植せられたる移民の質に就て考察するに、必ずしも悉く良質を以て目すべからざる多くの憑證を發見せざるを得ず。西伯利を以て致富的樂園の如く思惟して移民地に到るや、何等勤勞を以て之れに當るなく惰眠を貪りつゝ、天來の利福を待たんとするあり、或は舊住土人の所得蓄財を強奪して自己の産を成さんとするあり、爲めに失望して歸國し若くは他へ移民せんとする逆移民を續出せしめつゝあり。この質的觀察を加ふるに最も根據たるべき教育の有無に就きて之れを見れば、西伯利移民は量的の増加に伴ふて質的の増加を致さざるの弊を有す。一九一〇年度の公報の示す所に従へば、西伯利各縣の住民にして文筆を有する者の比率左の如きを見る。

トムスク縣	一七%	男
トボーリスク縣	一八%	
エニセイスク縣	二〇%	
		女
	四%	
	五%	
	七%	



イルクーツク縣	二二%	七%
後貝加爾州	六%	二%
ヤクーツク州	二三%	四%
黑龍州	三五%	一二%

西伯利の經濟生活に對する移民運動の影響を考察するに、最も重大關係を有する逆移民の狀態を考量せざるべからず、蓋し人口稀薄なる西伯利に於て最も貴重なるは勞働階級の人口にして、之れを失ふは西伯利經濟界に於ける甚大なる損失ならずんばならず。この逆出移民の狀況を詳らかにせんに、之れを統計的に表示せば左の如し。

年次		入移民に對する逆出移民の割合	
自一八八五	至一八八八	三・四%	
自一八八六	至一八八九	一〇%	
自一八九〇	至一九〇九	一四%	
一九一〇		三六%	
一九一一		三六%	

一九一二	三八%
一九一三	二一%
一九一四	三五%

之れに依て之れを見るに、一八八〇年代及一八九〇年代に於ては逆移民數の増加遅々たりしと雖も、最近數年間に於ける逆移民の増加は實に驚くべき多數に達せり。今移民の質的粗惡に因る主觀的原因を措き、純客觀的原因を考察するに之れを以下の數箇の原因に歸するを得べし。

(一)最近數年間に於ては移民地區の擴張に伴ひ、到底彼等の力の如何とも爲すべからざる底の森林地、極端なる濕地、汚穢動物(蠅蚊蛇)と闘はざるべからざる鬱林地又は曠野、飲料水すら缺乏せる(移民地區に對し政府は井戸開鑿に努むるもその施設到らざるごとあり)乾燥地、鐵道及市場への距離著しく遠き無道路の地區、無道路地と僻遠地とは鬱林地に於ては其の不便殊に痛切なり、等の最も不良なる地區を屢與へらるゝこと。

(二)西伯利に於ける工場工業微々として振はざるが爲め移住民及其家族は何等恒久的の副業收入を有せず且つ勞働供給過剩の結果移住民のみならず舊住民と雖



も其の家計に收入減少を來せること。

(三)物價騰貴に因り新家屋の建設費及諸設備費(牛馬購入費及農具諸具費)の著しく増加せること。

(四)現今西伯利に赴く移民は、往時の如く比較的富有なる農民にあらずして、全く資財の貯蓄なき經濟的に微力なる農民のみ増加せること。

(五)自由移民として來入せるものは、其の目的地は既に他人の占有する所となり若くは來往を禁止せられたるが爲めに、其の希望地點に卜居する能はずして失望するもの續出せること。(移民中には多數の自由移民を有し一九一一年には三二%一九一二年には三六%に達せしが、彼等は移住の許可を有せず勿論政府の保護を受けず、從て彼等の希望地域は之れを得ること能はず若くは他人の占有に歸し、其の農業經營も著しく困難となれり)。

(六)最近數年間に於ける西伯利の凶作頻發せしこと。(移民地區の擴張と共に地質膏腹ならず氣候雨量甚だしく不良なる地方をも移民地區に設定せられ、此等につきて理解なき本國よりの移民は何等の特別なる考慮をなさずして農耕に當りしが爲め、必然にして不慮なる災厄の多くに際會せり)。

一九一三年以降西伯利移民應は、種々の失敗に鑑み寧しう移民事業に對しては數量的の増大を期せんより、其の經營の性質的改善を主要目的とするに至りしかば、一九一四年には歐洲戰亂勃發の爲め人心動搖して移民の減少せる一方、政府のこの方針の變更によりても亦著しき移民減少の趨勢を見たり。

## 第五節 哥薩克及土地制度

### 第一、哥薩克

西伯利の移民運動を考察するに當り、吾人の到底看過するを得ざるは、西伯利住民中に於て異數なる勢力を有する哥薩克族の現状なりとす。哥薩克は、或は極めて勇悍なる露人とは自ら相異なる別種族の如く考へられ又露國軍隊の中堅たり精華たるが如く思惟さるゝも其實は必しも此の如き意義を有するものにあらず。野生的蠻勇に富み又其尙武的特殊の習俗を有する歴史的集團と認むべきも決して特別なる種族と見るに能はざるなり。

抑々哥薩克の起源を尋ぬるに、十三世紀中蒙古の王族拔都汗部下の韃靼人を率ゐて露國に侵入し、其領土を支配するに到るや、氣慨ある露西亞人は異種族の治下に立つを欲せず、南方ドン、ドニエプル、ヴォルガ河畔の曠野地方に移住して、何茲に



等の權力をも戴かざる自由の領域を形成せり。是哥薩克族の起源にして、コサクとは韃靼語にて「自由の人」を意味せり。彼等の移住せる大河沿岸地の無邊の曠野は、進撃して掠奪を逞ふするにも、復讐を免かれんが爲めに逸走するにも、天然の利極めて大なるものありしかば、彼等は意の儘に近隣の住民を襲ひ劫掠貪取飽くなりき。彼等は斯くて斷へず他族部落を破壊し、或は商隊を掠奪し、或は海上に出づ船隊を撃破し敵の捉ふるを以て無上の戦功となし、恰も我が足利末期の倭寇に彷彿たるものありき。

十六世紀の中葉時の國王イソンは其鎮撫策として彼等の歸順を許し、彼等に軍旗を下賜し且つ火藥鉛等を給與し、以て露西亞南境の警備に之れを利用せり。爾來哥薩克は、露西亞皇室と密接なる關係を有し、一朝外國と戦端の開かるゝや、常に敵味方をして驚嘆せしむる如き武勳を樹て、ロマノフ王家の親衛兵を以て自任するに到れり。

哥薩克の西伯利に現はれたるは、十六世紀の末葉にしてイワン王の治世なりき。一五七九年六月、哥薩克の隊長エルマーク、其の部下千六百三十六騎を率ゐて西伯利城攻略の征途に上れり。而して斯は露西亞の西伯利經略に於ける發程なりき。

遂に彼等は其の目的を果し、更に其附近若干地域を征略し、以てイワン王に奉獻せり。エルマークは爾後其の征服の歩を進めしが、其の陣歿後部下等はイルチツシユ河流域地に定住せり。之れを西伯利に於ける哥薩克の始祖とす。以來歐羅巴露西亞より移住せるあり、西伯利在住の露人及土人にして哥薩克に編入せらるゝものもあり是れ等哥薩克は西伯利の特性たる河流水運の利に依り舟筏に棹して漸次奥地に入り莫斯科政廳は之れを利用して漸次に其政治的勢力を東方に擴張すると共に哥薩克の遠征を助けたる結果、漸次其の屯在地域も擴大せられ、西伯利南部及東部邊境に延亘して哥薩克兵村を連ね屯田用地を與へ之れを以て國防線を形成せり。之を其住地別に依り、四分すればアクモリンスク哥薩克(本部アクモリンスク市)、セミバラチンスク哥薩克(本部セミバラチンスク市)、シビール哥薩克(イルクーツク市)、後貝加爾哥薩克(チタ市)、黒龍哥克(ブラゴヴェチンスク市)、烏蘇里哥薩克(イマン市)の六部に分たる。而して其の總人口五十五萬に達し其の所轄用地は六百五十萬デシヤチンに達せり。

更に全露西亞に亘りて哥薩克の總人口を求むれば歐露及亞細亞露西亞に於て約七百二十萬を超え、各地別に全人口に對する比率を示せば左の如し。



全人口に對する比率

地名	全人口に對する比率
ドン地方	四〇・〇%
ウラル地方	一七・七%
オーレンブルグ地方	二二・八%
クイーバン地方	四一・〇%
テレウク地方	一七・九%
アストラハン地方	一・八%
黒龍地方	一七・九%
後貝加爾地方	二九・一%
大平洋岸	六・二%
イルクーツク地方	一・一%
アクモリンスク地方	一〇・九%
セミバラチンスク地方	四・二%
セミリエチンスク地方	三・〇%

彼等は三四歳にして既に馬背に乘せられ、居常恰も馬匹と共同生活を營めるが

如くなれば、其の馬を御するの術は技神に入るの概あり、寧ろ馬匹と同一體となると謂ふも不可なし。彼等は一人十數頭を御し尙困難を感ずることなく、黒龍烏蘇里地方に於て數人の哥薩克青年軍歌を高唱しつゝ、百數十頭の馬匹を御しつゝ之れに飲ふが爲め河岸に行く勇姿は、旅行者の屢々目撃する所なり。されど、有事の際戰場に赴くに當りては、多く其の子弟のみ之に任せしめ、家長は家に留つて子孫繁殖の任に當るの掟あり。

哥薩克は露國に在つて宛然一國を成せるの觀あり。即ち其の行政系統は、普通行政とは全然別箇の系統を有し、哥薩克兵村には、哥薩克村長あり、其上に郡長に該當する哥薩克首長あり、更に其上に哥薩克地方總首長、全哥薩克總首長あり、全哥薩克總首長は元首に直屬す。この哥薩克の長官を稱して「アタマン」と謂ふ。此名稱の基源は、アレキサンダー二世の皇子嘗て哥薩克の總長官に任せられしが、其の皇子の名アタマンは自然に哥薩克總長官の名稱として呼ばるゝに到れるに起る。故に其最初に於ては「アタマン」は哥薩克總長官の稱なりしも、其後各地方各部落の長は皆「アタマン」と稱するに至れり。

されど一般に哥薩克の現狀は、往時の活氣を失ひて、現時の戰術の如きも之を解



するものなく、平常遊惰にして酒色を事とし、而かも舊時の習俗を保ちて倨傲人になり下らざる暴慢なる野生的蠻風を脱せず。殊に西部西伯利の哥薩克は、多く地主となり若くは土人相手の商業をも營み、財政的の富裕は益彼等をして遊惰に導きつゝあり。さればその兵力の強の如きは今日に於て到底望み得る所にあらず。邊境警備の屯田兵と稱すれども、現状を以てしてはその任を完ふすべきや否や著しく疑はざるを得ず。

今進んで西伯利各地の哥薩克につき更に詳細なる現状を索むれば左の如し。

一、烏蘇里哥薩克。

一八九七年黒龍哥薩克軍團長(時の總督)はハバロフスク市より西方綏芬河上流に到る延長八百露里の間に於て、烏蘇里、スンガリの兩河系及凱興湖の西及南岸一帯の地即支那國境に接する土地全體八萬九千九百六平方露里を在沿海州哥薩克軍團の所屬地と定めしが、目下之を六區に分ち、各區に現役將校の區長を置き、軍事情政及警察事務を掌理せしめ、其行政經濟の事務は州知事の監督に軍事及裁判の事務は軍團長の監督に屬せしむ。此地方に於ける哥薩克の人口は出産率高きのみならず、農民より轉入する者少からざるを以て逐年増加し、一九一四年には四萬千

二百二十人にして内三萬二千三百九十三人(男一六、八、一、二)は軍籍に在り。彼等の三、四割は農民又は土人と結婚し、多くは政府保護の恩典に忤れ惰弱の弊風に陥り自己の所有地は鮮人等に賃貸して安逸を貪るに至れり。

而して彼等の有する農牧地は六十一萬六千四百五十「デシヤチン」にして、而も藪付面積は三萬七千八百八十「デシヤチン」に過ぎず。その所有山林地の面積は莫大にして實に六百五十萬九千七百七十三「デシヤチン」を算す。一九一三年に於ける哥薩克の總收入二十九萬九千六百九十三留にして、總支出四十萬七千二百六十三留に達し、哥薩克一名の平均收入十七留八十三哥、支出二十四留三十三哥にして、一名平均六留四十哥の負擔を出したり。

哥薩克兵村の驛傳は請負にて其他河川沼湖の渡船渡橋賃等は彼等の特殊收入となり、而も當事者の收入に屬す。一九一三年には二十五萬千六百四十四留の收入に對し、支出十七萬三千六百九十八留にして、當事者一名に付四留五十九哥の利益を擧げたり。

教育機關は二級編制の初等學校六十六、生徒二千七百十八あり。衛生は軍團醫一、區醫三、產科助手三、校醫助手十人等を以て主腦とし、小規模の病院三十六箇あり。



家畜衛生に關しては獸醫一區獸醫三、助手三十六名のみ。人員に對し家畜數に比しその數少なきこと、如何に設備の不足なるかを思はしむ。犯罪は、貧困の極に出づる竊盜のみにして、其數も一年僅に數百件にすぎず、都會の犯罪状態とは全然其趣を異にせり。

### 二、黑龍哥薩克

哥薩克は、黑龍江の起點ボクローフスク埠頭よりザベローフスク兵村に至る迄千八百餘露里の間、黑龍江の左岸に沿ひ平均二十露里の範圍に於て部落を成し定住するの外、千九百一年以來セヤ河の方ホルモードジンを領す。其總面積五百七十八萬デシヤチン餘にして村邑十一あり。各邑に主長を置き更に之を四區に大別し區長を置き其上に軍團長ありて之を總理す、軍團長は州知事之を兼ね常にブラゴウエシチエンスク市に住す。哥薩克一般の職業は前述の如く農牧及漁業なれども此他彼等の村邑を通過する郵便路の郵便事業は哥薩克兵村保護の一方法として殆ど之を獨占せしむ。而して之より生ずる収入は一時年額六十萬餘留に達せしが黑龍鐵道開通以來減退し一九一四年には政府の驛傳維持費として支出せる四十二萬四千九百餘留の外、乘客貨物よりの収入は殆ど皆無なりしと云ふ。

### 三、後貝加留哥薩克

本州の哥薩克は蒙古國境に沿ひ、西はクリエウスキ附近より東は滿洲里に至り、更にアルグン河に沿て河口に降る間に三露里乃至二十餘露里の幅を以て土地を所有する外、スレーチエンスク、ネルチンスク、ネルチンスクザラートの御料地の大部並にチタ市外カンダローフスカヤ驛附近に若干の移住地を有し其總面積千萬デシヤチン以上に及び本州在住哥薩克の爲め政府の投資せること一九一〇年に於て九十六萬留以上に達せり。

### 四、イルクーツク哥薩克

本縣に於ける哥薩克はイルクート河上流蒙古界に近きジムカ、ハリワートツンキンスク及ブイストリンスカヤに若干の移住を見る外、イルクーツク市外並にクツリーク驛附近にも多少の移住者あり、其の總面積二百デシヤチン以内なりと云ふ。

### 五、セミバラチンスク州哥薩克

哥薩克はオムスク市よりマロクラスノヤルスクに至るイルツイシユ河の沿岸兩側二十露里乃至四十一露里の幅員を有する延長千百餘里の地とカルカラリンス



ク市及バヤンアウリスカヤ邑並にザイサン湖附近等に配布せられ、面積五百六十萬デレヤチンの地區を占據すと雖、農牧其他の諸業は一九一〇年以降毫も發達の跡なきが如し。

#### 六、アクモリンスク州哥薩克

哥薩克はオムスク及ペトロパウロフスク兩郡、オムスク鐵道西伯利亞鐵道の沿線兩側十露里間及イルツイシ河の沿岸並にコクチエタウスク郡の大部、アトバサル、アクモリンスク兩市の附近一帶の地方に殖民し面積五十五萬五百二十三デシヤチン、人口十一萬五千餘に達し現にオムスク第二軍區に隸屬すと雖もセバラチンスク州の一部に述べると同じく未だ著しき發達を見るに至らず。

#### 第二、土地制度

十七世紀の自然經濟時代に於ては、住民を有せざる空地は歐露に於ても何等の價値を有せざりしが、殊に異常なる土地過剩にして寒疎荒蕪を極むる西伯利にありては、政府は茲に土地制度を布き若くは國家的功勞に對して土地を賞賜すること能はざりき。従て高級なる國家的勤務者(官吏軍人其他)は西伯利には一時的に在職するのみにして土地を受くることなかりしが、貴族の子弟其他の下級者は孰

れも一家の經濟に必要な程度に於て市街附近の土地を與へられたり。

されど國家は西伯利に於ける土地全部を國有に屬する旨を布告し、同地方の唯一の地主となりて専ら自己の意圖の儘に土地を處分するに至れり。農民の農業勞働及其の國家に對する義務を履行せしむるの必要を感じて、政府は自己に最も便利なる如く一農村の土地共同使用及共同經理の法を設けしが、この二者を條件として義務履行を要求し即ち穀物の播種及收穫時を同一期日に定め就て義務的の播種法をも定め又之に依りて家畜利用權及實施義務(牧場畑地の分界周柵の共同設備及保持)をも定めたり。されば是は義務の特權的性質を有する連合保證の範圍と基礎とに於て自治を行ふ農民自治體にして、極めて實用的の理由と國家經濟の見地より創始されたる農村の土地共同使用法は、時勢の變遷に伴ひ幾分の變化を見たりと雖も今尙西伯利各地に現存し、西伯利の諸村落に於ける經濟組織に著しき特色を附加したり。今尙農民間には、諸税金及體力を以てする夫役の代償として土地共同使用をなすものと解せらるゝも、本質として農民は唯使用權のみを有して土地を占有するに過ぎざるなり。されど一般に於て、事實に於ては土地の所有權を有す。而して殆んど西伯利全土の大半を領する曠大なる國有地域を



除ける土地は所有者に就きて之を分てば六種に分たる。一は御料地、二は哥薩克用地、三は地主所有地、四は舊住民用地、五は新移民用地、六は異種族民所有地なり。之を各種の土地状況を詳述すれば左の如し。

(一)御料地(現時は國有地に編入せらる)

元と帝政時代の帝室<sup>カレネツ、エツ、オツ、エリ、チ、エ、ス、ツ</sup>内藏寮の所管に屬し、革命後は政府により沒收を宣言せられ國有に歸すべき旨布告せられしと雖も、レニン政府の威令及ばず、從て其の實施に至らず、現今所屬未定の儘に在るものなり。全西伯利に於て約四千三百萬「デシヤチン」あり、トムスク縣、エニセイスク縣、セミパラチンスク州等の亞爾泰山に近き地方に多く、又後貝加爾、ネルチンスキー郡内に多し。亞爾泰のデミトリイ農地はエリサベタ女王の勅令に依り同女王の名義に變更せるものにして、更に之に附近に於ける森林、耕地、村落の多くを附加したり。後貝加爾に於ける御料地は、一八九九年官有地より轉換したるものにして、約九十萬「デシヤチン」に達す。亞爾泰に於ける御料地は、國庫より四十九年間「デシヤチン」に付き二十二哥の使用料を内藏寮に支拂ひて、移住民用地に供せられ居たり。トムスク縣にては一九一〇年以來御料地内への移民計畫實施せられ、一九一四年迄に約三十萬の移民を御料地

内に收容したり。而して帝政時代の政府は一九一〇年頃より西伯利四縣内に於て特別なる國庫收入を得んとして、二千七百萬「デシヤチン」の森林地及二百萬「デシヤチン」の曠野地を内藏寮より借下げ之が拓植に勗めたり。

(二)哥薩克用地

哥薩克屯田兵の用地にして、西はキルギス地方寄りの歐露國境より亞爾泰地方に延亘せる所謂十露里地帯の帶狀地域及其の専用地約五百萬「デシヤチン」(二人二十五「デシヤチン」宛)より、東は後貝加爾、黑龍、沿海の三州に、支那國境に接せる地方を亦帶狀に劃し、哥薩兵村用地に當てられ、後貝加爾、黑龍、烏蘇里、哥薩克は千五百萬「デシヤチン」の地域を有し、最近一人に對し三十「デシヤチン」の分與行はれその所有權確立せり。

(三)地主所有地

政府は十八世紀中除外例として、主として現今のトボリスク縣内に於て若干の官吏に土地を給與したるを以て、彼等は之等の土地に自己の小作農民を歐露より移入せり。斯くて彼等は歐露に於ける農奴制度を西伯利に輸入し、茲に西伯利に於ける地主制度及農奴組織の基を開けり。爾後西伯利に來る官吏、軍人、教師等の



國家的勤務者は若干の土地を給與せられ、地主所有の土地は漸次増加するに到れり。されど此等の土地は面積極めて狭小にして、その小作農民の如きも農奴解放の際に於て僅かに三千人を算するのみなりき。されど漸次増大し來りし地主所有地の面積は一九一三年に於て五十萬「デシヤチン」強に達し、之を各縣別に見る時は、トボリスク縣内二十八萬四千「デシヤチン」、トムスク縣内二萬六千「デシヤチン」、エニセイスク、イルクーツク兩縣内合計十萬「デシヤチン」、黑龍州内一萬六千「デシヤチン」其の他地方内約八萬「デシヤチン」なり。而してこの地主數は全西伯利にて千二百人に達せず、内約半數はトボリスク縣内にして、黑龍州三百人、爾餘三縣にて二百二十人、爾餘は其他地方に分散せり。

更に此項に於て特記すべきは、西部曠野地方(キルギス地方)の哥薩克出身將校及官吏(約五百人)の徒が有せる土地の性質なり。之等の土地は、多く土人及新來露農民に貸付し耕作せしめ、最近に至り其の所有地を哥薩克外の何人にも自由に賣却し得るの權利を與へられたり。而して其の總面積は約五十八萬「デシヤチン」なり。

#### (四)舊住民用地

政府の移民計畫により西伯利に送られたる移民以外の自由移民は、政府移民計

畫の實施せられし以前西伯利に渡來せるものは悉く舊住民として認められ、其の以後に於ても西伯利に二十五年以上居住する露人は舊住民として取扱はれ、都會居住者以外の舊住民は略四百萬に達せんとす。之等は土地林野等を取特權によりて無制限に使用することを許されしが、十九世紀の中葉、測地的整理事業の開始せらるゝや、一八九八年より最新式の測地法開始せらるゝ其の使用土地は漸次制限せらるゝに到り、以後一人に付土地十五「デシヤチン」森林三「デシヤチン」と定めらる。されど測量技師の不足と、作業の複雑なるとの爲に、土地整理を行ふべき土地面積四千七百萬「デシヤチン」中、最近急測地帯を約六百萬「デシヤチン」に限定し、而も其の一部は尙ほ未測地帯に屬せり。爲めに西伯利農業地帯に於ける舊住民の所有する一人當地積は全く不同にして、多くは十五「デシヤチン」を遙に超過する幾倍かを占有し、規定の十五「デシヤチン」を有するが如きは極めて稀なり。

除外例として黑龍州は、一九〇一年に到る迄、一人當百「デシヤチン」宛を給付せしが、同年以後始めて十五「デシヤチン」宛を分與するの規定を用ひたり。されば一九〇一年以前に給付を受けたる農民は、新渡來者に比し著しき特典的地位に在り。

#### (五)新移民用地



新來移民に給付せられし土地にて、一人當十五「デシヤチン」宛分與せられたるものなり。されど深林地方又は曠原地方に於て新たなる一村を創設する時は、一人當の土地分與定額十五「デシヤチン」以上に達する時其の餘剩部分は該村有として編入せらる。

#### (六)異種民所有地

西伯利に於て土地所有の最も特殊なる範疇をなし、彼等の所有權は永年の使用と慣習に依りて認めらるべきものにして、一種の使用權に他ならず。されば彼等の所有土地は大部分政府の登録をも受けず、また土地證券をも有せざるなり。殊に遊牧民族は一定の地に定着せざるが故に、土地所有權の確立せらるゝものなく、亦之を確立するの要をも認めざるなり。されどこの浮動定まらざる彼等の土地所有が決定せざるは、彼等を衰滅に導く最大原因にして、彼等は爲めに從來の故郷をも逐はれて益々僻遠なる奥地に遁入し行かざるを得ざるの悲境に陥りつゝあり。尙一定地に定住して村落生活を營む者と雖も、其の種族民全部が土地所有權を有するにあらず、一部落若くは一種族の宗族之を有するのみ。之等代表者は一二家族のことありて、曠大なる面積の土地を所有す。その例の著しきはオステヤ

ギ族及びブリヤート族等なりとす、

以上六種の所有地を見たりしが、尙看過すべからざるは、先取特權に依る土地僭取なり。斯る土地の僭取的占有は、今や唯若干の最も人煙稀薄なる亞爾泰地方の僻隅中部の鬱林地方及黑龍州内に於てのみ行はるゝにすぎざれども、村落若くは都邑に近接せる耕作容易なる地方は先取特權を認められざるに到れり。されど最近黑龍州に於ては先着移民は當該移民區内の土地其他を新移民の到着迄使用するを認許せられ、同州の森林及草地の先取特權に依りて利用せらるゝもの蓋し少からざる面積を有す。西伯利に於て大部分の森林草刈場等は今尙悉く先取特權に依りて利用せらる。然れども近時政府は土地測定事業の進展に伴ひ漸次この慣行の撤廢を期せんとし、この特權は遠からず失はれんとせり。然るに露國大革命の勃發は、延いて西伯利各地の秩序を紊亂せしめ、政權の所在明らかならず、民心の歸向すべきものなきに到りて、盛んに此種の先取特權は西伯利の地に行はれつゝあるものゝ如し。

### 第六節 政治、教育、衛生、宗教

#### 第一、政治



西伯利は今や露國革命の變亂に蔽はれて秩序著しく紊亂し、行政組織の如きも全く舊帝政時代の觀を失へりと雖も、各地方團體の如きは依然として繼承せられ、その政治的運動は多くこの地方團體を基礎とするを常とす。されば若し西伯利の政治運動乃至活動に就きて知悉せんとせば、先づこの地方團體の性質に就きて攷査の歩を進めざるべからず。而して攷査を遂げんには帝政時代の行政組織に關して檢覈する所なかるべからず。

### (イ)沿革

西伯利の行政組織は一七〇八年縣政を布きトムスク外二縣を設置せるに始原を發す。而して茲に派遣せられたる知事は民政軍政の兩面を管掌し、當時未だ新附の異種族時に叛亂を醸すの虞多かりしかば、戒嚴令を以て全地方に臨みたり。

第二期の行政組織は一八一九年スペランスキーが東部西伯利總督に就任せる時に起る。此の時始めて西伯利は東西兩部の管轄を異にし、行政區劃も稍分明となり、行政組織も著しく進化したり。されど尙攻略時代に屬せると、流刑移民の送致其數を加へ來れるに依り、秩序の紊亂を免かれざりしかば、總督は依然軍政民政兩部を管掌し、戒嚴令の撤廢を見るに至らざりき。

一八四七年ムラビョフ中將の命せられて東部西伯利總督となるや、勢力の扶植、領土の獲得に力を専らにし、各地を巡視して要害を探り、黑龍江口を遡る二十五露里の地にニコライエフスク市を建設し、之れを軍港となせしも、清國に對する防備上尙兵力の微なるを感せしかば、急激に屯田兵制を布き四百五十の民家を以て哥薩克兵村を建設し、邊境の防備に當らしめたり。而して一八五六年沿海州を創設し、沿海政廳をハバロフスク市に置き自ら茲に駐在したり。而して其地域は勘察加半島オホーツク沿海地方及黑龍江口附近に過ぎざりしが、ムラビョフは巧みに口實を設け構論威嚇以て清國委員を屈服せしめ、一八五八年愛琿條約を締結し、黑龍江右岸全部を沿海州に收めたり。尋で一八六〇年北京條約の締結あるや、烏蘇里江東日本海に到るの地域は露領に屬し、之をも沿海州内に收めたり。

斯くて沿海州の地域増大するに到り、東部西伯利の管轄區域著しく廣大となりしかば、ニニセイスク、イルクーツク、ヤクーツクの三州二縣を分割し、之を東部西伯利總督府の管轄に移し、後貝加爾、黑龍江の兩地方及沿海州を以て獨立の一政治區域となし、ハバロフスクに沿海黑龍總督府を設置し、更に一八六九年以來流罪地と指定せられし樺太島をも一八八四年獨立の一州となし、該總督の管轄下に收めた



り。

露國の東方侵略の歩漸次滿洲に進み、東清鐵道の布設、大連灣旅順口の租借ありて、滿洲全土は事實上露國の占領に歸せしかば、旅順口に極東太守府を開設し之等侵略地域の統轄に當らしめたり。然るに日露戰役に依り露國勢力南滿より驅逐せらるゝに及び、旅順の極東太守府は消滅して極東西伯利の統轄に當るものは沿海黑龍總督府のみとなれり。

されど日露戰役は露國の東方經營に對して著しき刺戟となり、露國は銳意極東に移民を集中し、以て一方利源の開發を計ると共に邊境の防備に當らしめたり。斯くて移民は殊に沿海州に蝟集し來り、政務漸く多端を加へんとせしかば、一九〇九年朝鮮國境よりペーリング海峡に達する狹長なる沿海州の管轄區域を分割し、新たに北緯五十七度以北の沿海地方を以て勘察加州を創設し、州府を勘察加半島の東岸ペトロパウロフスク市に定めたり。

(口)行政區劃

帝政末期即ち一九一七年一月に於ける西伯利の行政區劃に従へば、西部西伯利の本國內務省の直轄に屬するトムスク縣とトボーリスク縣と、オムスク所在の曠

原地方總督府所管の阿克モリンスク州及びセミパラチンスク州の二部分に分れ、東部西伯利はイルクーツク所在の東部西伯利總督府の管轄に屬するイルクーツク縣、エニセイスク縣、及びヤクーツク州を包含し、極東地方即ち後貝加爾、黑龍、沿海、勘察加及樺太の五州は、ハバロフスク所在の沿海黑龍總督府の管轄に屬せり。而して各州縣は多くの郡、地方及び市に分れ、郡及び地方は又多數の村及部落に分る。今州縣別に郡、地方及び市の名を掲ぐれば左の如し。

一、西部西伯利 曠原地方總督府所管(總督府駐在地オムスク市)





露國內務省所管



二東部西伯利

東部西伯利總督府所管(總督駐在地イルクーツク市)









## (八)行政組織

西伯利は、行政組織に於て統一的の最高機關を有せずして、特別行政の下に各總督府は本國政府に直屬す。總督は舊來の沿革に順じ民政と軍政とを總轄し、州縣知事を董督す。州縣知事は極東地方を除きては悉く文官にして兵權を有せず、その下に郡長若くは地方長隸屬す。郡長地方長は行政警察の權を行ひ、各村及び部落の統治に任ず。各村及部落は町村制に則り公選による主長を戴くを本義とするも、公選機關の不完全なる地方多きが故に従て上級官廳より命せられたる官吏たること多し。極東地方の行政は他地方と其趣を異にし、他地方の著しく寛暢なる施政状態なるに反し、其の施政の嚴刻にして緊張せるは、他地方と共に同一國の政治下に在るを疑はしむる所多し。即ち東部西伯利其他地方の州縣知事が文官なるに對して極東に於ては多く武官(陸軍中少將級)を以て之に任せり。而して貝加爾湖以西地方は西伯利鐵道沿線のみ戒嚴地帯なるにすぎざるに、極東に於ては戒嚴地帯は鐵道沿線に止まらず如何なる邊僻の地と雖も全部之れに編入せらるゝを見る。

哥薩克居住地方の行政は特別の體を成し、各地方は區に分れ現役將校區長とな

り、區長は軍事行政及警察事務を總攬する軍團長の指揮に従ひ、行政經濟の事務は州縣知事の監督に、軍事及裁判の事務は軍團長の監督に屬す。而して軍團長は州縣知事の兼ねることあり。黑龍州及後貝加爾州に於けるが如し。

又土人部落地方(主にヤクーツク州)にありては、他地方の如き町村別に依らずして、大村(ウルース)に選舉せられたる首長(タイオン)の自裁に任ず。遊牧地方には又土人管理廳を置きて土人に關する諸般の事務を管掌せしめ、州縣知事に屬せしむ。

各州縣には又州縣會の如き自治的の機關を有すれども、未だ完全なる自治體を成さず半自治的のものにすぎず。稍開明に赴ける都市に在りては、市會の組織あり、市會議員選舉資格を所有家産によりて定めて之を三級に分ち、各級同數の議員を選舉し、市長はこの市會の選出に係り、殆んど完全に近き自治體をなせども、他の開明の度低き都市は僅かに半自治的の市會を有するのみ。されど哥薩克の兵村は全くの自治にして經濟行政悉く獨立なり。又土人居住地方は曠野會議と稱する土人最上の管理機關あり、種族の酋長及委員等相謀りて種族内に起る細大の事件を審議す。

## (三)裁判制度



西伯利に於ける裁判事件の最高決定機關は本國の最高法衙にあり。東部はイルクーツクの控訴院、西部は本國の控訴院の總管に屬し、其下に重大なる犯罪及複雑なる訴訟事件を審理するものに地方裁判所、輕罪若くは比較的簡單なる訴訟事件を審理するものに治安裁判所あり。地方裁判所は治安裁判所の判決に對する控訴を受けて之を審理するの權あり。されど哥薩克軍團地方にありては、各級の自治體の首長之を兼轄し、土人地方にありては曠野會議之に當る。

今西伯利に於ける地方裁判所治安裁判所の所在地を擧ぐれば左の如し。

甲、地方裁判所所在地

- セミバラチンスク市
- トボーリスク市
- オムスク市
- トムスク市
- バルナウール市
- ヤクーツク市
- クラスノヤルスク市

乙、治安裁判所所在地

西部西伯利

- カンスク市
- イルクーツク市
- ペトロパウロフスク市
- 浦鹽斯德市
- ブラゴヴェシチエンスク市
- チタ市

- セミバラチンスク市
- ザイサン市
- コクベクト市
- パウロダール市
- トボーリスク市
- タラ市
- イシム市
- クルガン市
- チユーメン市
- オムスク市
- ペトロパウロフスク市
- アクモリンスク市
- コクチエタウ市
- トムスク市
- バウナウール市
- スラウゴロド邑

東部西伯利

- ズメイノゴールスク邑
- ヤクーツク市
- クラスノヤルスク市
- ミヌシンスク市
- カンスク市
- イルクーツク市
- ウヂンスク市
- バラガンスク市
- 極東地方
- ペトロパウロフスク市
- ブラゴヴェシチエンスク市
- アレキサンドルフスキー町
- ニコライエフスク市
- ハパロフスク市
- チタ市



ネルチンスク市  
 アクシヤ市  
 スレーチエンスク町

キジガ市  
 オホーツク市  
 マルコフ邑

(ホ) 收税機關

西伯利に於ける國稅の徵收は大藏省の直轄にして各州縣首府に收税所を置き  
 て收税事務を行はしめ、收税長之が監督に任ず。税關は開港場地及樞要貿易地に  
 設置せられ大藏省に直屬す。

更に國財廳ありて國有財産及漁業税等の國庫收入事務を行ひ、税務所は消費税  
 に關する事務を管掌す。

今國財廳税關所在地を擧ぐれば左の如し。

甲、國財廳所在地

ハバロフスク市

トポリスク市

乙、税關監督部所在地

オムスク市

浦鹽斯德市

トムスク市

丙、税關所在地

イルクーツク市

西部西伯利

オムスク市

スレーチエンスク町

クラスノヤルスク市

マツツエフカヤ邑

ザイサン市

ブラゴヴェシチエンスク市

コシヤガーチ邑

ボクラニチナヤ邑

ピースク市

ハバロフスク市

東部西伯利

浦鹽斯德市

イルクーツク市

ニコライエフスク市

極東地方

丁、税務所所在地

恰克圖町

ハバロフスク市

アクシヤ市

クラスノヤルスク市

第二、教育

西伯利に於ける教育に對しては、露國政府は之を獎勵すること既に久しきに及  
 ぶと雖も、初等教育の如き完全なる學級制を有するもの少く、多くは寺小屋風のも  
 のにして、その學級制を有するものも二級編制程度のもの最も多し。中等教育の  
 發端は一八一九年スベランスキーが東部西伯利總督に任せられし時に發す。彼  
 は教育獎勵に盡瘁し所々に小學校を起さしめ、更にその就任の翌年イルクーツク



市に中學校を開設せり。一八二八年に到り露國政府は西伯利の教育を振起せしめんと欲し、各州縣に令して中學校を開設せしむべく命じたるも、其の開設せらるゝもの少く、一八七三年トボリスク、イルクーツク、トムスク、グラスノヤルスクの四中學の生徒數も僅かに八九八人に達せるのみ。されど此年以來學校の開設せられしもの漸く多く、チタ、キヤフタ、ブラゴヴェシチエンスク、ヤクーツク等に整頓せる中學の開設せらるゝありて、西伯利教育に於て一期を劃せり。

更にチューメン、トムスク、イルクーツク等には甲種程度の工業學校の設立せらるゝあり、オムスクには趣を異にせる工藝學校開かれ、又移民計畫の促進あるや農林業教育の要を生じ之に關する中等乃至初等實業學校の開設を見るに到れり。一方又西伯利鐵道の工事進捗すると共に各地に鐵道學校開設せられ、従業員の養成に當れり。

西伯利に於ける女子教育は、一八四五年イルクーツクに始めて女學校の開設を見たるより急激の進歩をなし、男子中等機關の進まざるに對し其の校數の多きは寧ろ奇異なる觀を呈す。浦鹽斯德に開設せられたるは一八六六年なりき。

西伯利に於ける高等教育機關の開設は永き希望なりしも、先づトムスクの高等

工業學校の開設あり、尋いで一八八七年トムスク大學の開設を見西伯利は茲に最高學府を有するに至れり。政府は更に第二大學の開設を計畫し、殊に浦鹽斯德市民は之が開設を期せんとして大に活動しつゝありしが、適歐洲大變亂の勃發となり、更に革命の變亂となり、遂に之が計畫は實現を見ずして終れり。されど浦鹽斯德所在の東洋學院は東洋研究に資する専門語學校にして、極東唯一の最高學府たり。又女子大學は、トムスク市に設置せられ、女子教育の最高機關たり。

トムスク大學は醫、文、法の三分科より成る帝國大學にして、一九一四年に學生九百六十二、聽講生男子三十八、女子百二十名を有し、高等工業學校はニコライ二世陛下高等工業學校と稱し、學生千百七十名、聽講生男子二十五、女子三名を有し、東洋學院は百五十三名の生徒をせり。

其他航海學校、幼年學校更に師範學校の設けらるゝあり、一方國教會其他の教會經營に係る多數の宗教學校あり。今中等教育以下の教育施設を各州縣別に表示するに左の如し。

(一九一四年末現在)

州地名	中學校	師範學校	實業學校	鐵道學校	航海學校	宗教學校	女學校	小學校	小學兒童數	兒童數割合
後貝加爾	二	一	四	一	三	四	七	一四	三三、〇二五	(全人口の)三、五%



黒龍江	「總計	八	校	」	三七〇	二五、〇〇〇	(學齡兒童の)二七・〇%
沿海	二	一	六	一	五	六二三	三三、六九三 (全人口の)六・〇%
樺太	一	一	一	一	二	?	?
勸察加	一	一	一	一	五二	?	?
イルクーツク	一	二	四	一	二	五二〇	三二、〇〇〇 (全人口の)〇・五%
ヤクーツク	一	一	一	一	一	一三四	二、九一〇 (同)〇・六%
エニセイスク	三	一	二	一	二	八三四	四八、二二八 (同)〇・五%
トムスク	二	二	「總計二七	」	四	八	一九三二 一八、六一六 (同)市部)八・〇% (郡部)二・八%
トボーリスク	三	一	四	一	三	一、三九三	六三、三〇〇 (學齡兒童の)四四・〇%
アクモリンスク	「總計				」	?	四九、三〇九 (學齡兒童の)一六・〇%
セミパラチンスク	一	一	一	一	二	一九八	一一、六〇九 (全人口の)一・二%

第三、衛生

西伯利各地に於ける衛生施設は極めて不完全にして、市部と雖も道路粗惡にして泥濘甚しく、加ふるに水道下水等の設備さるゝもの殆んどなく、その設けられたるものはトムスク、クラスノヤルスクにすぎざるも而も極めて不完全なり。人口七萬以上に達する大都市と雖も汚物の除去道路の精掃等は勿論放擲の有様なるのみならず、畜類の死屍は街上に横りて其の腐敗に至るも敢て意とせざるが如く

一般衛生思想甚しく幼稚なり。全西伯利に於ける醫師數は一千五十人(一九一五年)に達すと雖も其七八割は各市に配置せられ居るを以て村落地方に於ける醫藥の狀態は二萬人に對する一人弱の比率に在る地方もありて實に慘憺を極め、寒村の如きに到つては數年其の影を見ざる所ありと曰ふ。

而も醫師獸醫は政府の費用を以て各主要地(殊に移民地)に派遣せられ、醫藥の料金を無償とし尙派遣地外の寒村には一年一回若くは二回巡回検査を行はしめ以て地方防疫のことに當れりと雖も、怠惰無能にして職務を疎外し、病人の診察すら粗雑緩漫を極めたり。

毎年支出する衛生費は頗る多額に、上れるも、其經營宜しきを得ず、且つ官吏の腐敗は官金公金等の着服せらるゝもの多く、之が爲めに幾多の病患にある黔黎をして斃死せしめつゝあり。警察署及郡役所には官任醫師及看護人配置せられ、且つ一般衛生部の設あれども、唯名のみ過ぎざるの觀あり。

露國內務省の直轄に係るトムスク、トボーリスク二縣は、稍衛生設備の體を備へ傳染病其他の病患による死亡率少しと雖も、其他各州縣の市部を除く郡部地方に於ては、多幸なる運命を享受するものゝ生殘するにすぎずして、最も多幸なるは



比較的風土氣候に訓練せられたる土人種族にして、最も薄幸なるは移住日淺き新來の移民なりとす。

更に家畜衛生に就きて見れば、畜産業を以て主要産業の一とする西伯利に於ては、其の多數なる家畜類をして殆んど天然の支配するに任かせたるの現狀にあり。獸醫の如き多くは各郡に派遣せられたる獸醫官にして、開業して一般の診療に従事せるものは極めて少し。されば屠殺獸肉の如き極めて危険の度多く、屠殺獸十數萬に對して之が検査に當るべき獸醫四十に満たざることあり。而して西伯利奥地地方の僻陬の地に於ては家畜の疫病に對して全く救濟の道なき所少しとせず。

左に西伯利に於ける衛生施設を表記する所に由りて之が實狀を明らかにするを得べし。

(一九一四年末調)

州縣名	病院數	醫師數	看護人、婦數	産婆數	産科助手數	齒科醫數	同助手數	藥劑士數	獸醫數	同助手數
後貝加爾	三一	九五	二〇九	五八	—	二六	—	四五	三九	三三
黒龍	四三	四六	一一七	五九	—	二二	—	三三	三六	四四
沿海	七九	一二七	總數	三五八	—	二六	—	九八	?	?
樺太	—	三	—	—	—	—	—	—	—	—
勘察加	病院一	醫務所一〇	醫師は出張するのみ施設不完全を極む	—	—	—	—	—	—	—

イルクーツク	八六	一五〇	不明	—	—	—	—	二五	一四	—
エニセイスク	?	一二三	總數	三〇三	—	—	—	?	一六	—
ヤクーツク	六	一七	不明	—	—	—	—	—	六	—
トムスク	一三七	二九八	總數	五五九	—	—	—	—	六八	—
トボーリスク	八四	七六	一九六	四一	—	—	—	—	四二	四五
アクモリンスク	一三	七九	總數	二〇〇	—	—	—	—	九三	四〇
セミパラチンスク	二七	三四	一五	八	—	—	—	—	二四	二四

第四、宗教

西伯利に於ける宗教は、北部及東部の土人地方及南部山地々方を除きて他は悉く希臘正教なり。この他天主教、新教、猶太教等の基督教あるもその信徒數は極めて微々たり。而して土人は一般に原始的なるシャーマン教を奉じ、中央亞細亞に隣接せる地方に於ける土人は回々教、蒙古接壤地方の土人は喇嘛教を信するものあり。(シャーマン教に就きては本章第二節に於て述べたり。)

露國の西伯利經營策の遂行に對して最も力を致したるものは、希臘教の僧侶なり。彼等は西伯利遠征軍の後に從ひ直ちに西伯利の地に入り、各地に於て土人異種族民に向つて教義宣傳を企てたり。されば十七世紀の前半に於ける人口調査書を見るに、住民の多くは各階級の僧官に滿さる。而して彼等は人跡到らざる奥



地に入りて寺院を建て、或は土人を娶りて之と婚し、密接不離の關係を作り、一方教義の宣傳を圖ると共に一方文化の進歩を促し且つ露國化するを速めたり。斯くて先住民族は漸次之等の熱心なる宣教者等により、精神的に露國化せられ、露國の西伯利經路は茲に徹底的達成を見るに到れり。露國の西伯利經營を考察する者は到底彼等の偉功を看過する能はざるなり。後ち露國よりの移民益多きを加へ、都市の建設せらるゝもの頻りなるに及び、希臘教は益盛んとなり、都會は勿論邊僻の寒村に到る迄寺院の建立せられざるものなく、行くとして尖塔日に輝くを見ざるなきに到れり。されど西伯利に於ける露國人の悉くが必ずしも希臘教徒なりとなすを得ず。猶太種の露國人は素より、流刑移民中政治囚に屬する者は多く事實に於て無宗教なり。而して露國の禁教モロカン教徒の黒龍江州に存するあり、更に新教を奉ずる者亦少からず。

抑モロカン教は、一六六六年牧師ニコンの希臘教會の規則改正案遂行せらるゝや、舊教を採守する者相合して希臘教より分離して一派を立てたるに起る。其の教義は露國政府の禁止する所なれば、政府の其教徒に對する壓迫は實に酷薄を極め、爲めに該教徒は露國內に在るに堪えずして漸次西伯利に向つて難を遁れし

が、壓迫更に加はりて漸次東方に逐はれて現時は黒龍州ブラゴヴェシチエンスク市附近に集まる。而して此の信徒には、經濟的實力を有するもの多く、同市附近の富豪を悉く網羅せるの觀あり。沿海黒龍兩州に於ては漸次盛んならんとする勢ありて、同地方に於ける陰然たる一勢力なり。同教の教規は洗禮を行はず、祕聖禮を行はざるも、豚肉、酒、煙草を嚴禁すること頗る回々教の教規に似たり。露國政府は之が祭祀を禁じ公共禮拜を許さず、該教に關する出版を禁じ、壓迫實に到れりと謂ふべし。

されど西伯利に於ける宗教にして大勢力を有するものは、依然として希臘教なり。露國の農村生活に合致したる該教は、其儘に移されたる西伯利の農村生活にも合致すべきなり。宜なる哉、哥薩克兵村若くは奥地の移民村落にありては、強く而して熱心なる信仰者の多くを見るを常とす。各都市にありては寺院は、最も大なる建築物の一をなし、之が壯觀を加へ、且つ學校病院其他の社會事業を經營し、俗的實力に於ても他官衙を壓するの概あり。其の寺院數は稍大なる都市にありては十數を以て數へられ、村落にありては如何なる僻村と雖も其の設けなきはなし。而して西伯利に於ける教務の中樞は、イルクーツクの希臘正教會事務局なり。西